令和６年度 東京都ヤングケアラー普及啓発事業

ヤングケアラー支援関係機関における家庭への支援等に関する調査報告書

令和７年３月

目次

1 調査概要 ･･･ 3
2 回答集計 - 認知の状況 - ･･ 12
3 回答集計 - 他機関連携・支援の状況 - ･･････････････････････････････････ 36
4 クロス集計① - 家族との接点・機関ごとのヤングケアラーに気づくきっかけ - ･････････････････ 187
5 クロス集計② - 各機関がヤングケアラーに気付く＆連携を受ける傾向 - ･････････････････････ 189
6 クロス集計③ - ヤングケアラーのいる家庭における家族構成の特徴 - ･･････････････････････ 191
7 クロス集計④ - ケアを受けている方の状況ごとの特徴 - ･･････････････････････････････ 194
8 クロス集計⑤ - ヤングケアラーのいる家庭への支援等 - ･･････････････････････････････ 199
9 結果概要 - 調査結果にみる支援の現状 - ･･････････････････････････････････ 210

調査概要

調査目的

- ヤングケアラー支援の関係機関を対象に、ヤングケアラーのいる家庭の状況や当該家庭において利用している介護等支援サービスなどを調査し、ヤングケアラーを含む家族全体の状況を見える化する。
- また、ヤングケアラーのいる家庭を必要な支援等につなげる契機等を把握するため、調査対象となる関係機関に対し、ヤングケアラーに気付くきっかけや他機関との連携の状況等を確認する。

調査対象

都内のヤングケアラー支援の関係機関を対象とする。具体的には、以下の都内機関（約6,500か所）

- 児童福祉関係（子供家庭支援センター、児童相談所）
- 教育関係（教育委員会、学校（SSW・YSW・SC））
- 若者支援関係（子ども・若者総合相談センター）
- 高齢者福祉関係（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所）
- 障害福祉関係（基幹相談支援センター、特定相談支援事業所）
- 医療関係（病院、訪問看護ステーション）
- 保健関係（保健所・保健センター）
- 生活福祉関係（福祉事務所、自立相談支援機関）
- 地域関係（民生委員・児童委員、主任児童委員、社会福祉協議会、フードバンク、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、子供食堂、民間支援団体、幼稚園・認定こども園・保育所、学童クラブ、放課後等デイサービス、児童館等）

調査期間

令和６年７月１２日から令和６年１１月２９日まで
アンケート期間：令和６年８月１４日から令和６年８月２６日まで
ヒアリング期間：令和６年９月１９日から令和６年１０月３１日まで

集計分野種別

児童福祉
・子供家庭支援センター
・児童相談所

教育機関
・教育委員会
・公立小学校 ／ 公立中学校 ／ 公立高等学校
その他公立学校（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）
・私立小学校 ／ 私立中学校 ／ 私立高等学校
その他私立学校（特別支援学校）

若者支援
・子ども・若者総合相談センター

高齢者福祉
・地域包括支援センター
・居宅介護支援事業所

障害福祉
・基幹相談支援センター
・特定相談支援事業所

医　療
・病院
・訪問看護ステーション

保　健
・保健所
・保健センター

生活福祉
・福祉事務所
・自立相談支援機関

地　域
・民間支援団体
・社会福祉協議会
・民生委員／児童委員／主任児童委員
・フードバンク／子供食堂／フリースクール／学習支援を実施している地域の居場所／学童クラブ／児童館
・放課後等デイサービス
・公立幼稚園／私立幼稚園／認定こども園／認可保育所／認証保育所

【記載の内容に関して】
・ヤングケアラーを「YC」と表記していることがある。
・自由記述の回答については、原則として原文をそのまま掲載しているが、誤字等は報告書作成時に編集を行った。

調査対象機関の詳細

分野	機関種別	概要	主な所属職種
児童福祉	子供家庭支援センター	18歳未満の子供や子育て家庭のあらゆる相談に応じるほか、ショートステイや一時預かりなど在宅サービスの提供やケース援助、サークル支援やボランティア育成等を行う機関です。	虐待対策ワーカー、子供家庭支援ワーカー、地域活動ワーカー、心理専門支援員（臨床心理士、公認心理師）
	児童相談所	児童福祉法に基づいて設置される行政機関です。原則18歳未満の子供に関する相談や通告について、子供本人・家族・学校の先生・地域の方々など、誰からも受け付けており、すべての子供が心身ともに健やかに育ち、その持てる力を最大限に発揮できるように家族等を援助し、ともに考え、問題を解決していく専門の相談機関です。	児童福祉司、児童心理司、医師、保健師
教育機関	教育委員会	都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関です。教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて具体の事務を執行しています。	
	公立学校	地方公共団体の設置する学校です。	教員、学校用務員、事務職員、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、ユースソーシャルワーカー（YSW）
	私立学校	学校法人の設置する学校です。	教員、学校用務員、事務職員、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）
若者支援	子ども・若者総合相談センター	家庭や学校、職場などで抱えてしまった悩みや不安について、こども・若者本人やそのご家族からのどんな相談にも応じる機関です。	相談員（精神保健福祉士等）、学習支援員、ソーシャルワーカー（社会福祉士等）
高齢者福祉	地域包括支援センター	地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とし、地域包括ケア実現に向けた中核的な機関として市町村が設置しています。	保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員
	居宅介護支援事業所	介護保険法にもとづき、要介護認定を受けた人が自宅で介護サービスなどを利用しながら生活できるよう支援する機関です。	介護支援専門員（ケアマネジャー）、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）、介護士
障害福祉	基幹相談支援センター	地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務（身体障害・知的障害・精神障害）及び成年後見制度利用支援事業を実施し、地域の実情に応じて入所施設や精神科病院への働きかけ、体制整備に係るコーディネート、相談支援事業者の人材育成等の業務を行う機関です。	主任相談支援専門員、相談支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師
	特定相談支援事業所	障害福祉サービスまたは障害児通所支援を申請した場合に提出していただくサービス等利用計画を作成し、障害者一人一人に必要なサービスが利用できるようサービス提供事業者と連絡・調整を行う機関です。	相談支援専門員
医療	病院	主として入院治療が必要な患者に医療を提供する施設です。	医師、看護師、助産師、薬剤師、診療放射線技師、視能訓練士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、管理栄養士、臨床検査技師、社会福祉士、メディカルソーシャルワーカー（MSW）
	訪問看護ステーション	看護師等が患者宅を訪問し、主治医の指示に基づき、患者の状況確認や必要な処置等を行う事業所です。	看護師、准看護師
保健	保健所	地域保健における広域的、専門的かつ技術的拠点として、食品衛生、環境衛生、感染症対策ほか地域住民の健康の保持増進のための各種事業を行っています。地域保健法に基づいて、都道府県、指定都市、中核市、特別区などに設置されています。	医師、保健師、衛生監視、薬剤師、獣医師
	保健センター	健康相談、保健指導、健康診査など住民にとって身近で頻度の高い保健サービス（母子保健分野を含む）の提供を担う施設です。地域保健法に基づいて多くの市町村に設置されています。	医師、保健師、看護師、薬剤師、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、栄養士

分野	機関種別	概要	主な所属職種
生活福祉	福祉事務所	社会福祉法第１４条に規定されている「福祉に関する事務所」をいい、福祉六法（生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法）に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を司る第一線の社会福祉行政機関です。都道府県及び市（特別区を含む。）は設置が義務付けられており、町村は任意で設置することができます。	査察指導員（SV：スーパーバイザー）や現業員（CW：ケースワーカー）
	自立相談支援機関	生活困窮者自立支援法に基づいて各市町村（福祉事務所のない町村については都道府県）が開設している、ワンストップ型の相談機関です。	主任相談支援員、相談支援員、就労支援員
地域	支援団体	民間で運営されている非営利組織です。社会問題や困難な状況に直面している人々を支援するために子育て支援、高齢者支援、教育支援等の活動を行う機関です。	－
	社会福祉協議会	地域住民や社会福祉関係者の参加により、地域の福祉推進の中核としての役割を担い、地域が抱えるさまざまな福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、解決を図ることを目的としています。都道府県・市町村に設置されている非営利機関です。	介護職員、生活相談員・生活支援員、職業指導員・就労支援員、介護支援専門員（ケアマネジャー）、児童指導員、保育士、看護職、理学療法士、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
	民生委員・児童委員	民生委員法に基づいて厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。社会福祉の増進のために、地域住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行っています。民生委員は地域の相談支援・援助を行います。児童委員は地域の子どもたちが安心して暮らせるように、見守りなどの相談・支援等を行います。	－
	主任児童委員	関係機関等と児童委員との連絡調整や、児童委員の活動に対する援助・協力を行っています。	－
	フードバンク	企業や個人から食品の提供を受け、食料支援を必要としている人にお渡ししする活動を行っています。	－
	子供食堂	地域の子供や保護者が気軽に立ち寄り、栄養バランスの取れた食事をとりながら、相互に交流する場の提供を民間団体等が行っています。	－
	フリースクール	不登校の子供に対し、学習活動、教育相談、体験活動などの場の提供を行っています。	－
	学習支援を実施している地域の居場所	地域で居場所を開設し、学習支援を行っています。	－
	学童クラブ	保護者が労働等により昼間家庭にいない就学児童に対し、授業の終了後等に児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場の提供を行っています。	学童支援員、放課後児童支援員
	児童館	０歳から18歳未満の年齢の異なる子供たちが一緒に遊んだり、様々な体験をしながら、共に育っていくことを目的とした地域の遊び場の提供を行っています。	児童厚生員
	放課後等デイサービス	学校に就学する障害児を対象に、放課後や学校休業日において、創作活動や余暇活動などのプログラムを通じて、日常生活動作の習得や集団生活への適応に向けた支援を行っています。	児童支援員、保育士、機能訓練員
	公立幼稚園	地方自治体が運営する幼稚園です。	幼稚園教諭
	私立幼稚園	学校教育法に基づく学校法人や宗教法人などが設置・運営する幼稚園です。	幼稚園教諭
	認定こども園	教育･保育を一体的に行う施設で､いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。	幼稚園教諭免許状保持者、保育士資格保持者
	認可保育所	児童福祉法に基づく児童福祉施設で、国が定めた設置基準（施設の広さ、保育士等の職員数、給食設備、防災管理、衛生管理等）をクリアして都道府県知事に認可された施設です。	保育士
	認証保育所	東京都独自の制度・施設です。東京の特性に着目した独自の基準を設定して、多くの企業の参入を促し事業者間の競争を促進することにより、多様化する保育ニーズに応える、新しい方式の保育所です。	保育士

調査母集団と回答件数

No	分野	詳細分野No	詳細分野	発出数（※1）		分野別回答数	回答率	詳細分野回答数	回答率
1	児童福祉	1	子供家庭支援センター	66	63	45	68.2%	42	66.7%
		2	児童相談所		3			3	100.0%
2	教育機関	3	教育委員会	768	63	247	32.2%	32	50.8%
		4	公立小学校		127			86	67.7%
		5	公立中学校		61			47	77.0%
		6	公立高等学校		19			14	73.7%
		7	その他公立学校（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）		12			10	83.3%
		8	私立小学校		55			5	9.1%
		9	私立中学校		183			18	9.8%
		10	私立高等学校		244			35	14.3%
		11	その他私立学校（特別支援学校）		4			0	0.0%
3	若者支援	12	子ども・若者総合相談センター	10	10	8	80.0%	8	80.0%
4	高齢者福祉	13	地域包括支援センター	457	457	194	42.5%	92	20.1%
		14	居宅介護支援事業所		-（※2）			102	-
5	障害福祉	15	基幹相談支援センター	991	34	182	18.4%	26	76.5%
		16	特定相談支援事業所		957			156	16.3%
6	医療	17	病院	163	64	16	9.8%	10	15.6%
		18	訪問看護ステーション		99			6	6.1%
7	保健	19	保健所	142	31	34	23.9%	15	48.4%
		20	保健センター		111			19	17.1%
8	生活福祉	21	福祉事務所	146	83	68	46.6%	38	45.8%
		22	自立相談支援機関		63			30	47.6%
9	地域	23	民間支援団体	10,141	12	2,138	21.1%	4	33.3%
		24	社会福祉協議会		63			33	52.4%
		25	民生委員、児童委員、主任児童委員		372			176	47.3%
		26	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館		3,496			242	6.9%
		27	放課後等デイサービス		1,201			205	17.1%
		28	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所		4,997			1,478	29.6%
			合計	12,884		2,932	22.8%	2,932	22.8%

※1 一部施設は無作為抽出して発出

※2 居宅介護支援事業所の発出数はCMAT（東京都介護支援専門員研究協議会）を通じて回答を依頼した為不明

合計回答数：2,932／12,884　　回収率：22.8%

ヒアリングの実施

アンケート調査を基に、一部の機関に対し、
各機関がヤングケアラーに気付くきっかけや、
ヤングケアラーのいる家族との接点、
把握している事例等の詳細を確認するため、
ヒアリング調査を実施した。

分野	施設分野	ヒアリング実施日	実施方法
児童福祉	子供家庭支援センター	9月25日	訪問
	児童相談所	10月10日	訪問
教育機関	教育委員会	9月19日	訪問
	公立学校	10月31日	訪問
	私立学校	10月29日	訪問
若者支援	子ども・若者総合相談センター	10月23日	訪問
高齢者福祉	地域包括支援センター	9月18日	訪問
	居宅介護支援事業所	9月24日	オンライン
障害福祉	基幹相談支援センター	9月30日	訪問
	特定相談支援事業所	9月19日	訪問
医療	病院	9月27日	訪問
	訪問看護ステーション	10月16日	訪問
保健	保健所	10月28日	訪問
	保健センター	9月26日	訪問
生活福祉	福祉事務所	10月9日	訪問
	自立相談支援機関	9月25日	訪問
地域	民間支援団体	10月15日	オンライン
	社会福祉協議会	10月11日	オンライン
	児童委員	10月7日	オンライン
	フードバンク	10月17日	訪問
	子供食堂	10月25日	オンライン
	フリースクール	9月17日	訪問
	学習支援を実施している地域の居場所	9月26日	オンライン
	学童クラブ	10月16日	オンライン
	児童館	10月15日	訪問
	放課後等デイサービス	10月11日	オンライン
	私立幼稚園	9月24日	訪問
	認定こども園	9月25日	訪問
	認可保育所	9月12日	訪問

実施件数：29団体

検討委員会の実施

ヤングケアラー支援に関する有識者で構成する検討委員会を設置し、調査結果を分析する際の視点等について検討した。
検討委員会の委員名簿は以下のとおり。

委員会名簿 （五十音順、敬称略）	澁谷　智子	成蹊大学　文学部　現代社会学科	教授
	宮崎　成悟	一般社団法人ヤングケアラー協会	代表理事
	森田　久美子	立正大学　社会福祉学部　社会福祉学科	教授

開催概要	日程：令和６年11月21日、22日、25日 議事：１ アンケート調査結果の報告 ２ ヒアリング調査結果の報告 ３ 調査結果から見える支援の現状についての分析及び検討

用語・職種の解説

種別	用語・職種	内容
支援	アセスメント	「査定する」や「評価する」といった意味を持つ言葉で、面談などをして支援対象者の情報収集することを指す。
	デイサービス（通所介護）	利用者(要介護者)を老人デイサービスセンター等に通わせ、当該施設において、入浴・排せつ・食事等の介護、生活等に関する相談及び助言・健康状態の確認その他日常生活上の世話、機能訓練を行うものをいう。
	ピアサポート	同じような立場や境遇、経験等を共にする人同士（ピア）の支え合いを指す。
	レスパイト	ヤングケアラーが日常的なケアから離れることを指す。具体的な支援として、ショートステイ（短期入所）など。
人材	社会福祉士	社会福祉士法に基づく国家資格。専門的知識・技術をもって、日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者。または、医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡・調整その他の援助を行う者。
	精神保健福祉士	精神保健福祉士法に基づく国家資格。専門的知識・技術をもって、精神障害の医療を受けている人や精神障害者の社会復帰のための施設の利用者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う者。
	ソーシャルワーカー（SW）	福祉に関する相談・支援を行う者。社会福祉士や精神保健福祉士等も含まれる。 学校で、課題を抱える児童・生徒が置かれた環境への働き掛けや関係機関等とのネットワークの構築などを行う福祉の専門家をスクールソーシャルワーカー（SSW)という。 都立高校等に派遣されている、若者の自立を支援する「ユースワーカー」の役割と福祉的支援をする「ソーシャルワーカー」の役割を一体化した人材をユースソーシャルワーカー（YSW)という。 保健医療機関において、社会福祉の立場から患者やその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行う者を医療ソーシャルワーカー（MSW）という。 精神障害者に対して福祉に関する相談や社会生活を行うための支援を行う者を精神科ソーシャルワーカー（PSW）という。 地域の課題に対し、地域住民等とともに課題解決に取組み、資源開発や地域のしくみづくりを進める者をコミュニティソーシャルワーカー(CSW)という。社会福祉協議会等に所属している。
	ヤングケアラー・コーディネーター	ヤングケアラーを把握した場合に、高齢、障害、失業、生活困窮、ひとり親家庭等といった家庭の状況に応じ、適切な福祉サービスや就労支援サービス等につなげられるよう、関係機関、団体等と連携して相談・支援、適切な機関へのつなぎを行う専門職。
	スクールカウンセラー（SC）	児童・生徒へのカウンセリングや対応について、教職員や保護者に専門的な助言や援助を行う心理の専門家。
	ケアマネジャー（介護支援専門員）（CM）	要介護者や要支援者の人の相談や心身の状況に応じるとともに、サービス（訪問介護、デイサービスなど）を受けられるようにケアプラン（介護サービス等の提供についての計画）の作成や市町村・サービス事業者・施設等との連絡調整を行う者。
	ホームヘルパー（訪問介護員）	利用者（要介護者等）の居宅を訪問し、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事等を提供する者。

回答集計

- 認知の状況 -

回答集計 - 認知の状況 -

1 本年６月に子ども･若者育成支援推進法等が改正され、教育、福祉、保健、医療等の関係機関等が各種支援を行うよう努めるべき子ども･若者の対象として、ヤングケアラーが追加されました。法改正がなされたことについて、ご存知ですか。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
よく知っている	24	1	19	36	22	5	5	0	1	8	5	16	15	8	21	1	0	10	8	8	6	2	5	34	54	26	212	552
ある程度知っているが詳しくは知らない	15	1	13	46	22	7	3	5	12	17	3	46	70	14	76	5	3	5	8	21	20	2	19	107	115	103	752	1510
聞いたことはある	3	1	0	3	3	2	1	0	4	8	0	23	11	4	44	2	1	0	3	6	4	0	7	20	51	57	364	622
知らなかった	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	7	6	0	15	2	2	0	0	3	0	0	2	15	22	19	150	248
合計	**42**	**3**	**32**	**86**	**47**	**14**	**10**	**5**	**18**	**35**	**8**	**92**	**102**	**26**	**156**	**10**	**6**	**15**	**19**	**38**	**30**	**4**	**33**	**176**	**242**	**205**	**1478**	**2932**

回答割合

よく知っている	57.1%	33.3%	59.4%	41.9%	46.8%	35.7%	50.0%	0.0%	5.6%	22.9%	62.5%	17.4%	14.7%	30.8%	13.5%	10.0%	0.0%	**66.7%**	42.1%	21.1%	20.0%	50.0%	15.2%	19.3%	22.3%	12.7%	14.3%	18.8%
ある程度知っているが詳しくは知らない	35.7%	33.3%	40.6%	53.5%	46.8%	50.0%	30.0%	**100.0%**	66.7%	48.6%	37.5%	50.0%	68.6%	53.8%	48.7%	50.0%	50.0%	33.3%	42.1%	55.3%	66.7%	50.0%	57.6%	60.8%	47.5%	50.2%	50.9%	**51.5%**
聞いたことはある	7.1%	**33.3%**	0.0%	3.5%	6.4%	14.3%	10.0%	0.0%	22.2%	22.9%	0.0%	25.0%	10.8%	15.4%	28.2%	20.0%	16.7%	0.0%	15.8%	15.8%	13.3%	0.0%	21.2%	11.4%	21.1%	27.8%	24.6%	21.2%
知らなかった	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.6%	5.7%	0.0%	7.6%	5.9%	0.0%	9.6%	20.0%	**33.3%**	0.0%	0.0%	7.9%	0.0%	0.0%	6.1%	8.5%	9.1%	9.3%	10.1%	8.5%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 全体では、「ある程度知っているが詳しくは知らない」が51.5%と最も多く、「よく知っている」以外の合計割合が80%以上を占めている。
- 子供家庭支援センター、教育委員会、子ども･若者総合相談センター、保健所の認知度（「よく知っている」との回答）が、50%超と他の分野に比べて高い傾向が見受けられた。

回答集計 - 認知の状況 -

2 法改正において、ヤングケアラーとは「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定義されました。この「ヤングケアラー」の定義をご存じですか。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
よく知っている	32	2	27	50	32	7	5	2	6	16	6	24	19	15	38	2	0	11	8	14	11	4	15	59	87	56	**399**	947
ある程度知っているが詳しくは知らない	6	1	5	35	12	6	4	3	11	14	2	56	75	9	89	6	4	4	10	21	17	0	16	107	112	112	**814**	**1551**
聞いたことはある	2	0	0	1	2	0	1	0	1	5	0	10	8	2	23	1	1	0	1	1	1	0	2	8	32	29	**204**	335
知らなかった	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	6	1	1	0	0	2	1	0	0	2	11	8	**61**	99
合計	**42**	**3**	**32**	**86**	**47**	**14**	**10**	**5**	**18**	**35**	**8**	**92**	**102**	**26**	**156**	**10**	**6**	**15**	**19**	**38**	**30**	**4**	**33**	**176**	**242**	**205**	**1478**	**2932**

回答割合

よく知っている	76.2%	66.7%	84.4%	58.1%	68.1%	50.0%	50.0%	40.0%	33.3%	45.7%	75.0%	26.1%	18.6%	57.7%	24.4%	20.0%	0.0%	73.3%	42.1%	36.8%	36.7%	**100.0%**	45.5%	33.5%	36.0%	27.3%	27.0%	32.3%
ある程度知っているが詳しくは知らない	14.3%	33.3%	15.6%	40.7%	25.5%	42.9%	40.0%	60.0%	61.1%	40.0%	25.0%	60.9%	**73.5%**	34.6%	57.1%	60.0%	66.7%	26.7%	52.6%	55.3%	56.7%	0.0%	48.5%	60.8%	46.3%	54.6%	55.1%	**52.9%**
聞いたことはある	4.8%	0.0%	0.0%	1.2%	4.3%	0.0%	10.0%	0.0%	5.6%	14.3%	0.0%	10.9%	7.8%	7.7%	14.7%	10.0%	**16.7%**	0.0%	5.3%	2.6%	3.3%	0.0%	6.1%	4.5%	13.2%	14.1%	13.8%	11.4%
知らなかった	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	3.8%	10.0%	**16.7%**	0.0%	0.0%	5.3%	3.3%	0.0%	0.0%	1.1%	4.5%	3.9%	4.1%	3.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「ある程度知っているが詳しくは知らない」の選択数が全体の52.9%と過半数を超えており、「よく知っている」の割合は32.3%に止まっている。
- 児童福祉・教育機関・若者支援分野での認知度は比較的高く、高齢者福祉・医療分野では低い傾向であった。

回答集計 - 認知の状況 -

3 ヤングケアラーに気づくきっかけについて各分野別設問にて認知確認を行った。

対象分野　児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

各分野の設問

【児童福祉】

児童福祉分野の施設においては、子供にかかわる多くのケースでかかわり、ヤングケアラー支援においても大きな役割を果たします。家庭訪問等による本人や家族との対話、ケース会議の招集や支援方策検討の主導等が期待されます。貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【教育機関】

学校は、ヤングケアラーと思われる子供やそのきょうだいに気付き、見守るほか、他の機関へつなぐことが期待されます。
スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、ユースソーシャルワーカー（YSW）が、支援においても重要な役割を担います。貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【若者支援】

若者支援機関は、様々な困難を抱える若者及びその家族を対象として、電話やメール、対面等多様な手法で相談ができる体制等を整備し、適切な支援につなげる役割を果たします。
貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【高齢者福祉・障害福祉・医療（共通）】

高齢者・障害者福祉施設や医療機関は、認知症や要介護の状態であったり、障害や疾患をもつ、あるいは高齢な家族をケアしているヤングケアラーへの気付きや、関係機関による支援へのつなぎ等の役割を担い、相談対応や家庭訪問等による本人や家族との対話を通じて、困りごと・ニーズ等の把握や寄り添い・支援等を行うことが期待されます。
貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【保健】

保健分野の施設においては、家族に障害や疾患のある人がいる場合のヤングケアラーへの気付きや、関係機関へのつなぎ、支援において大きな役割を果たします。家庭訪問、検診等による本人や家族との対話や、困りごと・ニーズ等の把握や寄り添い・支援等が期待されます。貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

3 ヤングケアラーに気づくきっかけについて各分野別設問にて認知確認を行った。

【生活福祉】
生活福祉分野の施設においては、生活困窮家庭におけるヤングケアラーへの気付きや、関係機関へのつなぎ、支援において大きな役割を果たします。家庭訪問等による本人や家族との対話や、困りごと・ニーズ等の把握や寄り添い・支援等が期待されます。
貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【支援団体】
支援団体は、ケアの悩み等をヤングケアラー同士や元ヤングケアラーと話す等の支援において役割を果たします。貴団体がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。
貴団体がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

【地域】
地域の施設においては、日頃から子供と関わりがあるため、ヤングケアラーへの気付きや、見守り、ケアの悩み等をヤングケアラー同士や元ヤングケアラーと話す等の支援において役割を果たします。
貴施設がヤングケアラーに気付くきっかけとしてどのようなことがあるか、ご存じですか。

3 ヤングケアラーに気づくきっかけについて各分野別設問にて認知確認を行った。

回答件数

n=2932

分野	児童福祉			教育機関									若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療			保健			生活福祉			地域							合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	計	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、特別支援学校、義務教育学	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	計	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	高齢者福祉・障害福祉・医療 計	保健所	保健センター	計	福祉事務所	自立相談支援機関	計	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	計	
よく知っている	31	2	**33**	29	53	34	8	8	0	5	12	**149**	**6**	34	10	13	35	0	0	92	11	13	**24**	12	10	22	**2**	9	34	56	22	168	291	619
ある程度知っているが詳しくは知らない	10	0	10	3	31	11	5	2	4	9	15	80	2	45	71	9	78	6	3	**212**	4	4	8	19	18	**37**	**2**	18	93	111	103	642	**969**	**1320**
聞いたことはある	1	1	2	0	2	2	1	0	1	3	4	13	0	12	14	4	29	2	1	62	0	2	2	6	2	8	0	2	31	47	45	352	477	564
知らなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0	1	7	0	14	2	2	26	0	0	0	1	0	1	0	4	18	28	35	316	401	433
合計	**42**	**3**	**45**	**32**	**86**	**47**	**14**	**10**	**5**	**18**	**35**	**247**	**8**	**92**	**102**	**26**	**156**	**10**	**6**	**392**	**15**	**19**	**34**	**38**	**30**	**68**	**4**	**33**	**176**	**242**	**205**	**1478**	**2138**	**2936**

回答割合

よく知っている	73.8%	66.7%	**73.3%**	90.6%	61.6%	72.3%	57.1%	80.0%	0.0%	27.8%	34.3%	**60.3%**	**75.0%**	37.0%	9.8%	50.0%	22.4%	0.0%	0.0%	23.5%	73.3%	68.4%	**70.6%**	31.6%	33.3%	32.4%	**50.0%**	27.3%	19.3%	23.1%	10.7%	11.4%	13.6%	21.1%
ある程度知っているが詳しくは知らない	23.8%	0.0%	22.2%	9.4%	36.0%	23.4%	35.7%	20.0%	80.0%	50.0%	42.9%	32.4%	25.0%	48.9%	69.6%	34.6%	50.0%	60.0%	50.0%	**54.1%**	26.7%	21.1%	23.5%	50.0%	60.0%	**54.4%**	**50.0%**	54.5%	52.8%	45.9%	50.2%	43.4%	**45.3%**	**45.0%**
聞いたことはある	2.4%	33.3%	4.4%	0.0%	2.3%	4.3%	7.1%	0.0%	20.0%	16.7%	11.4%	5.3%	0.0%	13.0%	13.7%	15.4%	18.6%	20.0%	16.7%	15.8%	0.0%	10.5%	5.9%	15.8%	6.7%	11.8%	0.0%	6.1%	17.6%	19.4%	22.0%	23.8%	22.3%	19.2%
知らなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	11.4%	2.0%	0.0%	1.1%	6.9%	0.0%	9.0%	20.0%	33.3%	6.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	1.5%	0.0%	12.1%	10.2%	11.6%	17.1%	21.4%	18.8%	14.7%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答設問グループでの計、上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 設定した設問の分野ごとに集計したところ、児童福祉・教育機関・若者支援・保健の分野では「よく知っている」の回答が最多であり、高齢者福祉・障害福祉・医療、生活福祉、地域の分野では「ある程度知っているが詳しくは知らない」の回答が最も多かった。

回答集計 - 認知の状況 -

4 貴施設内の従事者がヤングケアラーの存在に気付いた際に、適切な支援を行うための相談対応等を行う部署と情報共有等を行う体制は整備されていますか。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
対応マニュアル等が整備されており、施設内で定められた関係者（部署）と情報共有を行う体制が整っている	6	0	9	13	8	1	2	0	1	0	3	5	3	2	1	0	0	1	0	1	2	1	1	29	42	7	**144**	282
情報共有及び支援について検討する会議を開催している	25	2	16	71	39	10	6	2	10	21	5	49	46	14	46	2	1	6	11	17	15	2	11	52	83	68	**325**	955
情報共有体制や支援等について検討する体制は特に設けていない	13	1	9	6	1	3	2	3	7	15	0	40	53	11	109	8	6	8	8	21	13	1	21	99	117	133	**1020**	**1728**
合計	**44**	**3**	**34**	**90**	**48**	**14**	**10**	**5**	**18**	**36**	**8**	**94**	**102**	**27**	**156**	**10**	**7**	**15**	**19**	**39**	**30**	**4**	**33**	**180**	**242**	**208**	**1489**	**2965**

回答割合

対応マニュアル等が整備されており、施設内で定められた関係者（部署）と情報共有を行う体制が整っている	13.6%	0.0%	26.5%	14.4%	16.7%	7.1%	20.0%	0.0%	5.6%	0.0%	**37.5%**	5.3%	2.9%	7.4%	0.6%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	2.6%	6.7%	25.0%	3.0%	16.1%	17.4%	3.4%	9.7%	9.5%
情報共有及び支援について検討する会議を開催している	56.8%	66.7%	47.1%	78.9%	**81.3%**	71.4%	60.0%	40.0%	55.6%	58.3%	62.5%	52.1%	45.1%	51.9%	29.5%	20.0%	14.3%	40.0%	57.9%	43.6%	50.0%	50.0%	33.3%	28.9%	34.3%	32.7%	21.8%	32.2%
情報共有体制や支援等について検討する体制は特に設けていない	29.5%	33.3%	26.5%	6.7%	2.1%	21.4%	20.0%	60.0%	38.9%	41.7%	0.0%	42.6%	52.0%	40.7%	69.9%	80.0%	**85.7%**	53.3%	42.1%	53.8%	43.3%	25.0%	63.6%	55.0%	48.3%	63.9%	68.5%	**58.3%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「情報共有体制や支援等について検討する体制は特に設けていない」が最も多く1,728件となった。
- 回答割合でみると、「対応マニュアル等が整備されており、施設内で定められた関係者（部署）と情報共有を行う体制が整っている」と回答した割合が最も高い分野は「子ども・若者総合相談センター」で37.5%であった。また、「情報共有及び支援について検討する会議を開催している」の回答では「公立小学校」、「公立中学校」、「公立高等学校」が70%以上の高い割合であり、「情報共有体制や支援等について検討する体制は特に設けていない」の回答では医療分野が80%以上であった。

回答集計 - 認知の状況 -

5 ヤングケアラーへの適切な支援につなげるための関係機関について、どのような機関があるかご存知ですか。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラーに気付いた際に連携が必要な施設については知っている	30	2	26	48	30	4	5	0	1	7	6	44	16	16	30	4	1	12	14	17	13	2	18	88	92	27	**361**	914
一部のみ知っている／関係機関として知らなかった分野があった	10	1	6	38	17	8	5	5	14	23	2	47	74	9	98	4	2	3	5	18	15	2	13	80	126	136	**788**	**1549**
知らない	2	0	0	0	0	2	0	0	3	5	0	1	12	1	28	2	3	0	0	3	2	0	2	8	24	42	**329**	469
合計	**42**	**3**	**32**	**86**	**47**	**14**	**10**	**5**	**18**	**35**	**8**	**92**	**102**	**26**	**156**	**10**	**6**	**15**	**19**	**38**	**30**	**4**	**33**	**176**	**242**	**205**	**1478**	**2932**

回答割合

ヤングケアラーに気付いた際に連携が必要な施設については知っている	71.4%	66.7%	**81.3%**	55.8%	63.8%	28.6%	50.0%	0.0%	5.6%	20.0%	75.0%	47.8%	15.7%	61.5%	19.2%	40.0%	16.7%	80.0%	73.7%	44.7%	43.3%	50.0%	54.5%	50.0%	38.0%	13.2%	24.4%	31.2%
一部のみ知っている／関係機関として知らなかった分野があった	23.8%	33.3%	18.8%	44.2%	36.2%	57.1%	50.0%	**100.0%**	77.8%	65.7%	25.0%	51.1%	72.5%	34.6%	62.8%	40.0%	33.3%	20.0%	26.3%	47.4%	50.0%	50.0%	39.4%	45.5%	52.1%	66.3%	53.3%	**52.8%**
知らない	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	16.7%	14.3%	0.0%	1.1%	11.8%	3.8%	17.9%	20.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	7.9%	6.7%	0.0%	6.1%	4.5%	9.9%	20.5%	22.3%	16.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「一部のみ知っている／関係機関として知らなかった分野があった」が1,549件と最も多い結果となった。
- 回答割合では、「ヤングケアラーに気付いた際に連携が必要な施設については知っている」の回答が児童福祉分野、「教育委員会」、「保健センター」で高い結果となり、「居宅介護支援事業所」、「特定相談支援事業所」、「訪問看護ステーション」、「放課後等デイサービス」では10%台と低い結果であった。

回答集計 - 認知の状況 -

6 ヤングケアラーへの支援を行うための関係機関として、貴施設から本人への情報提供や案内等を行うことを想定し、具体的に連絡先・窓口等を把握している機関についてお答えください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している機関（次のページに続く）	ヤングケアラー・コーディネーター	12	1	6	5	3	3	0	0	1	2	4	28	10	6	19	0	0	6	9	6	3	0	4	33	27	11	**109**	308
	子供家庭支援センター	25	2	31	83	46	13	10	4	15	25	7	79	46	25	119	5	2	15	18	36	29	4	28	151	195	140	**1211**	**2364**
	児童相談所	34	1	20	82	39	13	10	5	15	29	4	52	35	20	91	8	4	13	13	31	14	2	19	103	133	153	**1084**	2027
	地域包括支援センター	32	2	8	12	8	2	2	1	6	6	6	39	91	20	80	5	5	11	15	22	16	3	24	103	49	44	**290**	902
	居宅介護支援事業所	20	1	3	1	0	0	1	0	0	0	1	38	25	13	**55**	3	3	10	9	14	8	2	13	7	6	4	17	254
	基幹相談支援センター	19	1	4	3	3	0	2	0	0	0	3	22	24	14	**97**	4	1	8	9	10	9	2	9	5	7	45	36	337
	特定相談支援事業所	14	1	2	1	0	1	2	0	0	0	1	9	9	15	**64**	0	0	10	6	7	4	1	5	1	2	50	28	233
	保健所	27	2	13	32	9	7	5	1	3	8	6	48	43	17	72	4	4	8	10	16	13	1	22	37	54	43	**456**	961
	保健センター	28	2	9	17	8	4	4	0	2	3	2	37	29	11	56	4	1	10	8	16	9	2	18	28	27	29	**351**	715
	病院	26	1	4	17	8	2	3	0	0	3	3	30	9	10	39	3	0	10	11	13	8	2	8	11	15	8	**88**	332
	診療所	19	1	4	8	0	0	1	0	0	1	1	22	6	8	28	1	0	8	9	12	5	0	7	3	6	6	**52**	208
	訪問看護ステーション	22	1	3	3	0	1	2	0	0	0	2	27	13	10	**51**	1	0	11	11	7	7	1	9	7	6	5	19	219
	福祉事務所	32	3	10	15	5	5	5	2	0	0	4	49	33	20	76	3	1	10	11	19	16	2	18	40	35	33	**154**	601
	自立相談支援機関	18	1	2	2	1	2	3	0	0	0	3	11	8	9	18	0	0	6	3	15	9	1	16	9	15	9	**25**	186
	子ども・若者総合相談センター	7	1	3	6	4	4	0	0	0	0	1	16	13	9	28	0	0	6	6	6	9	1	4	28	14	21	**104**	291
	教育委員会	35	1	16	72	40	9	5	1	2	3	4	18	7	11	35	2	0	10	10	16	13	3	18	43	72	18	**310**	774
	公立学校	34	3	21	35	13	0	3	0	0	0	3	24	7	11	37	2	0	9	10	22	11	2	15	83	103	64	**212**	724
	私立学校	22	3	4	2	0	0	0	1	1	2	1	10	1	4	21	1	0	6	4	8	2	0	9	8	17	17	**55**	199

※回答した機関

6 ヤングケアラーへの支援を行うための関係機関として、貴施設から本人への情報提供や案内等を行うことを想定し、具体的に連絡先・窓口等を把握している機関についてお答えください。

		※回答した機関																											
分野		児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している機関	民生委員	26	2	12	55	25	1	1	0	1	0	2	53	19	9	40	0	1	8	10	18	12	3	24	99	73	14	**330**	838
	児童委員	31	2	14	57	25	0	0	0	1	0	3	47	10	7	25	0	0	8	11	15	10	3	24	124	55	14	**205**	691
	主任児童委員	31	2	14	47	24	0	0	0	1	0	2	35	3	7	16	0	0	8	11	11	9	1	22	117	44	5	**125**	535
	社会福祉協議会	31	2	12	8	4	1	1	0	1	1	4	52	26	18	62	1	1	9	12	13	13	4	15	82	61	42	**133**	609
	フードバンク	19	1	4	4	2	2	0	0	0	1	2	22	8	5	15	0	0	4	3	6	8	0	14	21	22	7	**32**	202
	フリースクール	12	1	4	11	5	0	0	0	0	0	1	3	1	2	9	0	0	3	1	2	2	1	8	7	10	6	**17**	106
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	23	1	8	16	9	1	0	0	0	0	1	9	0	2	16	0	0	2	4	9	7	2	8	19	19	2	**24**	182
	子供食堂	25	1	9	16	4	2	0	1	0	1	1	30	8	4	23	0	0	4	4	4	7	2	21	34	42	11	**83**	337
	民間支援団体	17	1	6	4	1	1	1	0	0	0	2	10	5	2	9	1	0	4	2	3	5	2	9	12	10	4	**28**	139
	公立幼稚園	22	3	5	11	3	0	0	0	0	0	1	13	2	7	22	0	0	7	6	7	3	0	5	13	32	6	**82**	250
	私立幼稚園	26	3	5	12	1	0	0	0	0	0	1	6	1	6	21	0	0	6	8	7	2	1	7	8	19	6	**78**	224
	認定こども園	25	3	3	8	1	0	0	0	0	0	1	7	1	6	12	0	0	6	8	9	3	1	5	11	24	7	**73**	214
	認可保育所	31	2	6	12	0	0	0	0	0	0	1	8	3	7	20	1	0	8	10	11	3	1	8	10	35	6	**239**	422
	認証保育所	26	3	4	9	0	0	0	0	0	0	1	8	1	6	16	0	0	8	10	8	2	1	6	8	21	6	**73**	217
	学童クラブ	30	2	8	45	3	0	1	1	0	0	1	18	5	6	23	0	0	6	7	10	5	0	11	24	73	13	**124**	416
	放課後等デイサービス	21	2	2	14	3	0	3	0	0	0	1	12	3	12	39	1	0	6	6	6	4	0	6	10	25	**65**	56	297
	児童館	29	2	9	31	6	1	1	1	0	0	2	29	4	7	21	0	0	6	8	9	7	0	14	42	65	13	**138**	445
	その他	1	0	4	1	0	1	0	0	1	2	0	5	3	0	5	0	0	1	1	0	3	0	3	3	15	12	**63**	124
	合計	**853**	**63**	**295**	**761**	**308**	**82**	**73**	**26**	**59**	**97**	**95**	**939**	**526**	**361**	**1396**	**67**	**41**	**290**	**314**	**445**	**312**	**74**	**480**	**1369**	**1454**	**966**	**6532**	**18289**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

6 ヤングケアラーへの支援を行うための関係機関として、貴施設から本人への情報提供や案内等を行うことを想定し、具体的に連絡先・窓口等を把握している機関についてお答えください。

回答割合

n=2932

	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、特別支援学校、義務教育学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している機関（次のページに続く）	ヤングケアラー・コーディネーター	1.4%	1.6%	2.0%	0.7%	1.0%	3.7%	0.0%	0.0%	1.7%	2.1%	**4.2%**	3.0%	1.9%	1.7%	1.4%	0.0%	0.0%	2.1%	2.9%	1.3%	1.0%	0.0%	0.8%	2.4%	1.9%	1.1%	1.7%	1.7%
	子供家庭支援センター	2.9%	3.2%	10.5%	10.9%	14.9%	15.9%	13.7%	15.4%	25.4%	**25.8%**	7.4%	8.4%	8.7%	6.9%	8.5%	7.5%	4.9%	5.2%	5.7%	8.1%	9.3%	5.4%	5.8%	11.0%	13.4%	14.5%	18.5%	**12.9%**
	児童相談所	4.0%	1.6%	6.8%	10.8%	12.7%	15.9%	13.7%	19.2%	25.4%	**29.9%**	4.2%	5.5%	6.7%	5.5%	6.5%	11.9%	9.8%	4.5%	4.1%	7.0%	4.5%	2.7%	4.0%	7.5%	9.1%	15.8%	16.6%	11.1%
	地域包括支援センター	3.8%	3.2%	2.7%	1.6%	2.6%	2.4%	2.7%	3.8%	10.2%	6.2%	6.3%	4.2%	**17.3%**	5.5%	5.7%	7.5%	12.2%	3.8%	4.8%	4.9%	5.1%	4.1%	5.0%	7.5%	3.4%	4.6%	4.4%	4.9%
	居宅介護支援事業所	2.3%	1.6%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	4.0%	4.8%	3.6%	3.9%	4.5%	**7.3%**	3.4%	2.9%	3.1%	2.6%	2.7%	2.7%	0.5%	0.4%	0.4%	0.3%	1.4%
	基幹相談支援センター	2.2%	1.6%	1.4%	0.4%	1.0%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	2.3%	4.6%	3.9%	**6.9%**	6.0%	2.4%	2.8%	2.9%	2.2%	2.9%	2.7%	1.9%	0.4%	0.5%	4.7%	0.6%	1.8%
	特定相談支援事業所	1.6%	1.6%	0.7%	0.1%	0.0%	1.2%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.0%	1.7%	4.2%	4.6%	0.0%	0.0%	3.4%	1.9%	1.6%	1.3%	1.4%	1.0%	0.1%	0.1%	**5.2%**	0.4%	1.3%
	保健所	3.2%	3.2%	4.4%	4.2%	2.9%	8.5%	6.8%	3.8%	5.1%	8.2%	6.3%	5.1%	8.2%	4.7%	5.2%	6.0%	**9.8%**	2.8%	3.2%	3.6%	4.2%	1.4%	4.6%	2.7%	3.7%	4.5%	7.0%	5.3%
	保健センター	3.3%	3.2%	3.1%	2.2%	2.6%	4.9%	5.5%	0.0%	3.4%	3.1%	2.1%	3.9%	5.5%	3.0%	4.0%	**6.0%**	2.4%	3.4%	2.5%	3.6%	2.9%	2.7%	3.8%	2.0%	1.9%	3.0%	5.4%	3.9%
	病院	3.0%	1.6%	1.4%	2.2%	2.6%	2.4%	4.1%	0.0%	0.0%	3.1%	3.2%	3.2%	1.7%	2.8%	2.8%	**4.5%**	0.0%	3.4%	3.5%	2.9%	2.6%	2.7%	1.7%	0.8%	1.0%	0.8%	1.3%	1.8%
	診療所	2.2%	1.6%	1.4%	1.1%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.0%	1.1%	2.3%	1.1%	2.2%	2.0%	1.5%	0.0%	2.8%	**2.9%**	2.7%	1.6%	0.0%	1.5%	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%	1.1%
	訪問看護ステーション	2.6%	1.6%	1.0%	0.4%	0.0%	1.2%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	2.9%	2.5%	2.8%	3.7%	1.5%	0.0%	**3.8%**	3.5%	1.6%	2.2%	1.4%	1.9%	0.5%	0.4%	0.5%	0.3%	1.2%
	福祉事務所	3.8%	4.8%	3.4%	2.0%	1.6%	6.1%	6.8%	**7.7%**	0.0%	0.0%	4.2%	5.2%	6.3%	5.5%	5.4%	4.5%	2.4%	3.4%	3.5%	4.3%	5.1%	2.7%	3.8%	2.9%	2.4%	3.4%	2.4%	3.3%
	自立相談支援機関	2.1%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	2.4%	**4.1%**	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	1.2%	1.5%	2.5%	1.3%	0.0%	0.0%	2.1%	1.0%	3.4%	2.9%	1.4%	3.3%	0.7%	1.0%	0.9%	0.4%	1.0%
	子ども・若者総合相談センター	0.8%	1.6%	1.0%	0.8%	1.3%	**4.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.7%	2.5%	2.5%	2.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.9%	1.3%	2.9%	1.4%	0.8%	2.0%	1.0%	2.2%	1.6%	1.6%
	教育委員会	4.1%	1.6%	5.4%	9.5%	**13.0%**	11.0%	6.8%	3.8%	3.4%	3.1%	4.2%	1.9%	1.3%	3.0%	2.5%	3.0%	0.0%	3.4%	3.2%	3.6%	4.2%	4.1%	3.8%	3.1%	5.0%	1.9%	4.7%	4.2%
	公立学校	4.0%	4.8%	**7.1%**	4.6%	4.2%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	2.6%	1.3%	3.0%	2.7%	3.0%	0.0%	3.1%	3.2%	4.9%	3.5%	2.7%	3.1%	6.1%	7.1%	6.6%	3.2%	4.0%
	私立学校	2.6%	**4.8%**	1.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	1.7%	2.1%	1.1%	1.1%	0.2%	1.1%	1.5%	1.5%	0.0%	2.1%	1.3%	1.8%	0.6%	0.0%	1.9%	0.6%	1.2%	1.8%	0.8%	1.1%

6 ヤングケアラーへの支援を行うための関係機関として、貴施設から本人への情報提供や案内等を行うことを想定し、具体的に連絡先・窓口等を把握している機関についてお答えください。

		※回答した機関																											
	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している機関	民生委員	3.0%	3.2%	4.1%	7.2%	**8.1%**	1.2%	1.4%	0.0%	1.7%	0.0%	2.1%	5.6%	3.6%	2.5%	2.9%	0.0%	2.4%	2.8%	3.2%	4.0%	3.8%	4.1%	5.0%	7.2%	5.0%	1.4%	5.1%	4.6%
	児童委員	3.6%	3.2%	4.7%	7.5%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	3.2%	5.0%	1.9%	1.9%	1.8%	0.0%	0.0%	2.8%	3.5%	3.4%	3.2%	4.1%	5.0%	**9.1%**	3.8%	1.4%	3.1%	3.8%
	主任児童委員	3.6%	3.2%	4.7%	6.2%	7.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	2.1%	3.7%	0.6%	1.9%	1.1%	0.0%	0.0%	2.8%	3.5%	2.5%	2.9%	1.4%	4.6%	**8.5%**	3.0%	0.5%	1.9%	2.9%
	社会福祉協議会	3.6%	3.2%	4.1%	1.1%	1.3%	1.2%	1.4%	0.0%	1.7%	1.0%	4.2%	5.5%	4.9%	5.0%	4.4%	1.5%	2.4%	3.1%	3.8%	2.9%	4.2%	5.4%	3.1%	**6.0%**	4.2%	4.3%	2.0%	3.3%
	フードバンク	2.2%	1.6%	1.4%	0.5%	0.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.1%	2.3%	1.5%	1.4%	1.1%	0.0%	0.0%	1.4%	1.0%	1.3%	2.6%	0.0%	**2.9%**	1.5%	1.5%	0.7%	0.5%	1.1%
	フリースクール	1.4%	1.6%	1.4%	1.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	0.2%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%	1.0%	0.3%	0.4%	0.6%	1.4%	**1.7%**	0.5%	0.7%	0.6%	0.3%	0.6%
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	2.7%	1.6%	2.7%	2.1%	**2.9%**	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%	1.3%	2.0%	2.2%	2.7%	1.7%	1.4%	1.3%	0.2%	0.4%	1.0%
	子供食堂	2.9%	1.6%	3.1%	2.1%	1.3%	2.4%	0.0%	3.8%	0.0%	1.0%	1.1%	3.2%	1.5%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	1.4%	1.3%	0.9%	2.2%	2.7%	**4.4%**	2.5%	2.9%	1.1%	1.3%	1.8%
	民間支援団体	2.0%	1.6%	2.0%	0.5%	0.3%	1.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.1%	1.0%	0.6%	0.6%	1.5%	0.0%	1.4%	0.6%	0.7%	1.6%	**2.7%**	1.9%	0.9%	0.7%	0.4%	0.4%	0.8%
	公立幼稚園	2.6%	**4.8%**	1.7%	1.4%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.4%	0.4%	1.9%	1.6%	0.0%	0.0%	2.4%	1.9%	1.6%	1.0%	0.0%	1.0%	0.9%	2.2%	0.6%	1.3%	1.4%
	私立幼稚園	3.0%	**4.8%**	1.7%	1.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.6%	0.2%	1.7%	1.5%	0.0%	0.0%	2.1%	2.5%	1.6%	0.6%	1.4%	1.5%	0.6%	1.3%	0.6%	1.2%	1.2%
	認定こども園	2.9%	**4.8%**	1.0%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%	0.2%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	2.1%	2.5%	2.0%	1.0%	1.4%	1.0%	0.8%	1.7%	0.7%	1.1%	1.2%
	認可保育所	3.6%	3.2%	2.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.9%	0.6%	1.9%	1.4%	1.5%	0.0%	2.8%	3.2%	2.5%	1.0%	1.4%	1.7%	0.7%	2.4%	0.6%	**3.7%**	2.3%
	認証保育所	3.0%	**4.8%**	1.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.9%	0.2%	1.7%	1.1%	0.0%	0.0%	2.8%	3.2%	1.8%	0.6%	1.4%	1.3%	0.6%	1.4%	0.6%	1.1%	1.2%
	学童クラブ	3.5%	3.2%	2.7%	**5.9%**	1.0%	0.0%	1.4%	3.8%	0.0%	0.0%	1.1%	1.9%	1.0%	1.7%	1.6%	0.0%	0.0%	2.1%	2.2%	2.2%	1.6%	0.0%	2.3%	1.8%	5.0%	1.3%	1.9%	2.3%
	放課後等デイサービス	2.5%	3.2%	0.7%	1.8%	1.0%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.3%	0.6%	3.3%	2.8%	1.5%	0.0%	2.1%	1.9%	1.3%	1.3%	0.0%	1.3%	0.7%	1.7%	**6.7%**	0.9%	1.6%
	児童館	3.4%	3.2%	3.1%	4.1%	1.9%	1.2%	1.4%	3.8%	0.0%	0.0%	2.1%	3.1%	0.8%	1.9%	1.5%	0.0%	0.0%	2.1%	2.5%	2.0%	2.2%	0.0%	2.9%	3.1%	**4.5%**	1.3%	2.1%	2.4%
	その他	0.1%	0.0%	1.4%	0.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%	**2.1%**	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.6%	0.2%	1.0%	1.2%	1.0%	0.7%
	合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、連携先・窓口を把握している機関は「子供家庭支援センター」が2,364件で最多、次いで「児童相談所」の2,027件となっており、児童福祉分野の施設が多くの機関から認識されていることが窺える。

回答集計 - 認知の状況 -

7 貴施設においてヤングケアラーかもしれないと気付いた（担当部署において把握した）子供・若者の人数をお答えください。（把握した日を基準に年度ごとにお答えください。令和６年度は調査回答時点まで）

対象分野　児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=2,932

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
令和４年度の人数	**186**	30	64	8	10	8	0	1	3	2	10	22	13	8	42	0	0	19	67	26	15	37	9	28	61	12	37	718
令和４年度18歳以上の人数	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	10	9	4	17	0	0	5	5	13	7	**45**	4	6	3	4	10	152
令和５年度の人数	**397**	66	84	8	9	9	0	1	1	6	8	25	11	9	46	5	0	32	39	32	17	35	13	25	73	6	41	**998**
令和５年度18歳以上の人数	25	4	0	1	1	2	0	0	0	0	3	12	7	2	16	4	0	10	4	12	6	**34**	5	8	9	0	12	177
令和６年度の人数	**257**	86	19	11	11	7	2	0	2	6	1	21	12	4	66	0	0	20	88	30	21	24	12	19	66	6	39	830
令和６年度18歳以上の人数	16	17	1	0	0	2	0	0	1	2	0	3	5	0	29	0	0	10	7	11	4	**134**	5	3	7	0	11	268
小計	**881**	**206**	**168**	**28**	**31**	**28**	**2**	**2**	**7**	**16**	**29**	**93**	**57**	**27**	**216**	**9**	**0**	**96**	**210**	**124**	**70**	**309**	**48**	**89**	**219**	**28**	**150**	**3143**

【設問９】の自由記述回答において「他施設から連携」に分類した数を上記の小計から差し引いた合計値

他施設より連携	**40**	5	28	1	7	0	1	2	2	0	6	7	4	7	12	1	0	4	8	12	2	13	4	16	1	0	0	188
合計	**841**	**201**	**140**	**27**	**24**	**28**	**1**	**0**	**5**	**16**	**23**	**86**	**53**	**20**	**204**	**8**	**0**	**92**	**202**	**112**	**68**	**296**	**44**	**73**	**218**	**28**	**150**	**2955**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 令和５年度に把握した人数が998人と最も多く、その中でも「子供家庭支援センター」が397件と多い。
- 施設別の合計人数では、「子供家庭支援センター」841件、「民間支援団体」296件、「地域：フードバンク、子供食堂など」218件の順であった。

回答集計 - 認知の状況 -

8 ヤングケアラーかもしれないと気付いた子供・若者の属性をお答えください。

対象分野　児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=773

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
小学生	11	2	5	16	0	0	0	0	0	0	0	9	7	0	11	0	0	8	14	3	9	1	1	16	**43**	8	24	188
中学生	9	4	14	2	19	0	1	0	0	0	0	13	6	1	9	0	0	5	12	8	11	3	5	16	**35**	8	31	**212**
高校生	10	3	0	0	0	14	0	0	2	14	3	9	4	4	7	1	0	12	10	14	10	3	5	4	**27**	7	**27**	190
大学生（短期含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	2	**6**	1	0	2	3	0	2	3	3	1	3	1	5	39
専門学校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	**6**	12
社会人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	10	2	**12**	0	0	2	2	1	9	2	2	4	2	1	6	64
無職	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	3	3	0	**15**	2	0	1	1	3	2	0	1	2	1	2	2	44
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	**14**	24
合計	**31**	**9**	**21**	**18**	**19**	**14**	**1**	**0**	**2**	**14**	**10**	**50**	**34**	**9**	**63**	**4**	**0**	**30**	**42**	**29**	**44**	**14**	**17**	**43**	**113**	**27**	**115**	**773**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字
※【設問９】の自由記述回答において「他施設から連携」に分類した数を差し引いた数値

8 ヤングケアラーかもしれないと気付いた子供・若者の属性をお答えください。

回答割合

n=773

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
小学生	35.5%	22.2%	23.8%	**88.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.0%	20.6%	0.0%	17.5%	0.0%	0.0%	26.7%	33.3%	10.3%	20.5%	7.1%	5.9%	37.2%	38.1%	29.6%	20.9%	24.3%
中学生	29.0%	44.4%	66.7%	11.1%	**100.0%**	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.0%	17.6%	11.1%	14.3%	0.0%	0.0%	16.7%	28.6%	27.6%	25.0%	21.4%	29.4%	37.2%	31.0%	29.6%	27.0%	**27.4%**
高校生	32.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	**100.0%**	**100.0%**	30.0%	18.0%	11.8%	44.4%	11.1%	25.0%	0.0%	40.0%	23.8%	48.3%	22.7%	21.4%	29.4%	9.3%	23.9%	25.9%	23.5%	24.6%
大学生（短期含む）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.9%	22.2%	9.5%	**25.0%**	0.0%	6.7%	7.1%	0.0%	4.5%	21.4%	17.6%	2.3%	2.7%	3.7%	4.3%	5.0%
専門学校生	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**10.0%**	4.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.2%	1.6%
社会人	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%	**29.4%**	22.2%	19.0%	0.0%	0.0%	6.7%	4.8%	3.4%	20.5%	14.3%	11.8%	9.3%	1.8%	3.7%	5.2%	8.3%
無職	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	6.0%	8.8%	0.0%	23.8%	**50.0%**	0.0%	3.3%	2.4%	10.3%	4.5%	0.0%	5.9%	4.7%	0.9%	7.4%	1.7%	5.7%
その他	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	2.0%	2.9%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	**12.2%**	3.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字
※【設問９】の自由記述回答において「他施設から連携」に分類した数を差し引いた数値

TOPICS

- 回答件数では、「中学生」が212件と最も多い結果となった。
- 回答割合をみると、高齢者福祉・障害福祉分野の各施設、「自立相談支援機関」では、他の分野・施設に比べて、社会人のヤングケアラーに気付く傾向が高い。

回答集計 - 認知の状況 -

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

選択肢回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=906

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
家庭訪問・相談・会話以外の業務	14	0	1	2	6	1	0	0	0	2	0	32	21	9	32	4	0	6	24	14	12	6	7	31	21	15	68	328
本人との相談・会話（家庭訪問以外）	9	8	13	10	13	12	1	0	2	12	11	4	1	0	14	0	0	5	5	5	13	4	4	2	44	3	13	220
本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	3	1	0	6	0	1	0	0	0	0	1	8	1	0	3	0	0	8	8	1	19	4	0	0	5	1	10	81
家庭訪問	17	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	2	0	0	4	0	4	0	2	0	2	2	0	0	45
家族以外の関係者からの情報提供（※他施設からの連携を除く）	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	7	1	0	1	23
他施設より連携	40	5	28	2	7	0	1	2	2	0	6	9	4	7	12	1	0	4	9	14	2	13	4	16	1	4	11	209
合計	**91**	**14**	**48**	**20**	**26**	**14**	**2**	**2**	**4**	**14**	**18**	**56**	**31**	**16**	**63**	**5**	**0**	**31**	**46**	**38**	**46**	**29**	**16**	**58**	**74**	**23**	**103**	**906**

回答割合

家庭訪問・相談・会話以外の業務	15.4%	0.0%	2.1%	10.0%	23.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	57.1%	67.7%	56.3%	50.8%	80.0%	0.0%	19.4%	52.2%	36.8%	26.1%	20.7%	43.8%	53.4%	28.4%	65.2%	66.0%	**36.2%**
本人との相談・会話（家庭訪問以外）	9.9%	57.1%	27.1%	50.0%	50.0%	85.7%	50.0%	0.0%	50.0%	85.7%	61.1%	7.1%	3.2%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	16.1%	10.9%	13.2%	28.3%	13.8%	25.0%	3.4%	59.5%	13.0%	12.6%	24.3%
本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	3.3%	7.1%	0.0%	30.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	14.3%	3.2%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	25.8%	17.4%	2.6%	41.3%	13.8%	0.0%	0.0%	6.8%	4.3%	9.7%	8.9%
家庭訪問	18.7%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	9.7%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	12.9%	0.0%	10.5%	0.0%	6.9%	0.0%	3.4%	2.7%	0.0%	0.0%	5.0%
家族以外の関係者からの情報提供（※他施設からの連携を除く）	8.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	12.1%	1.4%	0.0%	1.0%	2.5%
他施設より連携	44.0%	35.7%	58.3%	10.0%	26.9%	0.0%	50.0%	**100.0%**	50.0%	0.0%	33.3%	16.1%	12.9%	43.8%	19.0%	20.0%	0.0%	12.9%	19.6%	36.8%	4.3%	44.8%	25.0%	27.6%	1.4%	17.4%	10.7%	23.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数が最も多い分類は「家庭訪問・相談・会話以外の業務」の328件、次いで「本人との相談・会話（家庭訪問以外）」220件、「本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）」81件であった。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

機関別回答抜粋

■子供家庭支援センター

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・ヤングケアラーについての実態調査を行い、アンケートの最後にヤングケアラーについて悩み、支援を求める子供が、氏名、住所、電話番号を記入できる設問を設け、それに対する回答があったため。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・教育相談で父と面談した際、父が単身赴任、母がうつ病。父が帰ってくると家事全般が滞っており、洗い物、部屋の片づけなどすべてがそのままになっているとの話が出たため。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・母のメンタル不調への寄り添いを長期にわたり行っていることは把握していた。母が泣いている背中を撫でて慰めている姿について訪問看護ステーションから報告があり、日々の生活について母に聴取したため。
・家庭訪問	・多子きょうだいの一番下の子が出生後、母に連絡しフードパントリーの粉ミルクを届けることを提案したところ、母の了承を得たため自宅訪問することになった。自宅訪問時母に家庭の状況について話を伺ったところ、本児が「一番手伝ってくれる」との話がでたため。
・家族以外の関係者からの情報提供（※他施設からの連携を除く）	・近隣住民からの相談

■児童相談所

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・父は難病、母は精神疾患がある家庭。関与するなかで、地域の支援機関からの情報提供により、児童が家事や介護を行っていることを把握した。 ・母が多量服薬で救急搬送され関与開始。母の退院時の付き添い等、世話をしていることを把握した。
・本人以外の家族との相談・会話	・母が兄弟4人の世話を本人に任せていると語っていた。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■教育委員会

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・市役所手続き同行時、外国人の保護者に代わって書類記入と通訳をしているのを見て。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・学校から家庭では親がご飯を作らず、本人が弟の分の食事も作っている状況であるという報告を受ける。 ・就学相談において把握。
・家庭訪問	・家庭訪問等の関わりの中で。

■公立小学校

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・母親が家事を放棄し、本人（小学生）が家事を担う。（料理・買い物等）
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・父子家庭。弟と妹の双子がいる。令和6年度に弟が本校に入学し、妹は他校の支援級に入学した。欠席が増えたことから、担任が本人に聞き取りを行ったところ、家庭で弟と妹の面倒を見ていることを呟いたことから学校が把握した。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・保護者から、具合の悪い下の子の面倒を見るために学校を休ませるとの連絡が入ったため。

■公立中学校

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・本人は不登校傾向であったが、弟・妹の登校に付き添い、小学校に来た。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・保健室に当該生徒が来室し、養護教諭と家庭での保護者との関係性などを話している中で疑いをもった。 ・「『弟の食事の世話をしている』と聞いた」との報告を学年教員から聞いた。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■公立高等学校

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・入学時、母が自宅にて病気療養中であると父より担任へ情報共有があり、本人からも担任に相談があった。 ・担任が、体調不良を理由に学校の欠席が多いことを心配し、校内のユースソーシャルワーカーに面接をお願いした。 ・体調不良等による遅刻欠席が増えたことから、担任との面談の中で家族状況を知ることとなった。

■その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・相談支援事業所の相談員から、障害のある姉の入浴介助をしているかもしれないとの話があったため。

■私立中学校

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・欠席の理由が、小学生の妹の運動会に行かなければならないと、保健室で漏らしたこと。

■私立高等学校

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・保健室に「寝不足なので休みたい」との訴えあり何日かに渡り来室。詳しく話を聞くと家族の分の食事の準備など家事に追われゆっくり休めていないとの発言あり、発覚した。 ・身体に痣があり、家庭内暴力の可能性を考慮し、家庭内の様子を聞いた際に気づいた。

■その他私立（特別支援学校）

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・高校進学について相談に乗っていた。その際の聞き取りにて。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■子ども・若者総合相談センター

・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・個別相談での両親の語りから。

■地域包括支援センター

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・本人と母親による要介護の父親に対する虐待通報があったこと。情報収集する中で、本人が大学生の頃から10年以上父親の介護を担って家に縛られ就職等ができない状況であることがわかった。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・病気の父親のことで、当センターに20代の娘が相談に来た。他に頼れる親族がいないため、一人で介護を担っていた。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・母親から祖母の介護相談を受けた際、子が祖母の見守りをしていると話していた。

■居宅介護支援事業所

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・母親の体調不良に伴い、自営業及び家事を、ひとりで担おうと努めていた時に気づいた。 ・難病の親を遠方に住む息子が支援。その支援により、失業となっていた。
・家庭訪問	・利用者と22歳の大学生の二人暮らしで利用者が末期癌で寝たきり状態。日中は利用者の母が介護し、訪看が来ているが夜間は娘と二人であると初回訪問で知った。
・家族以外の関係者からの情報提供（※他施設からの連携を除く）	・集合住宅に住んでおり、ヤングケアラーと思わしき児童が手当たり次第にチャイムを鳴らし助けを求めていた。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■基幹相談支援センター

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・高齢者虐待通報により、平日は高齢者と高校生が二人きりで生活していることが判明した。 ・父親から母親への養護者虐待通報のケース対応過程で把握した。

■特定相談支援事業所

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・生活介護事業所が利用者(成人)を送り届けた際、高校生の妹が出迎えることが度々あったこと。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・本人との面談で家族間の状況　同居の認知症の介助が負担になっている発言があった。
・家庭訪問	・保健師と自宅を訪問時　本人と家族の関係を聞き、そうかもしれないと保健師と共有した。

■病院

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・モンゴル人の母親ががん患者。大学生の息子が下の小学生の娘の面倒を見ていた。 ・患者が入院中に、患者自身が父の介護をし、金銭管理を叔父がしているため、自由や休むことができないと訴え、発覚した。

■保健所

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・保健所の支援対象者は母親。母親への支援を通じて、その可能性について気付いた。
・家庭訪問	・市との訪問時に母から「（ケア対象者である医療的ケア児の）吸引ができるんです」という発言を聞いた。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■保健センター

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・出産時（母の精神）からの関わりが継続し、子が成長しケアをする立場になった
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・聞き取りを行ったところ、母の精神的不調時に母の話を受容的に聞くこと、距離のはかり方を工夫するなど、感情面のサポートをしていることが判明した。
・家庭訪問	・家庭訪問や面談等を通じ、下の子の面倒をみたり、家事や金銭管理を行っている様子が窺えるため。

■自立相談支援機関

・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・初回面談の際、本人より「母、祖母の関係が悪く、幼いころから自分が家族の間を取り持ってきた」との申し出があった。両親は不仲で喧嘩が絶えず、父親のDVやアルコール依存症もあって、相談者が中学生の時に両親が離婚した。母は精神疾患があり服薬中で、弟は幼少期からひきこもり、不登校だった。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・病気等の理由により収入が少なくなったor無くなってしまった等の相談から、生活状況を聞き取りした中で世帯に不登校などの課題を抱えた子がいることを知る等、生活困窮者自立支援における相談支援でのインテーク時に知る。

■社会福祉協議会

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・貸付（教育支援資金）の窓口に高校生が一人で申請にきたこと。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・学費の相談がきっかけで、子どもが一家の家計管理を担っていることがわかった。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・母親からの本会が実施するフードバンク事業（食料支援）への相談

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■民間支援団体

・家庭訪問・相談・会話以外の業務 ・家族以外の関係者からの情報提供 （※他施設からの連携を除く）	・子どもの表情が硬く、親への気遣いが強すぎて子どもらしさがない。 ・兄、姉の様子を含め、家庭の様子は以前より把握。最近の様子については地域の連携などから総合的に判断。

■民生委員、児童委員、主任児童委員

・家庭訪問・相談・会話以外の業務 ・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・母子家庭、母親が脳梗塞で倒れ仕事ができず生活保護の申請手続きを行う手伝いをした際、娘との親子関係から気づいた。 ・こどもの居場所での発言、家への送り届け時にスーパーでの買い物を親から頼まれていて同道したことなどから。 ・当人の口から弟妹の世話が大変と聞いた。

■フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・当会でひとり親世帯に長期休みの食糧支援をした際に応募してきた家庭の中で、母親が病気で中学生と就学前の兄弟が食品を受け取りに来たことがきっかけ。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・元々ネグレクトの家庭で、養育支援課と連絡を取り合っていることもあり、その児童に長期休み中のお弁当のことや母の様子などを聞くと児童が準備を自分でしていることがわかった。その他、関係機関を含めた会議も行っていた。
・家庭訪問	・ひとり親家庭で母親が妊娠中のつわりからの10年超の拒食状態。訪問してみると、女児がいた。ところが、この女児は食事作りや掃除洗濯など、一切の家事をしていないという。ヤングケアラーとは言えないのではないかと思うが、見えないところで母親の世話をしているのであれば、生まれた時からヤングケアラーであったのではないだろうか。

9 ヤングケアラーかもしれないと気付いたきっかけを教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■放課後等デイサービス

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・郵送物などの返送が滞っているときに利用者本人が探している様子が見られたため。 ・利用に繋がるきっかけが、きょうだい児（未就学児：知的の遅れあり）の世話を小学校低学年にも関わらずやらなければならない状況になり適応障害と診断されたため。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・社会人になったが、母子家庭であり、下の兄弟に障害があるため本人が実家を出れないと話している。

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

・家庭訪問・相談・会話以外の業務	・家庭内別居のため、母が複数の子の世話を一人で行っている家庭で、母が先に出勤し、中学生の姉が作った朝食を食べ、妹を保育園に送ってくるが、上履きが小さくて足に合わず、号泣して姉から離れられない様子。 ・母親のメンタル不調により、在園児の兄・姉が園児の送迎をしたり世話をしていると感じた為。
・本人との相談・会話（家庭訪問以外）	・母が心身の体調不良の際、迎え等に来る。会話のやり取りの中で家庭内で料理や洗濯等、頼りにしている様子がうかがえた為。
・本人以外の家族との相談・会話（家庭訪問以外）	・小学生の姉2名と園児（当時0歳児）のみで留守番をしているような言動が母親から見られ、その後子ども家庭支援センターからも同様の話があったため。 ・長期休暇中にお手伝いボランティアに来た兄弟児（上の子）から、在園児（下の子）と二人だけで過ごしたという話を聞く。

回答集計

-他機関連携・支援の状況 -

回答集計 - 他機関連携･支援の状況 -

10 ヤングケアラーの存在に気付いた後の、他の関係機関と連携（情報共有等）の有無について、教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=769

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
連携した	29	9	20	12	16	3	0	0	1	7	8	32	17	8	48	4	0	27	38	26	38	7	14	35	**81**	13	65	**558**
連携していない	9	0	0	8	3	11	1	0	3	7	1	19	17	3	15	0	0	6	4	3	6	6	2	9	30	10	**38**	211
合計	**38**	**9**	**20**	**20**	**19**	**14**	**1**	**0**	**4**	**14**	**9**	**51**	**34**	**11**	**63**	**4**	**0**	**33**	**42**	**29**	**44**	**13**	**16**	**44**	**111**	**23**	**103**	**769**

回答割合

連携した	76.3%	**100.0%**	**100.0%**	60.0%	84.2%	21.4%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	88.9%	62.7%	50.0%	72.7%	76.2%	**100.0%**	0.0%	81.8%	90.5%	89.7%	86.4%	53.8%	87.5%	79.5%	73.0%	56.5%	63.1%	**72.6%**
連携していない	23.7%	0.0%	0.0%	40.0%	15.8%	78.6%	**100.0%**	0.0%	75.0%	50.0%	11.1%	37.3%	50.0%	27.3%	23.8%	0.0%	0.0%	18.2%	9.5%	10.3%	13.6%	46.2%	12.5%	20.5%	27.0%	43.5%	36.9%	27.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字
※【設問９】の自由記述回答の「他施設から連携」に分類した数を差し引いた数値

TOPICS

- 回答割合では、「連携した」が72.6%、「連携していない」が27.4%であった。
- 「児童相談所」、「教育委員会」、「病院」は回答数が少ないものの、「連携した」が100.0%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

11 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設等の種別を回答してください。

対象分野：児童福祉 / 教育機関 / 若者支援 / 高齢者福祉 / 障害福祉 / 医療 / 保健 / 生活福祉 / 地域

回答件数

n=324

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
連携先（次のページに続く）																												
ヤングケアラー・コーディネーター	7	5	6	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	1	1	0	0	0	3	1	1	6	2	0	4	0	1	44
子供家庭支援センター	5	5	13	12	14	1	0	0	0	3	3	10	3	3	9	1	0	17	24	21	16	5	10	19	37	6	55	292
児童相談所	9	1	3	4	8	1	0	0	1	3	0	6	3	0	5	0	0	2	9	11	1	5	2	6	4	2	22	108
地域包括支援センター	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	4	15	1	6	1	0	2	4	3	8	5	1	6	5	0	3	71
居宅介護支援事業所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	3	1	11	0	0	3	4	1	5	0	1	0	4	0	1	55
基幹相談支援センター	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8	1	0	0	5	0	3	0	0	0	0	2	0	24
特定相談支援事業所	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	10	0	0	1	4	2	1	0	0	0	2	9	0	36
保健所	1	1	2	0	3	1	0	0	0	0	0	4	5	1	9	0	0	1	3	3	2	0	1	1	4	0	3	45
保健センター	7	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	8	1	0	6	1	0	1	5	7	2	5	0	2	0	0	2	53
病院	4	2	0	3	1	1	0	0	0	1	1	7	2	1	4	1	0	9	8	13	3	0	1	2	2	1	3	70
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	9
訪問看護ステーション	6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	0	10	9	7	3	5	1	1	1	0	2	61
福祉事務所	6	2	2	0	3	0	0	0	0	0	2	8	4	1	19	0	0	4	7	6	17	0	2	5	10	0	1	99
自立相談支援機関	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	0	0	3	8	0	2	2	0	0	0	25
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	7
教育委員会	5	0	3	4	10	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	2	1	0	5	0	1	8	1	2	50
公立学校	15	8	7	6	6	0	0	0	0	0	1	4	0	1	2	1	0	7	12	12	5	7	1	16	32	4	20	167
私立学校	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6

11 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設等の種別を回答してください。

		回答した機関（連携元）																											
	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
連携先	民生委員	4	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1	**18**	3	0	4	44
	児童委員	7	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	1	**21**	1	1	2	46
	主任児童委員	7	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	1	**18**	1	0	2	40
	社会福祉協議会	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	5	3	1	**9**	0	0	0	2	3	1	5	1	4	7	0	1	48
	フードバンク	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	5	0	4	**6**	0	1	25
	フリースクール	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	0
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	0	4	**7**	1	0	25
	子供食堂	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	5	**6**	0	2	29
	民間支援団体	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	**7**	1	0	0	4	5	0	0	26
	公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	**1**	0	0	2
	私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	1
	認定こども園	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	0	0	0	2
	認可保育所	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**6**	1	0	0	0	3	1	0	3	20
	認証保育所	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	2
	学童クラブ	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**4**	0	1	8
	放課後等デイサービス	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**5**	0	0	0	2	0	9
	児童館	**1**	**1**	**1**	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他	2	2	2	0	1	2	0	0	0	1	1	9	1	1	**17**	0	0	6	5	7	4	1	1	5	13	1	11	93
	合計	**113**	**45**	**53**	**41**	**60**	**18**	**7**	**8**	**10**	**21**	**35**	**118**	**61**	**35**	**147**	**24**	**18**	**90**	**140**	**133**	**108**	**99**	**54**	**176**	**196**	**57**	**174**	**2052**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では「子供家庭支援センター」への連携が最も多く292件、次いで「公立学校」が167件であった。

回答集計 - 支援・他機関連携の状況 -

11 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設等の種別を回答してください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答割合

分野	回答した機関（連携元）																											
	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
連携先（次のページに続く）																												
ヤングケアラー・コーディネーター	6.2%	11.1%	11.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	1.7%	1.6%	2.9%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.8%	0.9%	6.1%	3.7%	0.0%	2.0%	0.0%	0.6%	2.1%
子供家庭支援センター	4.4%	11.1%	24.5%	29.3%	23.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	8.6%	8.5%	4.9%	8.6%	6.1%	4.2%	0.0%	18.9%	17.1%	15.8%	14.8%	5.1%	18.5%	10.8%	18.9%	10.5%	31.6%	14.2%
児童相談所	8.0%	2.2%	5.7%	9.8%	13.3%	5.6%	0.0%	0.0%	10.0%	14.3%	0.0%	5.1%	4.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	2.2%	6.4%	8.3%	0.9%	5.1%	3.7%	3.4%	2.0%	3.5%	12.6%	5.3%
地域包括支援センター	0.9%	2.2%	1.9%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	3.4%	24.6%	2.9%	4.1%	4.2%	0.0%	2.2%	2.9%	2.3%	7.4%	5.1%	1.9%	3.4%	2.6%	0.0%	1.7%	3.5%
居宅介護支援事業所	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.1%	4.9%	2.9%	7.5%	0.0%	0.0%	3.3%	2.9%	0.8%	4.6%	0.0%	1.9%	0.0%	2.0%	0.0%	0.6%	2.7%
基幹相談支援センター	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	4.2%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	1.2%
特定相談支援事業所	0.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	6.8%	0.0%	0.0%	1.1%	2.9%	1.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	15.8%	0.0%	1.8%
保健所	0.9%	2.2%	3.8%	0.0%	5.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	8.2%	2.9%	6.1%	0.0%	0.0%	1.1%	2.1%	2.3%	1.9%	0.0%	1.9%	0.6%	2.0%	0.0%	1.7%	2.2%
保健センター	6.2%	4.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	6.8%	1.6%	0.0%	4.1%	4.2%	0.0%	1.1%	3.6%	5.3%	1.9%	5.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	2.6%
病院	3.5%	4.4%	0.0%	7.3%	1.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	2.9%	5.9%	3.3%	2.9%	2.7%	4.2%	0.0%	10.0%	5.7%	9.8%	2.8%	0.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.8%	1.7%	3.4%
診療所	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	1.6%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
訪問看護ステーション	5.3%	4.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	2.9%	5.4%	4.2%	0.0%	11.1%	6.4%	5.3%	2.8%	5.1%	1.9%	0.6%	0.5%	0.0%	1.1%	3.0%
福祉事務所	5.3%	4.4%	3.8%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	6.8%	6.6%	2.9%	12.9%	0.0%	0.0%	4.4%	5.0%	4.5%	15.7%	0.0%	3.7%	2.8%	5.1%	0.0%	0.6%	4.8%
自立相談支援機関	0.0%	2.2%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	1.7%	3.3%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	7.4%	0.0%	3.7%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
子ども・若者総合相談センター	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
教育委員会	4.4%	0.0%	5.7%	9.8%	16.7%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	1.4%	0.0%	0.0%	3.3%	1.4%	0.8%	0.0%	5.1%	0.0%	0.6%	4.1%	1.8%	1.1%	2.4%
公立学校	13.3%	17.8%	13.2%	14.6%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	3.4%	0.0%	2.9%	1.4%	4.2%	0.0%	7.8%	8.6%	9.0%	4.6%	7.1%	1.9%	9.1%	16.3%	7.0%	11.5%	8.1%
私立学校	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%

11 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設等の種別を回答してください。

分野		回答した機関（連携元）																											
		児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
連携先	民生委員	3.5%	0.0%	1.9%	2.4%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	1.6%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.9%	10.2%	1.5%	0.0%	2.3%	2.1%
	児童委員	6.2%	0.0%	0.0%	2.4%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	5.1%	1.9%	11.9%	0.5%	1.8%	1.1%	2.2%
	主任児童委員	6.2%	0.0%	0.0%	2.4%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	5.1%	1.9%	10.2%	0.5%	0.0%	1.1%	1.9%
	社会福祉協議会	1.8%	2.2%	1.9%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	4.2%	4.9%	2.9%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.3%	0.9%	5.1%	1.9%	2.3%	3.6%	0.0%	0.6%	2.3%
	フードバンク	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	3.3%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	2.3%	3.1%	0.0%	0.6%	1.2%
	フリースクール	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	1.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	4.6%	0.0%	0.0%	2.3%	3.6%	1.8%	0.0%	1.2%
	子供食堂	1.8%	4.4%	3.8%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	1.9%	2.8%	3.1%	0.0%	1.1%	1.4%
	民間支援団体	2.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.9%	0.0%	0.0%	2.3%	2.6%	0.0%	0.0%	1.3%
	公立幼稚園	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%
	私立幼稚園	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
	認定こども園	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	認可保育所	2.7%	4.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.5%	0.0%	1.7%	1.0%
	認証保育所	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.1%
	学童クラブ	0.9%	0.0%	0.0%	2.4%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.6%	0.4%
	放課後等デイサービス	0.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	0.4%
	児童館	0.9%	2.2%	1.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
	その他	1.8%	4.4%	3.8%	0.0%	1.7%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	2.9%	7.6%	1.6%	2.9%	11.6%	0.0%	0.0%	6.7%	3.6%	5.3%	3.7%	1.0%	1.9%	2.8%	6.6%	1.8%	6.3%	4.5%
	合計	**99.1%**	**95.6%**	**94.3%**	**90.2%**	**91.7%**	**66.7%**	**0.0%**	**0.0%**	**10.0%**	**52.4%**	**65.7%**	**89.0%**	**77.0%**	**57.1%**	**89.1%**	**29.2%**	**0.0%**	**78.9%**	**85.7%**	**84.2%**	**79.6%**	**76.8%**	**55.6%**	**85.8%**	**86.7%**	**52.6%**	**83.9%**	**80.2%**

TOPICS

- 回答割合では、「子供家庭支援センター」への連携が最も多く14.2%、次いで「公立学校」が8.1%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=332

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
家庭環境の把握	57	12	25	10	19	0	0	1	1	6	8	26	13	4	39	1	0	10	24	14	26	3	16	36	**62**	10	57	**480**
ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	**54**	8	27	8	17	3	0	0	2	6	6	26	10	5	35	1	0	11	22	25	18	0	8	37	53	8	51	441
ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	15	4	6	2	7	0	0	0	0	2	3	5	8	2	9	1	0	3	1	9	6	2	2	**25**	7	5	22	146
ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼	**17**	4	4	2	6	1	0	0	0	2	1	7	5	2	12	0	0	0	4	8	8	0	1	**17**	5	4	16	126
ケアを受ける方へのサービス利用調整	**26**	3	6	4	6	1	0	0	0	2	1	18	11	9	**26**	0	0	9	10	14	13	0	6	22	18	9	22	236
ヤングケアラー本人への支援	**37**	8	21	5	16	2	0	0	2	4	8	19	10	8	28	1	0	8	16	17	18	1	9	30	30	8	33	339
保護者への支援	**46**	7	16	8	15	2	0	1	0	4	1	12	9	2	16	0	0	5	22	13	14	0	7	24	27	9	42	302
経済的支援	18	3	4	2	8	1	0	0	0	2	1	9	6	3	8	0	0	2	5	7	14	0	3	**20**	13	3	11	143
家事支援	8	6	7	2	6	0	0	0	0	2	0	6	7	3	8	0	0	0	5	8	5	0	1	**22**	9	4	15	124
学習支援	10	4	11	3	12	1	0	0	0	2	0	4	5	3	6	0	0	0	0	11	13	2	2	**20**	18	2	14	143
就労支援	2	0	2	1	4	0	0	0	0	2	1	3	5	1	4	1	0	0	1	7	7	0	0	**18**	7	1	12	79
見守り	28	5	14	5	15	1	0	1	0	3	3	9	7	2	13	0	0	4	18	14	8	0	7	31	29	6	**46**	269
その他	5	0	2	1	3	0	0	0	0	2	3	4	5	1	6	2	0	3	1	7	8	0	0	**19**	12	3	17	104
合計	**323**	**64**	**145**	**53**	**134**	**12**	**0**	**3**	**5**	**39**	**36**	**148**	**101**	**45**	**210**	**7**	**0**	**55**	**129**	**154**	**158**	**8**	**62**	**321**	**290**	**72**	**358**	**2932**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

回答割合

n=240

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
家庭環境の把握	17.6%	18.8%	17.2%	18.9%	14.2%	0.0%	0.0%	33.3%	20.0%	15.4%	22.2%	17.6%	12.9%	8.9%	18.6%	14.3%	0.0%	18.2%	18.6%	9.1%	16.5%	**37.5%**	25.8%	11.2%	21.4%	13.9%	15.9%	**16.4%**
ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	16.7%	12.5%	18.6%	15.1%	12.7%	25.0%	0.0%	0.0%	**40.0%**	15.4%	16.7%	17.6%	9.9%	11.1%	16.7%	14.3%	0.0%	20.0%	17.1%	16.2%	11.4%	0.0%	12.9%	11.5%	18.3%	11.1%	14.2%	15.0%
ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	4.6%	6.3%	4.1%	3.8%	5.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	8.3%	3.4%	7.9%	4.4%	4.3%	14.3%	0.0%	5.5%	0.8%	5.8%	3.8%	**25.0%**	3.2%	7.8%	2.4%	6.9%	6.1%	5.0%
ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼	5.3%	6.3%	2.8%	3.8%	4.5%	**8.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	2.8%	4.7%	5.0%	4.4%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	5.2%	5.1%	0.0%	1.6%	5.3%	1.7%	5.6%	4.5%	4.3%
ケアを受ける方へのサービス利用調整	8.0%	4.7%	4.1%	7.5%	4.5%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	2.8%	12.2%	10.9%	**20.0%**	12.4%	0.0%	0.0%	16.4%	7.8%	9.1%	8.2%	0.0%	9.7%	6.9%	6.2%	12.5%	6.1%	8.0%
ヤングケアラー本人への支援	11.5%	12.5%	14.5%	9.4%	11.9%	16.7%	0.0%	0.0%	**40.0%**	10.3%	22.2%	12.8%	9.9%	17.8%	13.3%	14.3%	0.0%	14.5%	12.4%	11.0%	11.4%	12.5%	14.5%	9.3%	10.3%	11.1%	9.2%	11.6%
保護者への支援	14.2%	10.9%	11.0%	15.1%	11.2%	16.7%	0.0%	**33.3%**	0.0%	10.3%	2.8%	8.1%	8.9%	4.4%	7.6%	0.0%	0.0%	9.1%	17.1%	8.4%	8.9%	0.0%	11.3%	7.5%	9.3%	12.5%	11.7%	10.3%
経済的支援	5.6%	4.7%	2.8%	3.8%	6.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	2.8%	6.1%	5.9%	6.7%	3.8%	0.0%	0.0%	3.6%	3.9%	4.5%	**8.9%**	0.0%	4.8%	6.2%	4.5%	4.2%	3.1%	4.9%
家事支援	2.5%	**9.4%**	4.8%	3.8%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	4.1%	6.9%	6.7%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	5.2%	3.2%	0.0%	1.6%	6.9%	3.1%	5.6%	4.2%	4.2%
学習支援	3.1%	6.3%	7.6%	5.7%	9.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	2.7%	5.0%	6.7%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	8.2%	**25.0%**	3.2%	6.2%	6.2%	2.8%	3.9%	4.9%
就労支援	0.6%	0.0%	1.4%	1.9%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	2.8%	2.0%	5.0%	2.2%	1.9%	**14.3%**	0.0%	0.0%	0.8%	4.5%	4.4%	0.0%	0.0%	5.6%	2.4%	1.4%	3.4%	2.7%
見守り	8.7%	7.8%	9.7%	9.4%	11.2%	8.3%	0.0%	**33.3%**	0.0%	7.7%	8.3%	6.1%	6.9%	4.4%	6.2%	0.0%	0.0%	7.3%	14.0%	9.1%	5.1%	0.0%	11.3%	9.7%	10.0%	8.3%	12.8%	9.2%
その他	1.5%	0.0%	1.4%	1.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	8.3%	2.7%	5.0%	2.2%	2.9%	**28.6%**	0.0%	5.5%	0.8%	4.5%	5.1%	0.0%	0.0%	5.9%	4.1%	4.2%	4.7%	3.5%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「家庭環境の把握」が最も多く、480件となった。
- 中でも「民間支援団体」、「社会福祉協議会」など地域における施設において、「家庭環境の把握」と回答した割合が高い傾向にあった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「家庭環境の把握」を目的としたケースのクロス集計

n=469

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、特別支援学校、義務教育学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	10	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	28
子供家庭支援センター	8	10	12	8	17	0	0	2	1	1	0	2	0	2	8	1	0	7	17	9	10	2	9	9	26	3	27	191
児童相談所	9	2	10	2	8	0	0	2	1	3	0	2	2	0	4	0	0	1	5	2	1	1	0	1	1	0	10	67
地域包括支援センター	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	7	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2	9	4	0	1	39
居宅介護支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	0	0	20
基幹相談支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
特定相談支援事業所	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	0	16
保健所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	7
保健センター	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	21
病院	3	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	22
診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
訪問看護ステーション	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	17
福祉事務所	14	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	11	0	0	0	2	4	5	1	5	4	5	0	0	62
自立相談支援機関	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	11
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	7	1	10	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	0	1	35
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	27	9	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	2	5	5	3	3	66
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	9
児童委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
主任児童委員	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	12
社会福祉協議会	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	11
フードバンク	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
民間支援団体	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
公立幼稚園	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	11
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放課後等デイサービス	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
児童館	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	**133**	**39**	**54**	**12**	**36**	**0**	**0**	**4**	**2**	**5**	**11**	**39**	**13**	**7**	**50**	**2**	**0**	**13**	**44**	**16**	**25**	**4**	**26**	**35**	**55**	**10**	**47**	**682**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、家庭環境の把握を目的とした連携先は、「子供家庭支援センター」が191件と最も多かった。次点は「児童相談所」であり、児童福祉分野の施設に連携を取っている傾向が高い。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「ヤングケアラーを把握したことについての情報共有」を目的としたケースのクロス集計

n=436

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	5	5	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	27
子供家庭支援センター	7	5	17	8	16	1	0	0	1	3	1	1	1	4	6	1	0	9	18	15	8	0	5	12	24	2	25	190
児童相談所	15	1	9	1	7	0	0	0	2	2	1	2	0	1	2	0	0	2	7	1	1	0	0	4	0	0	7	65
地域包括支援センター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	2	1	0	0	2	1	0	0	1	6	4	0	1	27
居宅介護支援事業所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	15
基幹相談支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	10
特定相談支援事業所	6	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	12
保健所	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	3	0	0	0	1	3	1	0	1	0	0	0	1	17
保健センター	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	13
病院	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	12
診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
訪問看護ステーション	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15
福祉事務所	16	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	1	9	0	0	0	0	1	6	0	2	3	9	0	0	56
自立相談支援機関	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	12
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	6	0	5	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	1	26
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	6	1	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4	1	0	2	22
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6
児童委員	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
主任児童委員	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	12
社会福祉協議会	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	0	18
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
民間支援団体	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	12
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放課後等デイサービス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
児童館	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	**106**	**23**	**49**	**9**	**33**	**5**	**1**	**0**	**3**	**5**	**6**	**42**	**11**	**9**	**45**	**3**	**0**	**18**	**44**	**24**	**17**	**0**	**16**	**38**	**44**	**4**	**40**	**595**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、ヤングケアラーを把握したことについての情報共有を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が190件と最も多かった。次点は「児童相談所」であり、児童福祉分野の施設に連携を取っている傾向が高い。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼」を目的としたケースのクロス集計

n=151

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
子供家庭支援センター	0	3	4	1	5	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	1	1	6	0	0	1	9	1	2	10	49
児童相談所	1	1	1	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	4	18
地域包括支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	14
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
基幹相談支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
特定相談支援事業所	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
保健センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	5
診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問看護ステーション	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
福祉事務所	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	3	0	0	1	2	1	0	0	18
自立相談支援機関	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	12
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
児童委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
フードバンク	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**38**	**7**	**15**	**1**	**13**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2**	**3**	**3**	**4**	**2**	**7**	**2**	**0**	**3**	**2**	**11**	**2**	**1**	**4**	**19**	**3**	**4**	**20**	**166**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が49件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼」を目的としたケースのクロス集計

n=129

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	10
子供家庭支援センター	1	2	1	1	4	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	5	0	0	0	2	2	2	8	33
児童相談所	2	0	0	0	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	13
地域包括支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
居宅介護支援事業所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
基幹相談支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
特定相談支援事業所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
保健所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	6
保健センター	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
訪問看護ステーション	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9
福祉事務所	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	17
自立相談支援機関	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	8
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
児童委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
社会福祉協議会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
フードバンク	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
民間支援団体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**50**	**7**	**6**	**1**	**11**	**1**	**0**	**0**	**0**	**2**	**1**	**7**	**2**	**3**	**11**	**1**	**0**	**0**	**8**	**9**	**3**	**0**	**4**	**5**	**3**	**3**	**15**	**153**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が33件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「ケアを受ける方へのサービス利用調整」を目的としたケースのクロス集計

n=235

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	8
子供家庭支援センター	6	2	1	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	1	6	2	1	0	1	4	4	2	6	48
児童相談所	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	13
地域包括支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	2	0	0	0	1	1	2	0	2	3	4	0	1	23
居宅介護支援事業所	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1	1	6	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	27
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6
特定相談支援事業所	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4	0	18
保健所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	7
保健センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	7
病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	3	0	4	1	0	1	0	0	0	0	15
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
福祉事務所	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	4	4	5	0	0	30
自立相談支援機関	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**28**	**3**	**6**	**4**	**9**	**1**	**0**	**0**	**0**	**3**	**2**	**21**	**8**	**7**	**30**	**0**	**0**	**13**	**16**	**17**	**8**	**0**	**10**	**13**	**19**	**9**	**15**	**242**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、ケアを受ける方へのサービス利用調整を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が48件と最も多く、次点では「福祉事務所」の30件であった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「ヤングケアラー本人への支援」を目的としたケースのクロス集計

n=338

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	4	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	0	0	27
子供家庭支援センター	17	3	7	4	11	0	0	0	0	2	1	2	0	3	9	0	0	4	9	3	3	0	3	3	5	2	8	99
児童相談所	7	0	0	0	4	1	0	0	1	2	1	3	0	1	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5	33
地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0	1	11
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
特定相談支援事業所	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	9
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	6
保健センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6
病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	5
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
訪問看護ステーション	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
福祉事務所	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2	0	0	0	1	4	4	0	4	0	1	0	0	27
自立相談支援機関	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	11
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
教育委員会	4	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0	0	1	1	2	0	1	23
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	8	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0	1	4	2	0	3	37
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	6
児童委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
主任児童委員	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	**6**	0	0	0	11
社会福祉協議会	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	5	0	1	0	0	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
フリースクール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	12
民間支援団体	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	8
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
児童館	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
合計	**65**	**14**	**33**	**5**	**28**	**2**	**0**	**0**	**1**	**6**	**10**	**19**	**5**	**7**	**34**	**1**	**0**	**10**	**24**	**15**	**15**	**0**	**15**	**27**	**16**	**7**	**23**	**382**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、ヤングケアラー本人への支援を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が99件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「保護者への支援」を目的としたケースのクロス集計

n=180

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	12
子供家庭支援センター	15	4	7	9	15	0	0	2	0	1	0	2	0	1	2	0	0	3	13	5	0	0	3	5	4	3	16	110
児童相談所	7	0	5	0	7	0	0	2	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0	0	0	1	0	8	41
地域包括支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	5	0	0	5	0	0	1	17
居宅介護支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	0	4	0	0	0	0	0	0	13
基幹相談支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	8
特定相談支援事業所	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	7
保健所	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	1	0	3	0	2	18
保健センター	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	14
病院	7	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	4	1	0	1	0	0	0	0	21
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
訪問看護ステーション	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	13
福祉事務所	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	2	4	2	0	2	3	3	0	0	27
自立相談支援機関	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	9
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	3	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	11
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	2	2	15
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	5
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
主任児童委員	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	7
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
フードバンク	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	**5**	0	0	12
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
民間支援団体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	**81**	**9**	**22**	**9**	**31**	**2**	**0**	**4**	**0**	**4**	**1**	**11**	**2**	**4**	**17**	**1**	**0**	**11**	**43**	**20**	**17**	**0**	**10**	**23**	**21**	**7**	**33**	**383**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、保護者への支援を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が110件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「経済的支援」を目的としたケースのクロス集計

n=91

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
子供家庭支援センター	0	0	1	1	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10
児童相談所	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
地域包括支援センター	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定相談支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
福祉事務所	20	4	2	0	2	1	0	0	0	0	1	8	2	2	6	0	0	2	2	8	6	0	2	7	3	0	2	80
自立相談支援機関	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	8
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	**2**	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**27**	**5**	**7**	**1**	**12**	**1**	**0**	**0**	**0**	**2**	**1**	**12**	**3**	**3**	**9**	**0**	**0**	**2**	**2**	**8**	**10**	**0**	**3**	**7**	**4**	**3**	**8**	**130**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、経済的支援を目的とした連携先は「福祉事務所」が80件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「家事支援」を目的としたケースのクロス集計

n=79

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	9
子供家庭支援センター	1	2	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12
児童相談所	1	0	5	0	4	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	17
地域包括支援センター	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	8
居宅介護支援事業所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
特定相談支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	0	9
保健所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
保健センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
福祉事務所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	0	0	0	7	0	0	0	15
自立相談支援機関	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
社会福祉協議会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	0	**3**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**9**	**7**	**11**	**0**	**10**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2**	**0**	**3**	**2**	**3**	**9**	**0**	**0**	**0**	**6**	**9**	**1**	**0**	**0**	**13**	**4**	**3**	**13**	**105**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、家事支援を目的とした連携先は「児童相談所」が17件と最も多く、次点では「福祉事務所」の15件であった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「学習支援」を目的としたケースのクロス集計

n=81

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
子供家庭支援センター	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	10
児童相談所	0	0	5	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12
地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定相談支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉事務所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	8
自立相談支援機関	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育委員会	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	9
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3	0	2	16
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	**1**	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**4**	**4**	**13**	**1**	**9**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2**	**0**	**3**	**1**	**3**	**4**	**0**	**0**	**0**	**0**	**4**	**5**	**0**	**1**	**4**	**8**	**1**	**11**	**78**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、学習支援を目的とした連携先は「公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）」が16件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「就労支援」を目的としたケースのクロス集計

n=79

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
子供家庭支援センター	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	8
児童相談所	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定相談支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	6	0	0	0	1	1	0	2	12
自立相談支援機関	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	0	0	0	2
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**2**	**0**	**1**	**0**	**4**	**0**	**0**	**0**	**0**	**3**	**0**	**2**	**0**	**0**	**3**	**0**	**0**	**0**	**1**	**8**	**2**	**0**	**0**	**2**	**4**	**1**	**10**	**43**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、就労支援を目的とした連携先は「福祉事務所」が12件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「見守り」を目的としたケースのクロス集計

n=154

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	15
子供家庭支援センター	6	1	7	2	13	0	0	2	0	1	0	0	0	1	5	0	0	4	10	7	1	0	3	3	8	1	13	88
児童相談所	2	0	1	0	6	1	0	2	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	7	30
地域包括支援センター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	10
居宅介護支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
特定相談支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	8
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
保健センター	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	5
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
訪問看護ステーション	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	9
福祉事務所	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	2	6	0	0	1	0	3	0	0	21
自立相談支援機関	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
教育委員会	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	1	16
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	15	1	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	3	0	4	35
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	**14**	1	0	1	29
児童委員	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	**3**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	11
主任児童委員	4	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	13	0	0	0	21
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フリースクール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
民間支援団体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	11
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
児童館	0	0	0	**2**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	**61**	**6**	**16**	**5**	**30**	**1**	**0**	**4**	**0**	**4**	**4**	**13**	**6**	**4**	**24**	**0**	**0**	**6**	**41**	**21**	**4**	**0**	**8**	**39**	**23**	**5**	**29**	**354**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、見守りを目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が88件と最も多かった。

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

「その他」を目的としたケースのクロス集計

n=96

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
子供家庭支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	6	12
児童相談所	1	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8
地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
基幹相談支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定相談支援事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
保健センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	7
自立相談支援機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
公立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

12 【先の設問で「連携した」と回答した場合】連携した施設に対してどのような目的で依頼等をしましたか。当てはまる目的ごとに、前問で選択した施設種別を記載してください。

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校）	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
主任児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	7
フードバンク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フリースクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子供食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民間支援団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可保育所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
認証保育所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	**3**	**0**	**0**	**0**	**4**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2**	**0**	**1**	**1**	**0**	**3**	**0**	**0**	**12**	**3**	**12**	**5**	**0**	**0**	**0**	**1**	**1**	**13**	**61**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、その他を目的とした連携先は「子供家庭支援センター」が12件と最も多かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=345

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
家庭の状況を踏まえた判断	6	4	6	7	6	4	0	0	1	4	3	16	7	3	**27**	1	0	6	9	7	17	1	5	7	16	3	13	**179**
他機関が実施している支援につなぐため	14	2	3	3	3	0	0	0	0	3	4	9	8	2	7	3	0	3	11	8	6	1	7	5	25	7	**32**	**166**
合計	**20**	**6**	**9**	**10**	**9**	**4**	**0**	**0**	**1**	**7**	**7**	**25**	**15**	**5**	**34**	**4**	**0**	**9**	**20**	**15**	**23**	**2**	**12**	**12**	**41**	**10**	**45**	**345**

回答割合

家庭の状況を踏まえた判断	30.0%	66.7%	66.7%	70.0%	66.7%	**100.0%**	0.0%	0.0%	**100.0%**	57.1%	42.9%	64.0%	46.7%	60.0%	79.4%	25.0%	0.0%	66.7%	45.0%	46.7%	73.9%	50.0%	41.7%	58.3%	39.0%	30.0%	28.9%	**51.9%**
他機関が実施している支援につなぐため	70.0%	33.3%	33.3%	30.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%	36.0%	53.3%	40.0%	20.6%	**75.0%**	0.0%	33.3%	55.0%	53.3%	26.1%	50.0%	58.3%	41.7%	61.0%	70.0%	71.1%	**48.1%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「家庭の状況を踏まえた判断」が179件、「他機関が実施している支援につなぐため」が166件とほぼ同数であった。
- 「家庭の状況を踏まえた判断」の回答が最も多かった分野(※)は、「特定相談支援事務所」の27件であった。

※「家庭の状況を踏まえた判断」の回答割合が100.0%となっている機関もあるが、回答件数が少ないため除いて集計している。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

機関別回答抜粋

■子供家庭支援センター

・家庭の状況を踏まえた判断	・子どもの権利が侵害されていると判断したため。 ・母の精神状態の安定が間接的にヤングケアラーの負担軽減につながると判断したため。 ・下のきょうだいの保育園入所継続が母の育児ストレスの軽減につながると判断したため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・それぞれの機関が本人、保護者の支援を実施していたため、支援機関が情報共有のうえ支援した方が効果的であると判断したため。 ・要保護児童対策地域協議会。

■児童相談所

・家庭の状況を踏まえた判断	・家事支援によるYC本人の食事作りの負担軽減、ピアサポートの場の紹介によって心理的負担軽減。 ・父子分離による休息を図るため、外出支援(ホームヘルプ)によるひきこもり支援のため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・家族状況、各関係機関による本家庭の見立てを把握するため。

■教育委員会

・家庭の状況を踏まえた判断	・一人親家庭、保護者の既往歴、入院歴あり、およびそれ以外のことで児相通告があったこと。学校での三者面談遅刻等、保護者と共有すべきことができていなかったこと。本人から保護者のアルコール摂取の状況を学校で打ち明けられたことなどによる。 ・本人の養育者が要介護認定がついていること、および本人、家族が日本人ではないことによる。また、本人の養育者が高齢であったこと。学校への行き渋りがあったこと。
・他機関が実施している支援につなぐため	・子供家庭支援センターと連携し、適切な支援へつなげるため。 ・自機関での役割を鑑みると支援には限界があり、他の専門機関による支援が必要と感じたため。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

■公立学校（小学校）

・家庭の状況を踏まえた判断	・保護者の困り感と児童の困り感を学校が感じたから。 ・保護者の困り感が大きかったから。 ・地域で既に支援を受けている家庭で、学校での子供の様子が気になる状態であったため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・家庭の状況に対して支援を行う機関が子供家庭支援センターであるから。 ・卒業、進学に伴う情報共有、引継ぎ。

■公立学校（中学校）

・家庭の状況を踏まえた判断	・対象の生徒が不登校傾向に陥った。小学校低学年の兄弟の通う小学校から兄が兄弟を小学校へ送迎しているという通報を受けたため。対象の生徒本人が「兄弟を小学校へ送迎しているので中学校へ登校できない」と訴えたため。 ・中学1年での母との死別により、父、本人、3人のきょうだい(未就学児あり)の5人で生活することとなり、本人は洗濯や弟の保育園の送りなどをおこなっていた。担任には家では学習に集中できないと訴えていたこともあり、支援の必要な家庭と判断した。
・他機関が実施している支援につなぐため	・学校だけでは解決できないと考えたため。 ・ケース会議において各機関の役割を確認した。

■公立高等学校

・家庭の状況を踏まえた判断	・ヤングケアラー本人の進学希望を叶えるための経済的支援の有無を確認、食事の提供ができるか確認し、本人に情報提供した。 ・ヤングケアラー本人の負担を減らす必要があることを保護者に伝えるため、通訳の派遣を依頼、面接に立ち合ってもらった。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

■子ども・若者総合相談センター

・家庭の状況を踏まえた判断	・家族が福祉サービスの利用に抵抗感が強く、ケアラー本人への介護負担が非常に大きい状況であり、機関連携による本人の負担軽減が必要と判断したため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・訪問看護担当者はヤングケアラーの幼少期から知っており信頼も厚い。今後状況により若者相談への相談を促してもらえることとなったため。

■地域包括支援センター

・家庭の状況を踏まえた判断	・進学は、大きな課題であったので。
・他機関が実施している支援につなぐため	・介護保険サービスの利用調整 ・経済的困窮により生活保護受給申請サポートが必要であったため。 ・社会福祉協議会のCSWに情報共有した方が良い解決策があるのではないかと考えたため。

■居宅介護支援事業所

・家庭の状況を踏まえた判断	・叔父叔母から、両親の介護者としての役割の強要等があったので。 ・未成年であり、就学や進路等サポートが必要な状況だったので。
・他機関が実施している支援につなぐため	・居宅介護支援事業所のケアのみでは対応しきれないため。 ・難病の方、進行性疾患だった為、ケアマネのみならず、包括・病院MSWと連携することで、大きな支援の対策改善のきっかけとなった。

■基幹相談支援センター

・家庭の状況を踏まえた判断	・見守りを担っている高校生から、高齢者への暴力があり、支援を要すると判断。
・他機関が実施している支援につなぐため	・ケアを受けている方の必要なケア量の把握にあたり、特定相談支援事業所によるアセスメントを参考とするため。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

■特定相談支援事業所

・家庭の状況を踏まえた判断	・ケアラーにも発達障害があること、学校にいけないこと、本人にアルコール問題があり家事ができておらず、それを否認していること、自殺企図があること、入院をしたこと。 ・学校へ家庭環境について情報開示が不十分。母親が自身の障害を隠している、など。
・他機関が実施している支援につなぐため	・計画相談を担当している方の家族の課題ため、担当CWとも情報共有した。（担当CWから関係機関への（自治体ベースでの）支援の広がりも期待している） ・相談支援専門員だけでは対応しきれないと感じ、自治体もその必要性があると判断し、連携した。

■病院

・家庭の状況を踏まえた判断	・患者の退院支援、復学があったから。
・他機関が実施している支援につなぐため	・母親の医学的、看護的なケアのため、訪問看護ステーションと連携。

■保健所

・家庭の状況を踏まえた判断	・子の健全な育成・人とのかかわりの醸成等の一端を担える可能性を判断したため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・子供家庭支援センターから対象者を紹介され、引き続き連携が必要と判断し、継続している。本人が置かれている状況を確認し、共有することで支援の必要性について共通認識を図っている。

■保健センター

・家庭の状況を踏まえた判断	・ヤングケアラーになるリスクが高かったため。家族の中だけでは状況改善が困難だったため。 ・過去に兄弟の保護歴あり。姉兄精神科通院中で、母の養育能力に不安があったため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・医療を含めた様々な視点での意見が必要と考えたため。 ・関係機関で情報共有及び対応について協議連携することで、多職種支援につなげていくため。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

■福祉事務所

・家庭の状況を踏まえた判断	・子どもの学習意欲が高いため。保護者の通訳代わりとして、こどもの時間が使われている。 ・保護者がこどもの自立後に地域で孤立する可能性がある。 ・保護者の日本語学習意欲が高いため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・自身の部署だけでは対応が困難であり、専門的な支援を依頼する必要性が生じたため。

■自立相談支援機関

・他機関が実施している支援につなぐため	・高校中退者で高卒資格の取得を目指していたため、学習支援教室に繋いだ。この教室には臨床心理士も複数名勤務されていたため、メンタルケアも依頼した。その後、無事に進学先が決まったが入学書類が多く複雑であったため進学先の高校に手続きの支援を依頼した。 ・要保護児童対策地域協議会にて公立学校と連携を試みるため。

■社会福祉協議会

・家庭の状況を踏まえた判断	・窓口に来た兄が母から与えられたもの、バイト収入にて得たもので兄弟分の食事代を捻出している。母は支援をしないということから生活実態を把握するため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・子供家庭支援センターは、子供や家庭に関する問題に対して専門的な支援の提供、専門知識を持つセンターとの連携が必要と判断したため。 ・社会福祉協議会はひとり親家庭向けのお弁当配達の事業を実施しており、相談者の家事負担軽減を図ることを目的としたため。

■民生委員、児童委員、主任児童委員

・家庭の状況を踏まえた判断	・ケアラーの不登校とゴミ屋敷 ・祖母のケアラーに対しての暴言・暴力。
・他機関が実施している支援につなぐため	・民生委員は掃除など具体的なサポートができないため、子ども支援センターを通してサポートにつなげた。

13 【先の設問で「連携した」と回答した場合】他の関係機関と連携した理由（判断のポイント等）について教えてください。

■フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館

・家庭の状況を踏まえた判断	・妹が不登校気味であり、自宅での過ごし方に不安を感じた。
・他機関が実施している支援につなぐため	・事業内容が居場所支援と学習支援であるため、本事業で対応するべき職務の範囲を超えていると判断したため、適切な対応を取るべく、外部機関との連携が必要だと判断した。

■放課後等デイサービス

・家庭の状況を踏まえた判断	・学校や放デイをお休みして下の兄弟の面倒を見ることがあったため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・従前から様々なケースで連携していたため。

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

・家庭の状況を踏まえた判断	・きっかけは警察への通報で、本児の置き去り。（裸足で外を歩いていた為） ・精神的な病気を抱えている母と、発達的な遅れがある弟の間で、家庭内に自分の居場所がないと姉自身が感じているような様子が見受けられたため。
・他機関が実施している支援につなぐため	・他の子どもで、児相に関わっている関係があるので、弟のお世話を18歳になる兄がほとんど見ているお話をお伝えした。小学校に向けて、支援クラスへの相談など兄では難しいため、就学相談に園からお願いをして進めてもらった。兄は、専門学校に通う事で、弟のお世話からは、時間的に余裕ができた。 ・要保護児童対策地域協議会での情報共有。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。

対象分野　児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=87

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー本人への支援	6	2	4	3	8	0	1	0	1	4	0	8	3	2	**33**	1	0	9	5	5	7	0	3	9	13	4	5	**136**
ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	15	1	6	1	1	2	0	0	0	1	0	4	5	1	5	0	0	8	9	7	9	1	9	**17**	14	4	13	132
ケアを受ける方へのサービス利用調整	6	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	12	4	2	**29**	0	0	7	9	1	7	0	3	0	0	3	3	91
家庭環境の把握	5	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	0	1	4	1	0	0	6	1	5	33
学習支援	1	0	3	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	5	0	0	0	2	0	0	20
家事支援	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3	1	0	5	22
見守り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	12	0	8	24
保護者への支援	3	0	1	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	15
就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	10
ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	4
ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
経済的支援	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	**41**	**5**	**20**	**9**	**16**	**3**	**1**	**0**	**1**	**7**	**0**	**28**	**15**	**6**	**74**	**3**	**0**	**25**	**30**	**18**	**35**	**2**	**17**	**30**	**50**	**12**	**43**	**490**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。

回答割合

n=87

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー本人への支援	14.6%	40.0%	20.0%	33.3%	50.0%	0.0%	**100.0%**	0.0%	**100.0%**	57.1%	0.0%	28.6%	20.0%	33.3%	44.6%	33.3%	0.0%	36.0%	16.7%	27.8%	20.0%	0.0%	17.6%	30.0%	26.0%	33.3%	11.6%	**27.7%**
ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	36.6%	20.0%	30.0%	11.1%	6.3%	**66.7%**	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	33.3%	16.7%	6.8%	0.0%	0.0%	32.0%	30.0%	38.9%	25.7%	50.0%	52.9%	56.7%	28.0%	33.3%	30.2%	27.0%
ケアを受ける方へのサービス利用調整	14.6%	0.0%	20.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**42.9%**	26.7%	33.3%	39.2%	0.0%	0.0%	28.0%	30.0%	5.6%	20.0%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	25.0%	7.0%	18.6%
家庭環境の把握	12.2%	20.0%	0.0%	22.2%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	6.7%	0.0%	4.1%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	11.4%	**50.0%**	0.0%	0.0%	12.0%	8.3%	11.6%	6.7%
学習支援	2.4%	0.0%	15.0%	0.0%	18.8%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	16.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%
家事支援	12.2%	**20.0%**	5.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	10.0%	2.0%	0.0%	11.6%	4.5%
見守り	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	**24.0%**	0.0%	18.6%	4.9%
保護者への支援	7.3%	0.0%	5.0%	11.1%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**28.6%**	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	2.0%	0.0%	4.7%	3.1%
就労支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	**33.3%**	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	5.7%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**5.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	4.7%	0.8%
ヤングケアラー支援に関する会議体（貴施設開催）への参加依頼	0.0%	0.0%	**5.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
経済的支援	0.0%	0.0%	0.0%	**11.1%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「ヤングケアラー本人への支援」につながったのが136件と最も多くなった。
- 回答割合では、高齢者福祉、障害福祉、保健分野において、「ケアを受ける方へのサービス利用調整」の回答が他分野と比較して高い傾向にあった。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながった。 また、支援者の孤立を防ぐことにも繋がる。
	・祖母に適切なサービスが入り、安定した生活ができるようになった。
	・ケア対象者の施設入所が決まり、ヤングケアラーの負担や不安の軽減ができた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・学校に連絡するようになり、（ケアラー）児の安否確認ができるようになった。
	・状況把握がより的確になり、法律相談を経てＮＰＯ法人の連携につながった。
・ヤングケアラー本人への支援	・支援の方向性を関係機関及び父が共有できたことにより、児への過度な負担を軽減することができ、児がアルバイトをするなど自己選択で生活状況を改善できた。
	・ヤングケアラー本人が自宅を出て独立したことで、ヤングケアラーの負担や不安の軽減ができた。
・家事支援	・過去、当家庭に当市の育児支援訪問事業を導入することで家事負担の軽減を図ることができた。
・家庭環境の把握	・幼児の発達特性から保健センター関与ができるようになり、多面的な働きかけができるようになった。
	・支援機関の介入に拒否的であったが、１８歳到達後の繋ぎの支援の必要を母児共に感じ、福祉事務所との連携や民間支援団体の案内を受け入れてくれるようになりつつある。
	・関係機関がヤングケアラーを含む家庭状況を把握し、必要な時にヤングケアラーへの支援ができる体制が整った。
・保護者への支援	・母へ障がい福祉サービスでの育児支援を導入する方向となった。
	・訪看の看護師やこども家庭センター職員が、母を受容的に支援した結果、母の精神状態が安定。また、父やヘルパーの協力を得て家事を回せるようになり、ヤングケアラーの家事負担が軽減。

■児童相談所

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・関係機関と相談し、以前から母と関係良好であった支援者がアプローチしていくことにしたので、サービス導入につなげることができた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・連携したことで、それぞれの支援者が何の役割を担うかが明確になった。
・ヤングケアラー本人への支援	・YC本人が父から離れ第三者と交流する時間が増えた、少しづつ登校意欲が出てきた。
	・YC本人が家族の愚痴を言える時間を持てて心理的負担軽減につながった。
・家事支援	・子ども家庭センター紹介の家事支援サービスにつながり本人の家事負担が軽減した。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■教育委員会

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・訪問ヘルパーが入った。子どもが訴えやすくなった。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・各機関のアセスメントやアイデアを持ち寄ることで、家族システムとしての課題や支援策がみえてきた。
・学習支援	・通訳支援による本人の学校（行事）の参加への促し。支援者全体が家族全体の理解、同じ目標で計画を共有できた。
・家庭環境の把握	・学校、担任含めて本人の家庭状況理解により、サポート体制ができている。

■公立学校（小学校）

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・支援、サービスの導入へのつながり、効果は感じられない。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・情報が増える。声掛けや保護者への働きかけの相談ができる。
・ヤングケアラー本人への支援	・本人が打ち明けたことで、困っていることを言える場所が増えた。 ・本人及び保護者の負担感の解消。
・家庭環境の把握	・保護者の状態や児童の家庭環境を多角的に情報共有できたことで、児童（保護者）への支援及び、支援の方向性が確認できた。 ・衛生への意識が高まった。家庭だけの閉鎖された環境が緩和された。
・経済的支援	・フードバンクにつながり、経済的支援につながることを期待している。

■公立学校（中学校）

・保護者への支援	・母の精神的支えになった。
・学習支援	・学習支援の場所ができた。保護者、本人ともに安心して相談できる場所ができた。
・家庭環境の把握	・本人の不登校傾向と家庭でのネグレクトと貧困、本人及び保護者の発達の問題等、問題が複合的にからんでいるので、なかなか効果は上がっていない。
・ヤングケアラー本人への支援	・ヤングケアラーが解決したとしても本人が不登校傾向であるため、効果が出ていない。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・情報提供以外の進展はなかった。ＳＳＷと学校との連携で対応できた。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■公立高等学校

・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・ヤングケアラー本人に進学のための経済的支援があること、食事の提供ができることの情報提供ができた。結果的には家族との話し合いで進学ではなく就職となってしまったが、支援が受けられることを知る機会にはなったと感じている。
・学習支援	・ヤングケアラー本人の負担感を保護者に伝えることができ、負担を減らす協力を得られた。学習支援を受けることができるようになった。

■その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）

・ヤングケアラー本人への支援	・本人が相談支援事業所の職員に、自ら電話等で相談ができるようになった。

■私立小学校

・ヤングケアラー本人への支援	・学校での本人の様子について、今まで以上に気にかけて見れるようになった。

■私立中学校

・ヤングケアラー本人への支援	・本人の精神的負担が減った。

■私立高等学校

・ヤングケアラー本人への支援	・生徒本人の精神的負担は相談支援によって軽減できていると思うが、直接的なアプローチはできていない。 ・様々な資源があることに子ども本人が気づくことができた。医療費の公的補助の申請がスムーズに行えた。家族と本人に関する情報を得て校内での支援の方向付けができた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・生徒、その親の悩みを共有することで気持ちが軽減され、生徒も登校できるようになった。

■子ども・若者総合相談センター

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・本人と要介護者に対して適切な福祉サービスを導入することができ、本人がケアラーから脱することができた。
・ヤングケアラー本人への支援	・仕事をしながらの生活の困りごとなどを整理でき、本人だけの自由な時間が持てた。 ・ヤングケアラー本人と若者相談の面談を実施することができた。本人へ、今後自身の将来について困ったことがあれば若者相談に頼ることができることを伝えられた。
・就労支援	・本人の自立（就職）に向けて、負担が軽減し、ケアを必要とする家族の生活の安定にもつながった。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■地域包括支援センター

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・介護保険サービスの利用開始での負担軽減、介護者への精神面での支援。 ・時間はかかったが、根気強く時間をかけて、ヤングケアラーの親にもなごみの家を通じてアプローチができ、結果的に親も理解を少しずつ行うことができ、ケアを受けていた家族に適切な介護保険サービスを導入することができた。 ・ショートステイの導入、ケアマネジャーと地域包括職員によるストレス軽減のための同行訪問・相談支援、それらによる本人と母親のケア負担軽減、本人と母親による父親への虐待行為の減少・防止。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・解決に至らずとも世帯に関わる支援者間が共通理解を持つことができる。
・ヤングケアラー本人への支援	・ケアマネジャーの判断を、家族が納得できておらずストレスになっていたため、調整を行った。また、ケアマネジャーは夫の理解が低かったため、娘に全ての判断を仰いでいた。キーパーソンを整理したことで、娘の負担を減らした。 ・把握して貰ったこと、成年後見申し立てについての説明を受けられ前向きに申し立てについて考えられるようになった。
・家事支援	・介護サービス量の増加による家事の負担軽減、支援の方向性を一致させることができた。
・家庭環境の把握	・家庭の抱える課題の共有、父亡き後の支援を引き継ぐことが出来た。（但し、切れ目なく十分だったかは疑問が残る）
・経済的支援	・父親は入院。知的障がいを疑われる娘は、生活保護を受け、経済的に安定していった。

■居宅介護支援事業所

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・ケアを受ける方の精神的な安心等の負担を軽減できた。そのことで、ヤングケアラー自身も介護負担による、自分の負担を自覚し、レスパイトケアにつながり、本当の意味で言葉や行動の必要な親の存在価値が復活した。 ・相談窓口ができたことに対し、特に（もう一人の介護者である）母が喜ばれた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・包括支援センターから保健所や児童相談所など適切な部署へ随時報告をしてくれた。 ・金銭面でも生活がやっていけないくらい困窮をしていた為、ケアマネでは支援できない生保ワーカーと社協の方の支援が大きかった。それが、ケアラー支援につながった。
・ヤングケアラー本人への支援	・現況の課題を見直すことにより、漠然とした不安が整理できたことで、今後の見通しがつき、各自の役割や目標等が明確になった様子。
・家庭環境の把握	・叔父や叔母へ、子であっても主に介護者になりえないことを、時間をかけて少しずつ理解を得られてきてはいると思います。
・学習支援	・通信性の高校入学等進学の機会を得ることができたと思われる。母親に相談できないことを、誰に相談できるのかを伝える事はできたのかと思います。
・見守り	・相談窓口の増加やケアを受ける本人のケアの見直し。住宅の相談等含めて色々なサポートや見守りが増えている。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■基幹相談支援センター

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・障害福祉サービス導入により、ケアを受ける方に支援が入った。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・家族の状態が安定しないため、地域生活を送る上では支援者が必須である。連携により、各支援者が円滑に支援を行なえた。
・見守り	・ケアラー本人の見守り体制の構築、相談先や社会資源についての情報提供。

■特定相談支援事業所

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・かつて、当該児童（生徒）へ、居宅介護の枠が期間限定で認められ支援をしていたことで、家族ケア負担軽減になっていた。しかし、居宅介護の制度上の支援内容では受給認定は難しく、終了となった。制度を利用して家庭内で当該児童（生徒）を支援できることはなかっただろうか、と当時を思うと心残り。 ・ヤングケアラーと思っていた長女、また、要支援者の夫が、家にヘルパーが入ることを嫌い、要支援者（妻であり母）が、遠慮して ヘルパー支援を断ると言った状況になってしまった。説得不可能だった。 ・本人を受けていれてくれる短期入所先が見つかり、姉に日常生活のケアにおいて負担が生じずに学業を継続できた。契約などの手続きは姉が実施。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・その都度ご家族の状況を把握し、支援方針の確認や修正、相談がおこなえたことで、問題が多くならないようにできた。
・ヤングケアラー本人への支援	・兄弟児支援の情報を提供したことで、本人が「また行きたい」と話すなど、本人にとっての居場所ができたと感じる。
・家庭環境の把握	・適宜母子間の緊張状態に介入できた。
・就労支援	・B型作業所に通所することになり、自身で収入を得たり、社会とのつながりが出来た。

■病院

・ヤングケアラー本人への支援	・ヤングケアラー本人が自身の希望（休息したい）を申し出て、実現できた。
・家庭環境の把握	・最終的に親族が面倒を見ることになった。
・就労支援	・現在、安定しており就労移行の施設への見学などを現在行っている。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■保健所

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・サービス利用が開始された。相談関係が築けるようになった。 ・ケアラーから解放されて、自身が精神保健上の課題を抱えていることに気づいた。(ケアの受け手になった) ・家族からの相談があり、ケアを受けている方（母）の専門病院入院、退院後の地域の支援方針の検討、サービス利用につながっている。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・支援間もないため効果は未定であるが、今後、役割分担しながらこの家族への支援を継続することができる。 ・情報の整理ができ、また関係機関に本世帯の状況を把握してもらう目的は果たすことができた。一方で、新たな支援についての提案等は得られなかった。
・保護者への支援	・保護者の支援が行われることで、ヤングケアラー本人の負担軽減につながった。

■保健センター

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・定期的に訪問看護が入っているので、家庭の状況を把握しやすい。 ・母が医療につながり、病状安定した。育児・家事ができるようになった。母の相談先が確保された。 ・ケアラーが家を離れて自分中心の生活をすることができるようになった、高齢者の施設入所の調整がされた、精神障害の親の医療調整がされた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・子供家庭支援センター：幼稚園での様子を知ることができた。訪問看護ステーション：家での本人の様子を知ることができた。サポートが必要なときに緊急訪問してもらうことができた。 ・支援者としては、1か所で抱え込まずに複数でケースを見守ることができるため、支援者への負担軽減になっている。
・ヤングケアラー本人への支援	・ヤングケアラーの子育ての支援ができる・家庭全体の状況や疾患などを把握することで支援につなげることができる・生活の基盤を支えることで安心して生活することができる。
・家事支援	・家族の家事負担の軽減、見守りが増えた。状態悪化時の医療体制を整えることが出来た。
・保護者への支援	・保護者の受診行動に変化が生じた。

■福祉事務所

・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・家事支援ヘルパー、寄り添い伴走型の相談相手の派遣、学習支援、レスパイト施設の案内、関係機関との情報共有を実施し、有効であった。ヤングケアラー本人の通学状況、ケアを受けている方の精神的安定に改善が図られた。 ・訪問看護ステーションの定期的な訪問により、母親が服薬を継続することができるようになった。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

・ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	・支援会議において関係各所が役割を把握し、父、母、兄、弟に対する支援が始まったことにより、ケアラー本人が学習や卒業後の就職に向けた準備を進めることができるようになった。
・ヤングケアラー本人への支援	・ヤングケアラーである双子のきょうだいが、年下の子たちの面倒を分担することとなり、それぞれが高校進学を果たしたが、母親の役割を高めることには至っておらず、本人たちの希望がかなったとは言い切れない。
・家庭環境の把握	・保護者：アルコール依存症のピアサポートをうけた。断酒には至らなかったが、支援を継続中。子ども：将来について相談するようになった。親子で別々の生活を望むようになった。
・学習支援	・保護者：日本語教育により、書類がある際でも頼れる先が増えた。子ども：日本語教育により自信がつき、新しい就労先へ移ることが出来た。

■自立相談支援機関

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・手当を受け取れるようになった。保護者が健康診断を受けることができた。元夫との係争を弁護士に依頼できた。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・他機関と専門的支援による連携支援を行うことにより、一つの世帯に様々な視点から課題整理のアプローチをはかることができる。
・学習支援	・「大人に頼ったことは初めてだった。困った時は頼っても良いことを知った。」という発言があった。学習支援教室の支援を受けて高校に再入学できた。
・就労支援	・スーパーマーケットでのアルバイト就労が決まった。

■社会福祉協議会

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・サービス利用状況を把握することにより、課題の整理ができた。必要なサービスへのつなぎに向けて、面談等への同席をしていただき、支援の方向性を共有できた。 ・娘が学業に専念(入院、寮へ入寮)母は家族以外の支援者を受け入れた(通院、入院、訪看)ことで社会性構築。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・相談者の望む学校に進学する目途が立った。ヤングケアラーやその家族に対する継続的なフォローアップ体制の構築に向けて各関係機関で連携をはかっている。 ・何か相談者や相談者の家庭で急な変化があった時や支援の必要性や介入せざるを得ない状況が発生した際に対応できるよう支援機関同士で情報共有が行うことができた。
・見守り	・お弁当配達事業により、配達ボランティアによる定期的な見守りにつながっている。
・就労支援	・就労につながったことにより生活の安定。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館

・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・子供家庭支援センターに定期的に家庭訪問を行ってもらい、両親への聞き取りやアドバイスをしてもらい、児童の生活習慣を変えてもらった。学童へも足を運んでもらい今後の児童へのケアについて話をし、特別保育を利用して学童での滞在時間を長くし、その間学習支援や話を聞くことによって本児童の心のケアに努めた。 ・寄り添いを行いながら支援を行うことで、自宅以外の居場所を創出することにつながり、本人の進路選択を後押しすることができたこと。 ・連携した結果、ヤングケアラー本人の世帯に担当課の相談員が訪問することで実態把握が可能となった。家庭内の今後の方針を聞き取ると同時に、適切な支援制度などの紹介が出来る体制を整えることが出来た。 ・学校などから保護者に連絡、相談体制が整っていたが、保護者が協力的でなくあまり効果は感じられなかった。
・家事支援	・月１回の子供食堂なので、効果のほどは少ないと思えるが、弁当以外にも米・食材の配布も行っているので多少は意味があるかもしれない。母子密着による弊害の問題なので、母親がむしろ人生に前向きになる必要があるので、生保の担当や生活困窮者自立支援の担当に期待をしている。
・見守り	・見守りの目が増えた必要な情報提供が行われている定期的な面談が行われている。 ・本人は希望の職種に就職をし、今でも弊団体の活動場所に時折挨拶に来てくれる。就職2年目の今も実家に住み、休みの日の地域のイベントの際には未就学の下のきょうだいたちを連れていたが、仕事があるので家事やケアからはかなり解放されたはず。（しかし、その下のきょうだい（高校生）に家事負担・継母からの圧力がかかっているようなので、まだ見守りと励ましが必要だと感じている。

■放課後等デイサービス

・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・本人の生活の状況を定期的に報告する事で、子供家庭支援センターさんの把握出来ていない部分を補うことができたと思う。 ・家庭への介入や姉弟への支援に対して、学校の積極的な理解は得られず、大きな効果は得られなかった。 ・年齢が18才になってしまった（年齢が18才に近づいた）事により、子供家庭支援センター・児童相談所からの介入がなくなり、障害者センター（基幹センター）のみが、このケースを受ける形となった。放課後等デイサービスの利用もできなくなる年齢でもあり、その後の情報は入って来ず。障がい部門に関しての、年齢の壁、連携を継続していく事の難しさを感じた。
・家庭環境の把握	・当該児童の姉の精神的負担、時間的負担が軽減した。

14 【先の設問で「連携した」と回答した場合】ヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスの導入につながったなど、連携したことによる効果について、把握している範囲で教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

・ケアを受ける方へのサービス利用調整	・ショートステイを利用するようになり、姉の送迎の頻度が少なくなった。
・ヤングケアラーを把握したことについての情報共有	・祖父が「しんどい」と園の玄関先で呟いた姿を見て、高齢になってきていることと園児(お孫さん)が就学を控えていることで、子供家庭支援センターと繋がってはどうかと勧めたことで、当初は抵抗があった様子だったが、祖父の安心には繋がった。 ・家庭での育児時間が減り、負担の軽減になった。子供家庭支援センターからに紹介でショートステイを利用し子ども保護者不在の際に弟の世話をしなくてよくなった保育者との関わりでコミュニケーションに自信が持てるようになり登校ができるようになった学校と連携して登校時間に間に合うよう送迎の時間を調整。放課後も活動を終えてからにお迎えに設定した。 ・子供家庭支援センターから姉にはイベントへの参加を呼びかけ、園児は土曜保育を利用するようにした、日曜日はお休みになるようなシフトをすすめ、子どもだけで家にいることがなくなった。 ・園児や保護者の状況から、家庭内での育児支援の必要性を感じ、児童相談所と連携を取ったことで、ヤングケアラーの兄弟に対しても適切な支援につながったこと。 ・子供家庭支援センターと連携し、情報共有したことで、保護者やヤングケアラー本人への対応を園内で検討することができた。
・ヤングケアラー支援に関する会議体（連携先開催）の設置・開催依頼	・各施設が持つ情報を会議で共有し、有効な支援について、その内容と担当部署について明確にした。
・ヤングケアラー本人への支援	・本児が安心して幼稚園で笑顔で過ごす時間を多くする、保護者（母親）がほっとできる時間の創出、見守り姿勢を示すことで保護者（母親）との信頼関係の継続。
・家事支援	・食事の支度など、準備しているなどの情報共有を行った。フードサービスを受けることになった。また、連絡がつかない時には、養育支援課の担当者が家庭訪問を行い安否確認を行うことができた。
・保護者への支援	・母親と面談等して、家庭の状況を聞きつつ、見守る程度。負担の軽減はわからない。なるべく就学前児のお子さんを保育園に連れてくるよう促している。また、母親も不登校のきょうだいの受け入れ先を探してる等努力している姿はある。 ・保護者の思いを傾聴することで前向きな気持ちになるが、対症療法でしかない。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

15 【先の設問で「連携していない」と回答した場合】他の関係機関と連携しなかった、又は連携できなかった理由・事情について、教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=96

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
他機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	3	3	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	3	**5**	26
どのような機関と連携すればよいかわからなかった	0	0	0	0	0	5	0	0	0	2	0	2	4	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	**6**	2	2	27
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**3**	0	0	0	0	1	**3**	0	0	0	**3**	**3**	**3**	18
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	**5**	0	3	17
家族の個人情報を共有することができなかった	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	**5**	1	3	18
自施設における既存の支援に時間をかける必要があり、余力がなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**	0	1	**2**	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	**2**	**2**	11
連携について相談・依頼したが、先方から断られた	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	**2**	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	9
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	2	0	0	2	1	4	0	0	0	3	2	0	2	1	2	0	0	1	1	2	0	0	0	0	**8**	4	5	40
その他	1	0	0	0	1	2	1	0	1	1	0	6	2	2	2	0	0	0	0	1	2	3	1	5	13	1	**14**	**59**
合計	**5**	**0**	**0**	**5**	**2**	**15**	**1**	**0**	**1**	**9**	**3**	**15**	**15**	**4**	**17**	**0**	**0**	**1**	**1**	**6**	**7**	**6**	**2**	**14**	**42**	**16**	**38**	**225**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

「その他」の記載内容

- ケアを受けている者に何らかの精神的課題の疑いがあり進められなかったため。
- ヤングケアラーの可能性があるかもしれないと感じたのみであるため。
- ヤングケアラー確定ではなかったため、しばらく見守りで対応しようと思っているため。
- 家族の協力とケアする方の症状改善が見られたため。
- 虐待案件として対応し、ヤングケアラーとしての関係機関連携ではないため。
- 時期が来れば社会人となり、ヤングケアラーではなくなるため。
- 食事提供のほかに具体的な状況が分かっていないため。
- 親族が対応することとなったため、お任せしたため。
- 世帯の相談先として行政の関わりがあることが確認できたため。
- 生徒本人の拒否感、またその後療養中の家族が亡くなったため支援の目的も変化し、生徒本人の拒否・保護者と連携ができ、生徒の状況が落ち着いたため。
- 母親が病状を当該生徒に伏せているとともに、本人が支援を希望しないので学校として動けていないため。
- 幼稚園では、これ以上家庭の中には入ることができないから。家庭支援センターに通報するのみのため。

15 【先の設問で「連携していない」と回答した場合】他の関係機関と連携しなかった、又は連携できなかった理由・事情について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

回答割合

n=96

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
他機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0.0%	0.0%	0.0%	**40.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	14.3%	2.4%	18.8%	13.2%	11.6%
どのような機関と連携すればよいかわからなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	13.3%	26.7%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	12.5%	5.3%	12.0%
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	**42.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	18.8%	7.9%	8.0%
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	14.3%	0.0%	0.0%	**21.4%**	11.9%	0.0%	7.9%	7.6%
家族の個人情報を共有することができなかった	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	**50.0%**	21.4%	11.9%	6.3%	7.9%	8.0%
自施設における既存の支援に時間をかける必要があり、余力がなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	**25.0%**	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	2.4%	12.5%	5.3%	4.9%
連携について相談・依頼したが、先方から断られた	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	**33.3%**	13.3%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	2.6%	4.0%
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%	50.0%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	13.3%	25.0%	11.8%	0.0%	0.0%	**100.0%**	**100.0%**	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	25.0%	13.2%	17.8%
その他	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	13.3%	**100.0%**	0.0%	**100.0%**	11.1%	0.0%	40.0%	13.3%	50.0%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	28.6%	50.0%	50.0%	35.7%	31.0%	6.3%	36.8%	**26.2%**
合計	**100.0%**	**0.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「その他」が59件と多かった。
- 「他機関と連携する必要性について意識を持っていなかった」、「どのような機関と連携すればよいかわからなかった」、「具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった」という、連携の必要性や方法についての認知度が理由の回答も３割程度あった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

16 ヤングケアラーの支援のため、他施設から対応の依頼（相談支援、情報提供等）を受けた実績（ヤングケアラーの人数）についてお答えください（依頼のあった日を基準に年度ごとにお答えください。令和６年度は調査回答時点まで）

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=175

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
令和４年度の人数	175	2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	4	3	0	16	0	0	2	8	2	0	8	11	11	9	2	10	267
令和４年度18歳以上の人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	3	0	0	0	1	0	0	3	2	4	1	0	2	21
令和５年度の人数	194	7	5	1	0	0	0	1	1	2	3	7	6	3	25	2	0	5	11	8	1	2	10	13	17	0	11	335
令和５年度18歳以上の人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	6	0	0	1	0	0	0	1	1	6	1	0	1	23
令和６年度の人数	142	10	8	2	0	0	0	0	2	2	0	1	1	1	33	1	0	5	48	6	1	4	7	12	17	1	21	325
令和６年度18歳以上の人数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	6	1	0	1	1	1	0	0	1	6	1	0	4	24
合計	**511**	**19**	**13**	**3**	**0**	**0**	**1**	**2**	**5**	**4**	**7**	**14**	**16**	**5**	**89**	**4**	**0**	**14**	**69**	**17**	**2**	**18**	**32**	**52**	**46**	**3**	**49**	**995**

【設問９】の自由記述回答の中より「他施設から連携」に分類した数と上記の小計に足した合計値

他施設より連携	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	**513**	**19**	**15**	**3**	**0**	**0**	**1**	**2**	**5**	**4**	**7**	**14**	**16**	**5**	**89**	**4**	**0**	**14**	**69**	**18**	**2**	**18**	**32**	**52**	**46**	**3**	**49**	**1000**

回答割合

令和４年度の人数	34.2%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**	50.0%	20.0%	0.0%	14.3%	28.6%	18.8%	0.0%	18.0%	0.0%	0.0%	14.3%	11.6%	11.8%	0.0%	44.4%	34.4%	21.2%	19.6%	66.7%	20.4%	26.8%
令和４年度18歳以上の人数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	**18.8%**	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	16.7%	6.3%	7.7%	2.2%	0.0%	4.1%	2.1%
令和５年度の人数	38.0%	36.8%	38.5%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	20.0%	50.0%	42.9%	50.0%	37.5%	**60.0%**	28.1%	50.0%	0.0%	35.7%	15.9%	47.1%	50.0%	11.1%	31.3%	25.0%	37.0%	0.0%	22.4%	**33.7%**
令和５年度18歳以上の人数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**28.6%**	7.1%	12.5%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.1%	11.5%	2.2%	0.0%	2.0%	2.3%
令和６年度の人数	27.8%	52.6%	61.5%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	50.0%	0.0%	7.1%	6.3%	20.0%	37.1%	25.0%	0.0%	35.7%	**69.6%**	35.3%	50.0%	22.2%	21.9%	23.1%	37.0%	33.3%	42.9%	32.7%
令和６年度18歳以上の人数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	6.7%	**25.0%**	0.0%	7.1%	1.4%	5.9%	0.0%	0.0%	3.1%	11.5%	2.2%	0.0%	8.2%	2.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

・回答件数では、「令和5年度の人数」が335件と最も多く、うち「子供家庭支援センター」が194件と大半を占めており、連携の中心となっていることが窺える。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

17 他関係機関からの連携を受けた子供・若者の属性をお答えください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=198

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
小学生	**23**	2	10	5	0	0	0	2	0	0	3	8	1	2	7	1	0	4	6	4	0	5	9	14	13	2	12	133
中学生	**33**	4	18	0	7	0	1	0	1	0	1	2	2	2	9	0	0	2	8	5	1	6	9	15	17	2	18	**163**
高校生	**17**	4	1	0	1	0	1	0	1	4	1	2	2	5	7	0	0	5	4	7	2	5	3	3	6	0	7	88
大学生（短期含む）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	**5**	0	1	0	0	0	13
専門学校生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**6**	1	1	0	0	1	10
社会人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**3**	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	10
無職	**3**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	2	0	0	2	0	1	0	2	0	1	0	**3**	20
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	**5**	13
不明	**4**	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	9
合計	**85**	**10**	**32**	**5**	**8**	**0**	**2**	**2**	**2**	**4**	**9**	**15**	**11**	**10**	**27**	**3**	**0**	**12**	**22**	**19**	**4**	**28**	**24**	**35**	**39**	**4**	**47**	**459**

回答割合

小学生	27.1%	20.0%	31.3%	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	33.3%	53.3%	9.1%	20.0%	25.9%	33.3%	0.0%	33.3%	27.3%	21.1%	0.0%	17.9%	37.5%	40.0%	33.3%	50.0%	25.5%	29.0%
中学生	38.8%	40.0%	56.3%	0.0%	**87.5%**	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	11.1%	13.3%	18.2%	20.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	36.4%	26.3%	25.0%	21.4%	37.5%	42.9%	43.6%	50.0%	38.3%	**35.5%**
高校生	20.0%	40.0%	3.1%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	**100.0%**	11.1%	13.3%	18.2%	50.0%	25.9%	0.0%	0.0%	41.7%	18.2%	36.8%	50.0%	17.9%	12.5%	8.6%	15.4%	0.0%	14.9%	19.2%
大学生（短期含む）	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	13.3%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**17.9%**	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%
専門学校生	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**21.4%**	4.2%	2.9%	0.0%	0.0%	2.1%	2.2%
社会人	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	**27.3%**	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	2.1%	2.2%
無職	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	6.7%	18.2%	10.0%	0.0%	**66.7%**	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%	2.6%	0.0%	6.4%	4.4%
その他	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	**10.6%**	2.8%
不明	4.7%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**8.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数から「中学生」が最も多く163件、次点が「小学生」の133件となった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

18 対応依頼を受けた関係機関の施設種別を回答してください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=205

※回答した機関

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ヤングケアラー・コーディネーター	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	5	1	0	5	1	2	1	0	0	27
子供家庭支援センター	2	4	15	4	4	0	1	2	1	1	1	5	1	6	11	1	0	8	15	10	0	6	8	13	18	2	25	164
児童相談所	11	1	5	6	6	0	0	2	1	2	0	2	0	2	5	0	0	0	5	1	0	0	0	5	1	1	21	77
地域包括支援センター	1	1	6	0	0	0	0	0	0	0	4	1	9	2	4	1	0	1	0	0	1	5	5	5	1	0	0	47
居宅介護支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	11
基幹相談支援センター	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
特定相談支援事業所	5	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	15
保健所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	2	4	0	0	1	0	0	0	1	13
保健センター	4	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	16
病院	6	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	23
診療所	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6
訪問看護ステーション	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	1	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	22
福祉事務所	9	0	5	0	4	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	0	2	2	2	2	1	0	2	0	0	1	36
自立相談支援機関	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	9
子ども・若者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	6
教育委員会	7	1	8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	24
公立学校	38	6	18	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	5	2	2	3	27	5	1	12	126
私立学校	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

依頼を受けた機関（次のページに続く）

18 対応依頼を受けた関係機関の施設種別を回答してください。

		※回答した機関																											
	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
依頼を受けた機関	民生委員	0	0	**6**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3	1	0	0	17
	児童委員	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	**12**	0	0	1	26
	主任児童委員	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2	**12**	0	0	1	23
	社会福祉協議会	**3**	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	**3**	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	11
	フードバンク	**6**	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	**7**	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	14
	子供食堂	**7**	0	**7**	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	21
	民間支援団体	**2**	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	7
	認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	認可保育所	**4**	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	8
	認証保育所	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	学童クラブ	**3**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	放課後等デイサービス	**5**	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	児童館	**4**	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	9
	その他	6	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	4	5	0	0	1	0	0	0	5	8	2	**13**	0	6	58
	不明	**4**	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	9
	合計	**157**	**18**	**107**	**19**	**24**	**0**	**2**	**4**	**4**	**4**	**12**	**33**	**19**	**36**	**48**	**5**	**0**	**18**	**35**	**33**	**8**	**26**	**42**	**93**	**42**	**6**	**76**	**871**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

18 対応依頼を受けた関係機関の施設種別を回答してください。

回答割合

n=205

※回答した機関

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
依頼を受けた機関（次のページに続く）																												
ヤングケアラー・コーディネーター	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	10.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	3.0%	0.0%	**20.0%**	2.4%	2.2%	2.4%	0.0%	0.0%	3.1%
子供家庭支援センター	1.3%	22.2%	14.3%	21.1%	16.7%	0.0%	**50.0%**	**50.0%**	25.0%	25.0%	8.3%	15.2%	5.3%	16.7%	22.9%	20.0%	0.0%	47.1%	42.9%	30.3%	0.0%	24.0%	19.0%	14.1%	42.9%	33.3%	32.9%	**19.0%**
児童相談所	7.2%	5.6%	4.8%	31.6%	25.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	25.0%	**50.0%**	0.0%	6.1%	0.0%	5.6%	10.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	2.4%	16.7%	27.6%	8.9%
地域包括支援センター	0.7%	5.6%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	3.0%	**47.4%**	5.6%	8.3%	20.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	12.5%	20.0%	11.9%	5.4%	2.4%	0.0%	0.0%	5.5%
居宅介護支援事業所	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**18.2%**	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	1.3%
基幹相談支援センター	1.3%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	5.3%	5.6%	6.3%	**20.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
特定相談支援事業所	3.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	5.6%	4.2%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	1.7%
保健所	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	**12.1%**	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.5%
保健センター	2.6%	5.6%	1.9%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	4.2%	**20.0%**	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	2.6%	1.9%
病院	3.9%	5.6%	4.8%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	**15.8%**	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%
診療所	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**6.1%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
訪問看護ステーション	5.2%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**33.3%**	3.0%	5.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	2.6%
福祉事務所	5.9%	0.0%	4.8%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	5.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	5.7%	6.1%	**25.0%**	4.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	1.3%	4.2%
自立相談支援機関	1.3%	0.0%	1.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	**25.0%**	4.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
子ども・若者総合相談センター	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**25.0%**	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	2.4%	1.1%	2.4%	0.0%	0.0%	0.7%
教育委員会	4.6%	5.6%	7.6%	5.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	**12.5%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	2.8%
公立学校	24.8%	**33.3%**	17.1%	5.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	5.9%	2.9%	15.2%	25.0%	8.0%	7.1%	29.3%	11.9%	16.7%	15.8%	14.6%
私立学校	1.3%	**5.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%

18 対応依頼を受けた関係機関の施設種別を回答してください。

	分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
		※回答した機関																											
	詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
依頼を受けた機関	民生委員	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**6.1%**	0.0%	0.0%	4.8%	3.2%	2.4%	0.0%	0.0%	2.0%
	児童委員	0.6%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	5.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	7.1%	**12.9%**	0.0%	0.0%	1.3%	3.0%
	主任児童委員	0.6%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	4.8%	**12.9%**	0.0%	0.0%	1.3%	2.6%
	社会福祉協議会	1.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**9.1%**	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
	フードバンク	3.8%	0.0%	**4.7%**	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
	学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	4.5%	0.0%	2.8%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	**4.8%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	子供食堂	4.5%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**7.1%**	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%
	民間支援団体	1.3%	**5.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.8%
	認定こども園	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**2.1%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	認可保育所	2.5%	0.0%	0.0%	**5.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.3%	0.9%
	認証保育所	**0.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	学童クラブ	**1.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	放課後等デイサービス	3.2%	0.0%	0.9%	0.0%	**16.7%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	児童館	2.5%	0.0%	0.0%	**10.5%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
	その他	3.8%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	11.1%	10.4%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%	19.0%	2.2%	31.0%	0.0%	7.9%	6.7%
	不明	2.5%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**5.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
	合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「子供家庭支援センター」が164件、次いで「公立学校」126件であった。また、地域分野の「民生委員、児童委員、主任児童委員」から「児童委員、主任児童員」への依頼の件数がいずれも12件と多く、民生委員から児童委員に対してなど、地域の中での依頼、連携が図られている様子が窺える。
- 「子供家庭支援センター」への依頼が最も多いのは「公立学校」で38件（24.8%）であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

19 他の関係機関からの対応依頼を受けた後、貴施設においてヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスを導入したこと等について、具体的に教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=191

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
相談支援	**42**	**2**	**10**	**4**	**4**	0	**1**	0	0	1	1	3	1	**3**	**10**	0	0	3	**5**	3	0	1	**8**	1	**7**	1	11	**122**
見守り	5	0	8	0	0	0	0	**2**	0	**2**	0	0	1	2	0	0	0	0	**5**	**5**	0	1	3	**13**	6	**3**	**12**	68
生活支援	11	**2**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	2	2	0	**3**	3	2	**7**	0	4	42
医療・看護支援	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	**3**	0	**6**	4	0	0	0	0	1	0	0	1	25
介護支援	13	0	4	0	0	0	**1**	0	0	0	0	2	1	1	4	0	0	1	3	2	1	0	0	1	0	0	0	34
学習支援	1	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	**2**	2	3	1	5	0	1	26
就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**4**	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
家事支援	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
育児支援	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	7
不明	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	9
合計	**85**	**6**	**30**	**4**	**6**	**0**	**2**	**2**	**0**	**3**	**5**	**7**	**10**	**6**	**20**	**3**	**0**	**10**	**21**	**14**	**3**	**7**	**17**	**19**	**25**	**4**	**32**	**341**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

19 他の関係機関からの対応依頼を受けた後、貴施設においてヤングケアラー本人や共にケアをしている家族のケア負担の軽減、ケアを受けている方への支援・サービスを導入したこと等について、具体的に教えてください。

回答割合

n=191

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
相談支援	**49.4%**	**33.3%**	**33.3%**	**100.0%**	**66.7%**	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	33.3%	20.0%	**42.9%**	10.0%	**50.0%**	**50.0%**	0.0%	0.0%	30.0%	**23.8%**	21.4%	0.0%	14.3%	**47.1%**	5.3%	**28.0%**	25.0%	34.4%	35.8%
見守り	5.9%	0.0%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**	0.0%	**66.7%**	0.0%	0.0%	10.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**23.8%**	**35.7%**	0.0%	14.3%	17.6%	**68.4%**	24.0%	**75.0%**	**37.5%**	19.9%
生活支援	12.9%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	10.0%	0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	14.3%	0.0%	**42.9%**	17.6%	10.5%	**28.0%**	0.0%	12.5%	12.3%
医療・看護支援	1.2%	16.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	0.0%	5.0%	**100.0%**	0.0%	**60.0%**	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	3.1%	7.3%
介護支援	15.3%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	10.0%	16.7%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	14.3%	14.3%	33.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
学習支援	1.2%	0.0%	20.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	**66.7%**	28.6%	17.6%	5.3%	20.0%	0.0%	3.1%	7.6%
就労支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**80.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.4%	2.3%
家事支援	5.9%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
育児支援	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
その他	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
不明	4.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「相談支援」が122件と最も多く、そのうち「子供家庭支援センター」の42件が最多であった。
- 回答割合では、地域の分野における「見守り」の割合が高い傾向にあった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=873

分野		児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
工夫	関係機関への情報共有	7	3	11	16	8	2	2	0	2	1	1	4	12	5	27	1	0	4	5	4	6	3	29	68	0	17	233	471
	関係機関での研修などの実施	4	0	6	6	3	1	0	0	0	0	0	1	6	2	11	0	0	0	2	0	2	1	15	11	0	7	75	153
	対面にて支援を実施	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6	0	0	1	1	5	0	1	0	10	0	4	74	109
	担当者の意識向上	1	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	41	55
	事象確認時の迅速な対応	0	0	1	10	4	0	1	0	0	2	1	2	4	1	6	0	0	0	0	1	1	1	8	4	0	0	0	47
	YCの継続的な状況把握	2	1	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	15	32
	家族へのYCに関する情報提供	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	合計	17	5	18	46	17	4	4	0	2	3	3	9	25	9	52	1	0	5	8	10	9	6	52	97	0	32	438	872
課題	関係機関への情報共有	10	1	3	10	5	0	1	1	6	2	1	2	18	0	30	2	0	4	6	7	8	9	32	42	0	37	90	327
	関係機関との温度差（支援・連携）	3	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	3	1	4	0	0	1	0	1	1	1	6	11	0	8	97	142
	家族との信頼関係	0	0	3	7	5	1	0	0	0	1	0	1	5	1	7	0	0	1	0	4	3	0	6	0	0	3	45	93
	連携先がない、把握できていない	3	0	1	2	1	1	0	0	0	2	0	0	20	1	12	0	0	1	1	1	0	2	3	16	0	2	16	85
	個人情報の共有	1	0	0	5	1	1	0	0	1	1	0	0	3	2	4	0	0	2	0	1	2	2	7	18	0	14	11	76
	社会的資源不足	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	10	0	0	2	13	34
	合計	17	1	7	26	13	4	4	1	7	7	2	3	50	5	58	2	0	9	7	14	15	16	64	87	0	66	272	757

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。

回答割合　自由記述での回答を分類し集計した

n=873

分野		児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
工夫	関係機関への情報共有	41.2%	60.0%	61.1%	34.8%	47.1%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	33.3%	33.3%	44.4%	48.0%	55.6%	51.9%	100.0%	0.0%	80.0%	62.5%	40.0%	66.7%	50.0%	55.8%	70.1%	0.0%	53.1%	53.2%	54.0%
	関係機関での研修などの実施	23.5%	0.0%	33.3%	13.0%	17.6%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	24.0%	22.2%	21.2%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	22.2%	16.7%	28.8%	11.3%	0.0%	21.9%	17.1%	17.5%
	対面にて支援を実施	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	4.0%	11.1%	11.5%	0.0%	0.0%	20.0%	12.5%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	10.3%	0.0%	12.5%	16.9%	12.5%
	担当者への教育	5.9%	0.0%	0.0%	10.9%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	9.4%	6.3%
	事象確認時の迅速な対応	0.0%	0.0%	5.6%	21.7%	23.5%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	22.2%	16.0%	11.1%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	11.1%	16.7%	15.4%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%
	YCの継続的な状況把握	11.8%	20.0%	0.0%	15.2%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	3.4%	3.7%
	家族へのYCに関する情報提供	5.9%	20.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
課題	関係機関への情報共有	58.8%	100.0%	42.9%	38.5%	38.5%	0.0%	25.0%	100.0%	85.7%	28.6%	50.0%	66.7%	36.0%	0.0%	51.7%	100.0%	0.0%	44.4%	85.7%	50.0%	53.3%	56.3%	50.0%	48.3%	0.0%	56.1%	33.1%	43.2%
	関係機関との温度差	17.6%	0.0%	0.0%	3.8%	7.7%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	6.0%	20.0%	6.9%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	7.1%	6.7%	6.3%	9.4%	12.6%	0.0%	12.1%	35.7%	18.8%
	家族との信頼関係	0.0%	0.0%	42.9%	26.9%	38.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	33.3%	10.0%	20.0%	12.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	28.6%	20.0%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	4.5%	16.5%	12.3%
	連携先がない、把握できていない	17.6%	0.0%	14.3%	7.7%	7.7%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.7%	0.0%	0.0%	11.1%	14.3%	7.1%	0.0%	12.5%	4.7%	18.4%	0.0%	3.0%	5.9%	11.2%
	個人情報の共有	5.9%	0.0%	0.0%	19.2%	7.7%	25.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	6.0%	40.0%	6.9%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	7.1%	13.3%	12.5%	10.9%	20.7%	0.0%	21.2%	4.0%	10.0%
	社会的資源不足	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	12.5%	15.6%	0.0%	0.0%	3.0%	4.8%	4.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 連携上の工夫として最も多かったのが「関係機関への情報共有」54.0%であると同時に、課題としても「関係機関への情報共有」が43.3%で最多であった。このことから、他機関との円滑な連携のためには、「情報共有」が重要な要素であることが窺える。
- 情報共有に関する回答を除くと、連携上の工夫として、特定相談支援事業所や、地域の一部施設において「関係機関での研修などの実施」の回答件数が多かった。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

【工夫】

・関係機関への情報共有	・複合的多問題の一つとして既に支援しているケースの中に、ヤングケアラー支援の視点を加える形で、関係機関に都作成のマニュアル、DVDを活用し周知啓発をし、区としての繋ぎ方や支援内容を説明し一定の理解を得ている。 ・機関によりサービス範囲、対象の違いがあるので、押し付け合いにならないよう一緒に考えていってほしいというスタンスを前面に連携をとっている。

【課題】

・関係機関との温度差	・高齢・障害・ひとり親等を対象とした居宅介護支援の事業があるが、介護が必要な本人に対するものであり、子供にケア負担が生じていることのみを以てサービスを適用することはできない。サービスを利用したい状況はあっても、利用条件と合致しないことがある。
・関係機関への情報共有	・要保護児童対策地域協議会にて情報共有を実施している。ヤングケアラーの相談内容は児童のみならず、高齢障害など多岐にわたるため、専門の所管の設置や各所管に専門の担当者など、必要と思われる。要保護児童対策地域協議会にて情報共有を実施している。 ・要保護児童対策地域協議会で取り上げられるケースは連携しやすい。子供食堂や民間施設、NPO法人とのやり取りは、本人の同意を得る必要があるため難しさがある。
・個人情報の共有	・ヤングケアラーコーディネーターを中心としてヤングケアラー支援を行っているため、ヤングケアラーコーディネーターの周知には力を入れている。また関係機関や地域がヤングケアラーを身近に感じ、またネガティブに捉えず、ヤングケアラーへの支援や必要な機関へのつなぎや支援を行えるよう、研修を行っている。しかし学校などのヤングケアラーを発見しやすい環境にいる職員向けに研修を行いたくても、必修の研修にすることは難しいなどの問題がある。また研修を通じてヤングケアラーへの理解が深まったとしても、個人情報のやり取りができないことがあり、その場合は具体的に支援していくことが難しい。
・連携先がない、把握できていない	・ヤングケアラーの情報提供を受ける際、本人の同意が得られるとは限らない。18歳未満であれば、要支援児童として情報提供を受けられるが、18歳以上のケアラーについても、本人や家族の同意なく情報提供を受けられる法的な根拠を確立してほしい。

■児童相談所

【工夫】

・関係機関への情報共有	・高次脳機能障害、身体障碍のある母を支え不登校の本人について学校と連携しSSWが介入し、母へのサポート団体の紹介。母自身のサポートが手厚くなった。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■教育委員会

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携	・直接会った児童、生徒のことではないため学校からの情報をもとに話すため必要な情報が足りないことがある。
・家族との信頼関係	・他の関係機関と連携する際に子ども本人と保護者の同意を得ることが課題だと思う。 ・保護者との信頼関係を継続しながら、支援をしていくこと。
・連携先がない、把握できていない	・連絡が施設の営業時間を過ぎた場合、連絡が遅れること。施設により受け入れに対する柔軟な姿勢が異なること。

■公立学校（小学校）

【工夫】

・YCの継続的な状況把握	・日常的に連絡を密にとっておくこと。
・家族へのYCに関する情報提供	・パンフレットなどによる保護者への通知。
・事象確認時の迅速な対応	・迅速に対応することを心掛けている。
・YCの継続的な状況把握	・継続して連携していくことによって円滑にすすめることができる。
・事象確認時の迅速な対応	・疑いを感じた時点ですぐに連絡を取り、情報共有している。
・担当者への教育	・家庭への支援が必要な児童や、登校支援が必要な児童など、普段から情報共有情報交換を実施し、すぐに話せる雰囲気づくりに努めている。 ・情報共有を円滑に進めるため、該当児童がいない状況であっても、多様な背景をもつ児童（今後何らかの課題が発生する可能性がある児童）の状況について話し合う時間を設けている。
・関係機関での研修などの実施	・毎週生活指導連絡会を設け、そこにSSWも参加してもらっている。日頃より民生児童委員の方と情報共有を行っている。
・関係機関にて情報共有	・外部連携が必要な情報はもちろん、その他の情報も管理職に報告し、学校としての対応ができるようにしている。

【課題】

・連携先がない、把握できていない	・連携先がわからないことが課題。 ・現時点では、ヤングケアラーに該当する児童は、いないと考えている。実際に存在に気付いた場合、適切に連携していけるのかを課題に感じている。
・社会的資源不足	・ヤングケアラー以外についても察知できるようにしておく必要があり、多くの情報に気を配らないといけない。その結果情報量が多く、教職員の目に留まりにくくなってしまっている。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

・関係機関への情報共有、支援連携	・他機関と連携して支援にあたるためにはまず、該当児童及び家庭状況の適切で確実な把握が必要だと考える。その実態把握のための連携機関と学校との役割分担が難しい。 ・区などの単位で連絡先等が整理された明確なフローがないことが課題と感じます。
・家族との信頼関係	・実態を把握する（家庭内に入る）のは学校ではできないので連携が必要。
・関係機関との温度差	・円滑な連携には、日頃からの信頼関係、協力関係の構築が大事であると思って取り組んでおります。課題は、関係機関の中には連絡がスムーズに取れない機関もあり、スムーズな対応に支障が生じてしまうケースがあると感じております。
・事象の把握	・情報共有をするための聞き取り等が電話などでなされるため、時間を要する。
・個人情報の共有	・具体的な事例が今のところないので、仮定の話だが、個人情報の扱いや、どこが中心となって動くのかが不安です。
・家族との信頼関係	・情報の発信元を聞かれること。この案件は情報発信者の情報を相手に伝えないでほしい。

■公立学校（中学校）

【工夫】

・関係機関への情報共有	・支援要請の可能性がある事案については、早い段階から情報を提供するようにしている。
・関係機関での研修などの実施	・確実に情報が共有できるよう担当者を中心に定期的に会議を行っている。

【課題】

・関係機関との温度差	・児童相談所には大変お世話になっているが、対応が遅いと感じることがある。
・家族との信頼関係	・ヤングケアラーの支援等について、学校として家庭内への介入が難しいと感じる。 ・関係機関との連携においてはスムーズに行えていると思うが、実際に家庭に入っていくことについては、保護者の拒否感等も強く、難しさを感じている。
・関係機関への情報共有、支援連携	・SSWなど窓口となる方に依頼する。学校が複数の機関と連携するのは難しい。
・事象の把握	・関係機関担当者と教職員との会議日時の調整。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）

【工夫】

・関係機関での研修などの実施

・担当者への教育

・必要に応じて各関係機関と細かく連絡を取り合ったり、関係者会議を行ったりしている。

・情報共有する資料を整理し、シートを作成して見やすい工夫をしている。

【課題】

・関係機関との温度差

・各施設との情報連携行動連携を密にしたいが、連絡会や情報交換会の開催頻度には、それぞれの施設の必要感が異なっており、結局のところ言い出した施設のペースに合わせざるを得ない状況がある。軸をどこに設定すれば良いか疑問が残る。

・社会的資源不足

・学校だけで解決できることではないので、子供家庭支援センターなどと連携していくことが必要である。子供家庭支援センターや児童相談所など支援機関のマンパワーが必要と感じている。

■私立小学校

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携

・私学のため児童の居住地が様々なため、各市町村区の関係機関をスムーズに確認できるかどうか。

■私立中学校

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携

・私立学校なため、居住区が広く各地区によって担当機関が異なる（例えば、子供家庭支援センターだったり市役所の養育支援課だったり）こと、また、担当者によって対応が異なることを虐待ケースなどで経験しているため、支援機関とつなぐ際、支援機関と学校との連携経験の積み重なりが少ないため、難しさを感じる場合がある。

・連携機関や担当者が複数に及ぶと、同じ説明を何度もしなければならない。情報を一度に共有する仕組みがあると良い。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■私立高等学校

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携	・「見守り」の指示の場合、関係機関内における調査報告を、支障の無い範囲で連絡して欲しい。
・社会的資源不足	・ヤングケアラーの問題だけでなく、スクールソーシャルワーカーの設置が急務と感じられる場面が増えているが、私立学校の場合は人件費の問題など多くの壁があることが課題と感じている。
・連携先がない、把握できていない	・窓口が適切かどうかの判断がつかない。 ・18歳以上は高校生でも支援してもらえる幅が狭まると感じているので、まずどのような支援先があるのかを把握することが課題だと感じます。

■子ども・若者総合相談センター

【工夫】

・対面にて支援を実施	・若者相談として出来ることを丁寧に説明するようにしている。できるかぎり本人と話ができる機会が作れるよう、お互い協力しあえるようにしている。

【課題】

・関係機関との温度差	・世帯の中で誰をメインに支援するべきか（ケアが要る人かヤングケアラー本人か）について、各機関で認識がずれやすい。
・関係機関への情報共有、支援連携	・ヤングケアラーが疑われるケースである場合は、速やかに児童相談所や子供家庭支援センターと連携を取るが、各機関が各々の情報の元に動いていることが多く、情報共有がきちんとできていないために上手く連携できているとは言い難い。そのため、支援の方向性がズレることが多々みられる。

■地域包括支援センター

【工夫】

・関係機関への情報共有	・市立の全小・中学校で実施する認知症サポーター養成講座で児童・生徒にヤングケアラーに関するアンケートを行い管轄機関へ情報提供。

【課題】

・家族との信頼関係	・ヤングケアラーや保護者が自身の支援を受け入れるための同意を得ることが難しい。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■居宅介護支援事業所

【工夫】

・関係機関への情報共有	・顔の見える関係づくりが日頃から行えていると連携しやすい。情報共有時には話が迂遠にならないように気を付けている。 ・地域包括支援センターの職員に、まずは相談する。必要な機関はどこかを検討して一緒に動いてもらう事もありますし、多職種で集まり意見交換等も行ってもらえています。 ・密に連携を取る事を意識した。医師・看護師・ケアマネとで何度もカンファレンスをした。
・関係機関での研修などの実施	・研修などに参加、今年度はヤングケアラーの研修に参加するように研修計画を立てている。
・家族へのYCに関する情報提供	・ヤングケアラー自身への支援がある事の周知。

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携	・連携に時間がかかる。 ・他分野の方との連携の難しさを感じています。現在はようやく子供家庭支援センター等連携が取れそうですが、「個人情報」ということで情報共有をしてもらうことができず、こちらからのカンファレンスの呼びかけにも応じてもらえないことがある。
・個人情報の共有	・個人情報の観点からどこまでの情報を共有してよいのか。
・連携先がない、把握できていない	・支援センターの役割や対応フローについての共有がなされていない。 ・他機関に情報提供してどのように支援するのかが不明。 ・介護保険以外の関係機関がどこにあり、誰が窓口なのかがわからない。 ・発見したとしても真っ先に思いつく事業所がない。 ・問題があると想定されるときは、地域包括支援センターに相談している。まだ、専門的に相談できる場所について良く把握できていない。 ・５名のCMがいますが、ヤングケアラーを担当したケースがありません。行政でもヤングケアラーの研修には参加していますが、実際支援するとなると困難を感じます。まず速やかに行政に相談して、チーム作りをしていきたいと思います。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■基幹相談支援センター

【課題】

・関係機関との温度差

・連携先がない、把握できていない

・公的機関の教育と福祉と子どもに関する対応部署が縦割りのため、民間事業所として振り回されてしまう。

・１８歳以上のヤングケアラーなど、法的根拠のない個人情報の取り扱いについて。

■特定相談支援事業所

【工夫】

・関係機関での研修などの実施

・関係者を集めてのカンファレンスを定期的に、また、状況の変化に合わせて開催するようにしている。

・町内の相談支援事業所で連絡会を実施しており、そこで本人や家族の課題等を情報共有検討している。

・ケアを必要としている対象者のことについてモニタリングを細かく行い、他家族についても情報が入りやすいような環境を作っている。こまめに情報共有を行い、お互いに把握できるようにしている。支援者が多く、情報の把握が難しいことがある。

・子供家庭支援センターとは普段より計画相談での関わりの中で連携をすることがあり、ヤングケアラーの問題についても今後連携をする可能性は十分にあり得る。現状の取り組みについては理解をしている状況ではないこともあり、意見交換を取り交わす機会を設けていく必要性を感じた。

・なるべく多くの関係機関に関わってもらうことで今後のリスクの減少につながるよう、サービス導入については各機関についての役割分担を決めるように工夫している。ヤングケアラー本人など支援の必要性を感じていない人に「ケアを受ける」ことをどのように認識してもらうかが課題ととらえている。

・事象確認時の迅速な対応

・ヤングケアラーの事例が全くない状態ではあるが、必要時には自治体の担当部署や機関相談支援センターと密に連携を取ることができており、課題解消に向けた動きは迅速に行うようにしている。

・速やかに連携が取れるように、事業所に連絡先を貼りだしている。

・対面にて支援を実施

・できるだけ顔を合わせて話ができるようにしている。しかし、複数機関で時間を合わせることが難しい現状もある。

・ヤングケアラーの問題以外でも日頃から顔の見える関係が構築されていると連携がスムーズにいくことが多いです。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

【課題】

・家族との信頼関係	・まずは行政の地区担当者に相談をおこない、連携して相談をおこなうようにしている。相談支援専門員としてアセスメント時にご本人の子について詳しく聞くと、聞き取りに関して言いたくないという訴えもあるし、家庭で子が親の面倒を見るというのが当たり前という風潮もある。子も自身でヤングケアラーになっているという自覚もない。 ・情報の共有はできますが、その先の支援については、本人及び家族が望まないと進められないため、支援に繋げることが難しいと感じました。 ・良かれと思ってクライアントとその家族のために定められた以上のことをやる事業所があると、やってくれたやってくれない、が生じて結果的にクライアントに迷惑不信につながることがあるので足並みをそろえることが重要。
・関係機関との温度差	・教員との連携について、直接的なやりとりが難しい場合が多い。 ・学校との連携不足が課題。 ・役所は基本的電話でのやりとりなので、担当者に電話がつながらないと話が進まない。メールなど履歴が残るかついつでも連絡できる手段があると尚早くに対応できるのではないかと感じた。 ・特に行政機関とのやり取りは、セキュリティ等の理由で電話またはFAXでのやり取りとなることが多く、手間がかかり情報共有のスムーズさが大きく阻害されていると感じている。 ・一民間事業者では、できることが限られてくるので、公的機関との連携なくては難しいと感じている。 ・日常的に情報共有し合う関係つくり分野や領域が異なると価値観や重視する観点の違いを感じることがある。
・個人情報の共有	・個人情報なのでどこまで情報提供するか。本人や家族が情報提供を望むか望まないか。（課題）本人が負担に感じているかいないか分からない。（今までの生活で当たり前だったため） ・日頃より情報共有を心掛ける。個人情報の取り扱いに関して、どこまで踏み込めるかが課題。
・事象の把握	・ヤングケアラーの定義がされたとはいえ、支援者の個々の価値観が、支援や連携に大きく影響を及ぼすと思われる。連携の前に、ヤングケアラーと認識すべきかどうかの段階で意見が分かれる状況が想定される。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

・社会的資源不足	・重心児（医ケア児）に対する社会資源が不足しており、ニーズに適用する副サービス等がない場合、そもそも自治体が兄弟児を保護者（主たる介護者）では足りない部分の介護力として提案してきた過去がある。ニーズは挙げたらきりがないが、個別性の高いニーズに対して、自治体が制度福祉サービスを柔軟に適用できるように検討してもらえる土壌が必要だと感じる。
・連携先がない、把握できていない	・サービスについて理解不足。自分の位置から見たものでしか判断できない機関が多い。18歳以上になると子ども関係のところは撤収してしまう。それによりそれまでの濃密な支援がかすかすになる。だから同じように濃密な関係を作ってもらいたいと要望が出るが、障害福祉サービスの報酬では無理。それをきちんと把握してもらえていない。 ・18歳に到達した際に、子供家庭支援センターから次の機関につながっていない印象を受ける。 ・ヤングケアラーの依頼がない現状であるため、連携や課題についても特段検討されていない。

■保健所

【課題】

・関係機関との温度差	・機関によって家族の中での支援対象者が異なるため、ケアの受け手の人にアプローチすることで状況の改善を期待されることが多いが、安全の確保が必要な人へのアプローチを優先したほうがよい場合も少なくない。この優先度の考え方が一致しないことが多い。
・家族との信頼関係	・本人やご家族の困りごとに沿って健康相談をする。関係機関連携については、原則、本人やご家族の同意を得て行うが、命にかかわる場合や虐待に関連する場合は速やかに対応する。相談を希望されない場合は、介入の権限がないので、困難がある。

■保健センター

【課題】

・連携先がない、把握できていない	・18歳未満については子供家庭支援センターを中心に情報体制づくりなど流れ(システム)が決まっているが、18歳以上に関しては整っていないと課題に感じている。
・関係機関への情報共有、支援連携	・当市では、要対協機関がヤングケアラーとして受理するが、介入できず関係機関見守りにとどまっている。実際の支援につなげるためには、複雑な家庭背景を踏まえ関係機関の連携のもと介入し、必ず状況が把握できるような支援を行う必要があると考える。
・事象の把握	・ヤングケアラーかもと気づくアンテナが、各々のスキルに任されてる。 ・連携時の役割分担を意識している。相談できる機関が少ない。家庭内のことなので可視化しづらく支援者が拒否されることもある。ケアラーはいるだろうがまず把握できないこと、どのように把握していくかが課題と思われる。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■福祉事務所

【工夫】

・対面にて支援を実施	・日頃より顔の見える関係づくりを心がけている。連携している関係機関が限られているため、徐々に拡げたい。 ・例えば、子ども総合相談センターから直接保護者に伝えると拒否や抵抗をされるケースの場合、福祉事務所のケースワーカーが伝えることで円滑に調整できる可能性がある。

【課題】

・家族との信頼関係	・お手伝いと過重な負担の区別については、家庭内の考え方があるため対象者を責めることなく支援が出来るように意思疎通を図り、意見、方向性、対策を合わせる必要がある。 ・課題の緊急度や重要度にズレがあり、介入に至りにくいのではないかと感じる。子供家庭支援センターや児童相談所、福祉事務所など権力のある機関の介入に拒否反応を示す世帯も多いのではないかと感じている。 ・家族の介護力として捉えがちであるため、若年層の方が家族を介護することが社会的な問題であることをもっと個々が危機感として感じ、発見を行えるようアンテナを広げておく姿勢が大切だと感じています。
・個人情報の共有	・多くの関係機関と支援の進ちょく状況を随時情報共有することが望ましいが、個人情報保護の観点から困難である。
・連携先がない、把握できていない	・自分の職域を関係機関が主張すると、どこの機関にも該当しない領域の支援について、本来であれば協働すべきところが押し付け合いになってしまう。義務教育を修了している高校生が子どもか大人かの共通認識がないため、支援者によって見解が分かれてしまう。
・関係機関への情報共有、支援連携	・要保護世帯、被保護世帯に気になる世帯があれば、速やかに関連部署に電話で情報提供又は共有をしている。他部署とケース検討をする際、関係機関が多いほど日程調整に時間がかかり支援が停滞してしまう点が課題と感じる。

■自立相談支援機関

【課題】

・事象の把握	・ヤングケアラーが行政から把握しづらい点。（実際にいるかもしれないが、過去3年間支援ケースがない。）
・関係機関への情報共有、支援連携	・多くの機関が連携する際、すべての関係機関で情報を共有できるツールがない。現在、庁内での情報共有ツールの運用を開始し、運用方法を検討している。
・関係機関との温度差	・子供家庭支援センター等に情報共有しても、その後の経過がわからなかったり、情報が一方通行になりがち。各機関で役割分担ができるよう、情報を出してほしい。
・個人情報の共有	・個人情報共有に了解を得ること。会議体での共有の際の根拠をつかむこと。
・家族との信頼関係	・ケアを受けている方自身が行政等の支援を必要としていない場合、ヤングケアラー自身の支援が遅々として進まない。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■民間支援団体

【工夫】

・関係機関での研修などの実施	・センター主催で支援機関を集めて開催する「サポート会議」を活用することで、課題の優先順位の確認や、関係機関の役割分担を明確にすることができるので活用している。ヤングケアラーなど潜在的な相談者の把握について、民生委員児童委員をはじめ、地域の方々や他の支援機関からの情報を得られるよう地域の活動団体などインフォーマルな地域活動とも連携していくように心がけている。

【課題】

・関係機関への情報共有、支援連携	・子ども分野の支援機関との連携。情報を提供しても、その後のフィードバックがないことが多い。役割分担をしながら継続して関わるという経験が少なく、連携事例の積み重ねが必要と感じる。
・事象の把握	・ヤングケアラーかどうかの認定基準が曖昧。そうかなと発見してから、家庭内の実態が把握できるまで時間がかかり、他機関との連携が進まないことが多い。
・社会的資源不足	・互いにどのような支援をどこまで行っているのかが、分かりづらい。どの関係機関も、経験豊富な職員が少ない。 ・現時点で足立区社会福祉協議会ではヤングケアラーの相談窓口を設けておらず、職員の知識もないので、今後の検討としたい。
・個人情報の共有	・助け合い支え合い活動に取り組む住民団体と連携し、地域でできる支援について学ぶ機会を設けた。今後、住民と行政の連携を目指すにあたり、個人情報の共有が課題と想定される。

■社会福祉協議会

【工夫】

・関係機関での研修などの実施	・年に一度、地区連絡協議会があり児童相談所、教育委員会、子ども家庭部、福祉保健部、民生委員児童委員が集い児童福祉向上の為に勉強会を開催しております。昨年は、ヤングケアラーを取り上げました。担当している地域では、見かけないし情報も入ってきません。安心していいものかどうかと思っています。

【課題】

・関係機関との温度差	・本人が進みたい道に進むため、こちら側も知っている情報はすべて伝えている。関係機関も同じであってほしい。
・社会的資源不足	・民生委員の仕事は、現状高齢者関係の業務その他行事関係で一杯の状態です。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

・社会的資源不足	・現在、主としてひとり暮し高齢者後期高齢者に関する業務で手一杯の状態となっています。現在の業務も効率化（デジタル化）を取り入れ高齢者に関する実務作業を減らす事により、ヤングケアラーの方にも労力を注ぐことができると思う。その上で他の関係機関との連携になると思う。 ・児相子家センの担当者、各学校の先生方が、あまりにも多忙過ぎることが課題だと感じる。一時保護の定員超過により環境が良くないことがつらい。民間支援団体および児童養護施設のショートステイに子家からつながってうまく連携できているケースが、もっともほっとする。
・家族との信頼関係	・普段から、顔の見える関係を作っておきたい。ヤングケアラーに特化するのではなく地域の困りごと等を含めてある程度の関係作りがこれからの課題だと思っています。
・連携先がない、把握できていない	・本人が１８歳以上になるとそれまで中心となっていた子供家庭支援センター、学校が日常の様子の把握ができなくなり家庭環境、内情の情報が減ってしまう。
・関係機関への情報共有、支援連携	・対象となるお子さんがいた場合、主任児童委員に相談。その後子ども家庭センターに繋げるのが民生委員児童委員の流れになっており、子ども家庭センターに繋がったあとの情報は民生委員児童委員にはこない場合もある。

■民生委員、児童委員、主任児童委員

【工夫】

・関係機関での研修などの実施	・地域関係者との運営懇談会の実施。
・YCの継続的な状況把握	・個別の記録をとるようにしている。0歳～18歳まで利用できる施設であるため、長期間記録を残している。
・関係機関への情報共有	・施設内での窓口を絞っていることで、情報の管理がしやすく、関係機関との共有も早くできる。課題は、日々子どもと接する中でヤングケアラーかもしれないという気づくポイントについて、知らない職員もいる。研修の一つとしてDVDが市役所主管課児童青少年課から配布されたが、まだ視聴できていない。 ・フードパントリーの機能を活かし、DV被害者支援団体や、他地域の母子生活支援施設、女性支援団体、児童養護施設等と食材や日用品のシェアを通じて交流しながら、情報交換や互いのケースワーク相談も行っている。学校、教育委員会、児童相談所と問題を共有したり交渉したりする場合に、ヤングケアラーを抱える家族がそれら行政と対立的なケースもあるが、その場合特に、当団体も対立的な関係当事者として向き合わないように留意する。中立的な情報提供者、ないし民間団体としてアプローチする事を心がけている。

【課題】

・関係機関との温度差	・関係機関との日頃からの顔を合わせた関係作りがスムーズな連携につながると考え、年に一度は出向くようにしているが、公共施設等と民間団体との対等な関係作りが課題であると感じている。 ・こちらから相談や情報提供をするものの、その後どうなったのか。 ・ヤングケアラーは多岐にわたる分野の人たちが連携しながら長期に見守っていく必要があると思うが、非常に縦割りで、ヤングケアラーの支援をしていく体制にないと思う。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

	・それぞれの機関の役割を明確にすること。（専門外の余計な支援をしない）
・事象の把握	・現在行政のヤングケアラーコーディネーターを中心に、広報活動また児童に関わる施設への理解促進を図られているため、ヤングケアラーへの理解は進んでいると感じている。一方でこどもたちが家族のケアをオープンに話すことは少なく、連携した支援を要するケースは少ない。そのため「過度に」という基準が当施設の職員間で整うのには時間がかかると考えている。 ・どういったことに注意していけばよいのか？取り組み方法が伝えられないため、困ることがある。 ・運営しているのが高齢者のデイサービスとＧＨであり、地域貢献活動として子供食堂を運営しています。お弁当を渡すだけにとどまっている為、気付けていない可能性はあります。
・連携先がない、把握できていない	・外国にルーツのある保護者と生活している子どもは確実に増えているが、具体的な相談先がわからないことが課題。きょうだいがいる場合、たいてい上の子が下の子たちの学校の書類提出などを引き受けている様子。 ・学童クラブとしては、特にヤングケアラー関連のことで取り組んでいることがなかったので、これを機に、色々と関係機関等を知ろうと思う。

■放課後等デイサービス

【課題】

・関係機関との温度差	・教育機関は各々の教育方針（特に幼稚園）があること、また、東京都の特別支援学校と市区町村レベルの学校でも対応が変わる。 ・公的機関に報告をしても、たらい回しに合うので、結局解決もなく現状が変わっていかない。 ・障がい児の受入をしていると、どうしても兄弟児の協力を得て、当該児が生活している場面はとても多いと感じる。学校も含め、地域資源の活用方法など、一緒に家庭（特に保護者）へアプローチしていけたら良いと考える。随時、学校とは綿密な連携に努め、情報共有を大切にしているが、担任やコーディネーターの先生の対応の差が激しいと残念に感じる場面はある。放課後等デイとして、出来る事の限界もあると感じているので、他の福祉サービスとの連携、市役所担当課の理解、協力も仰ぎながら、当該児だけでなく、家族も含めて支えていける連携を大切にしていきたい。 ・当事者のニーズと関係機関、事業所の支援を合致するのが難しい点。
・個人情報の共有	・児相は個人情報保護の観点から我々が必要な支援と考える範囲で情報を開示いただきたい場合においても、機関の位置づけから共有されない。児相が子供家庭支援センターに連絡し、子供家庭支援センターが支援機関を把握している場合、経過を把握する程度である。
・事象の把握	・保護者に寄り添う形で支援される機関が多いと感じる。保護者の心身の安定があってこそ、児童の生活の安全も確保されるとは思われるが、児童の年齢や理解に合わせ、児童に寄り添う形を取る対応も必要だと考えられる。

20 他の関係機関と円滑に連携する上で工夫している点や、課題と感じている点について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

【工夫】

・対面にて支援を実施	・定期的な連絡ではなく、本来は日々のやり取りも大事だと考えます。

【課題】

・家族との信頼関係	・子供家庭支援センターと地域の育児困難や虐待などの情報共有はさせて頂いているが、ヤングケアラーはより見つけにくいことが課題だと感じている。保護者の家庭での育児や生活環境などより踏み込む必要がでてくる。
・関係機関との温度差	・児相との連携時には、児相の一方的な見方によることが問題と感じられる。関係者会議において、ヤングケラーの話題も提供されるが、家庭に返したいが先に立ち、小学校の意見は無視されていると感じた。児相の体質を変えることもヤングケアラー救済の一歩になると思われる。 ・児童相談所に相談をすると、すぐにその家庭に入っていただけるが、依頼元が保育園とわかってしまい関係性が悪くなってしまうことが課題です。家庭支援センターや養育支援課などにはまだ案件がないため相談したことはないが、保育園としては家庭との関係性が悪くならないようにすすめていくにはどうしたらいいのか考えます。 ・つながろうと努力はしている。情報提供や相談をしている。しかし、結局、保育園に入っているから大丈夫と行政が感じているのか放置される。園内で悩み解決するしかないのか。
・関係機関への情報共有、支援連携	・子供家庭支援センターや児相との水面下での協力や見守りに関して、どう連携が取れていくか。 ・保育園在籍園児に関する他機関との連携はしやすいが、もし、保育園在籍児の兄弟関係について気づくことがあった場合、連携機関への情報提供をするのに躊躇する。
・個人情報の共有	・個人情報としてかなり重要な部分が含まれるため、そこを分かったうえで互いに連携を取らなければいけないことが難しい。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

21 ヤングケアラー本人及びその家族への支援に当たっては、こどもの権利を守り、こどもらしい生活を確保することを意識していますか。

対象分野　児童福祉　若者支援　生活福祉　地　域　（民間支援団体のみ）

回答件数

n=132

分野	児童福祉		若者支援	生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
子どもの権利を意識した上で、支援に取り組んでいる	**37**	3	7	30	28	4	**109**
子どもの権利は理解していなかった／意識していなかったが、支援に取り組んでいる	3	0	1	**8**	2	0	14
合計	**40**	**3**	**8**	**38**	**30**	**4**	**123**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

21 ヤングケアラー本人及びその家族への支援に当たっては、こどもの権利を守り、こどもらしい生活を確保することを意識していますか。

回答割合

n=132

分野	児童福祉		若者支援	生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
子どもの権利を意識した上で、支援に取り組んでいる	92.5%	**100.0%**	87.5%	78.9%	93.3%	**100.0%**	**88.6%**
子どもの権利は理解していなかった／意識していなかったが、支援に取り組んでいる	7.5%	0.0%	12.5%	**21.1%**	6.7%	0.0%	11.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答割合では、「子どもの権利を意識した上で、支援に取り組んでいる」が88.6%であった。
- 「子どもの権利は理解していなかった／意識していなかったが、支援に取り組んでいる」を選んだ割合が最も大きかったのは「福祉事務所」の21.1%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

22 先ほど回答いただいた、気付いたヤングケアラーの家族の構成員（本人からみた間柄）を教えてください。（貴施設で把握している場合）

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=297

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
母親	**84**	13	15	36	28	12	60	2	0	29	41	39	39	12	14	35	68	16	65	**608**
父親	**52**	9	8	29	17	6	33	3	0	14	20	6	16	6	4	12	19	7	26	287
祖母	7	0	3	**25**	8	5	5	1	0	3	2	6	4	0	1	8	10	1	3	92
祖父	3	1	2	**7**	2	4	0	1	0	0	1	2	2	1	1	1	4	0	3	35
年上のきょうだい	**30**	5	1	9	9	7	26	0	0	8	12	6	10	5	3	10	14	7	**30**	192
年下のきょうだい	**63**	10	6	13	11	6	28	3	0	16	27	19	23	6	6	21	36	10	57	361
その他	5	0	2	5	2	3	2	0	0	0	5	1	2	0	0	1	6	0	**7**	41
合計	**244**	**38**	**37**	**124**	**77**	**43**	**154**	**10**	**0**	**70**	**108**	**79**	**96**	**30**	**29**	**88**	**157**	**41**	**191**	**1616**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

22 先ほど回答いただいた、気付いたヤングケアラーの家族の構成員（本人からみた間柄）を教えてください。（貴施設で把握している場合）

回答割合

n=297

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
母親	34.4%	34.2%	40.5%	29.0%	36.4%	27.9%	39.0%	20.0%	0.0%	41.4%	38.0%	**49.4%**	40.6%	40.0%	48.3%	39.8%	43.3%	39.0%	34.0%	**37.6%**
父親	21.3%	23.7%	21.6%	23.4%	22.1%	14.0%	21.4%	**30.0%**	0.0%	20.0%	18.5%	7.6%	16.7%	20.0%	13.8%	13.6%	12.1%	17.1%	13.6%	17.8%
祖母	2.9%	0.0%	8.1%	**20.2%**	10.4%	11.6%	3.2%	10.0%	0.0%	4.3%	1.9%	7.6%	4.2%	0.0%	3.4%	9.1%	6.4%	2.4%	1.6%	5.7%
祖父	1.2%	2.6%	5.4%	5.6%	2.6%	9.3%	0.0%	**10.0%**	0.0%	0.0%	0.9%	2.5%	2.1%	3.3%	3.4%	1.1%	2.5%	0.0%	1.6%	2.2%
年上のきょうだい	12.3%	13.2%	2.7%	7.3%	11.7%	16.3%	16.9%	0.0%	0.0%	11.4%	11.1%	7.6%	10.4%	16.7%	10.3%	11.4%	8.9%	**17.1%**	15.7%	11.9%
年下のきょうだい	25.8%	26.3%	16.2%	10.5%	14.3%	14.0%	18.2%	**30.0%**	0.0%	22.9%	25.0%	24.1%	24.0%	20.0%	20.7%	23.9%	22.9%	24.4%	29.8%	22.3%
その他	2.0%	0.0%	5.4%	4.0%	2.6%	**7.0%**	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	1.3%	2.1%	0.0%	0.0%	1.1%	3.8%	0.0%	3.7%	2.5%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「母親」が608件と最多であり、次点では「年下のきょうだい」が361件であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

23 先ほど回答いただいた、気付いたヤングケアラーがケアをしていた方（患者及びその他の家族）は誰ですか（本人からみた間柄）。

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=297

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
母親	**57**	7	12	21	12	8	**42**	1	0	25	34	34	30	12	12	24	41	6	22	**400**
父親	13	6	4	**18**	12	0	10	2	0	0	5	2	12	0	1	6	3	1	3	98
祖母	2	0	2	**24**	8	2	4	1	0	0	2	3	4	1	1	5	8	0	1	68
祖父	2	0	1	3	**4**	2	0	1	0	0	1	0	2	1	1	1	2	0	0	21
年上のきょうだい	7	2	1	0	1	1	**12**	1	0	2	0	0	1	1	1	2	3	2	3	40
年下のきょうだい	38	7	4	2	0	4	23	2	0	9	22	14	11	3	3	9	30	9	**44**	234
その他	**5**	0	2	1	2	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	3	24
合計	**124**	**22**	**26**	**69**	**39**	**20**	**94**	**8**	**0**	**36**	**65**	**53**	**60**	**18**	**19**	**48**	**89**	**19**	**76**	**885**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

23 先ほど回答いただいた、気付いたヤングケアラーがケアをしていた方（患者及びその他の家族）は誰ですか（本人からみた間柄）。

回答割合

n=297

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
母親	46.0%	31.8%	46.2%	30.4%	30.8%	40.0%	44.7%	12.5%	0.0%	**69.4%**	52.3%	64.2%	50.0%	66.7%	63.2%	50.0%	46.1%	31.6%	28.9%	**45.2%**
父親	10.5%	27.3%	15.4%	26.1%	**30.8%**	0.0%	10.6%	25.0%	0.0%	0.0%	7.7%	3.8%	20.0%	0.0%	5.3%	12.5%	3.4%	5.3%	3.9%	11.1%
祖母	1.6%	0.0%	7.7%	**34.8%**	20.5%	10.0%	4.3%	12.5%	0.0%	0.0%	3.1%	5.7%	6.7%	5.6%	5.3%	10.4%	9.0%	0.0%	1.3%	7.7%
祖父	1.6%	0.0%	3.8%	4.3%	10.3%	10.0%	0.0%	**12.5%**	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	3.3%	5.6%	5.3%	2.1%	2.2%	0.0%	0.0%	2.4%
年上のきょうだい	5.6%	9.1%	3.8%	0.0%	2.6%	5.0%	**12.8%**	12.5%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	1.7%	5.6%	5.3%	4.2%	3.4%	10.5%	3.9%	4.5%
年下のきょうだい	30.6%	31.8%	15.4%	2.9%	0.0%	20.0%	24.5%	25.0%	0.0%	25.0%	33.8%	26.4%	18.3%	16.7%	15.8%	18.8%	33.7%	47.4%	**57.9%**	26.4%
その他	4.0%	0.0%	7.7%	1.4%	5.1%	**15.0%**	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	2.2%	5.3%	3.9%	2.7%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「母親」が400件で最多であり、次点では「年下のきょうだい」が234件であった。
- 回答割合では、「母親」の選択肢の中で最も高い割合となったのは「保健所」の69.4%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

24 家族の中でケアを受けている方の状況は下記のうち、どれですか。あてはまるものをすべて回答してください。

対象分野：児童福祉　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=284

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
①高齢（65歳以上）	4	2	5	**35**	19	1	12	2	0	0	2	2	4	2	1	6	8	0	1	106
②幼少（就学前の児童、小学生）	34	5	0	1	2	3	8	1	0	6	18	9	7	3	0	15	26	2	**46**	186
③要介護（介護が必要な状態）	3	2	2	**40**	25	1	7	3	0	0	6	2	9	2	2	3	7	0	3	117
④要支援（支援が必要な状態）	1	0	0	5	3	0	3	0	0	4	5	1	1	2	1	0	**8**	1	5	40
⑤認知症	4	0	4	**25**	14	0	6	0	0	0	1	0	1	1	0	2	1	0	0	59
⑥身体障害	8	2	4	8	8	7	**23**	0	0	2	4	7	4	2	0	2	3	2	1	87
⑦知的障害	9	3	1	2	3	5	**16**	1	0	1	2	3	5	1	2	1	4	8	6	73
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	**42**	6	7	15	3	3	24	0	0	22	27	25	14	3	8	15	28	7	16	**265**
⑨精神疾患以外の慢性疾患（がんや難病など）	7	2	0	7	4	6	**10**	2	0	3	4	1	7	0	2	4	9	1	1	70
⑩依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	**5**	0	0	4	4	0	2	0	0	1	2	1	4	0	1	1	2	0	0	27
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	**6**	1	0	3	5	1	5	1	0	0	2	0	**6**	3	0	3	0	0	2	38
⑫日本語を母国語としない	6	1	1	0	0	3	1	1	0	2	4	**8**	**8**	0	0	4	6	0	2	47
⑬その他	**9**	0	1	2	1	1	1	1	0	2	4	2	2	0	3	1	3	0	**9**	42
⑭わからない	6	0	2	2	3	2	2	0	0	3	3	2	0	0	1	0	**8**	2	3	39
合計	**144**	**24**	**27**	**149**	**94**	**33**	**120**	**12**	**0**	**46**	**84**	**63**	**72**	**19**	**21**	**57**	**113**	**23**	**95**	**1196**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

24 家族の中でケアを受けている方の状況は下記のうち、どれですか。あてはまるものをすべて回答してください。

回答割合

n=284

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	リースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童ク	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
①高齢（65歳以上）	2.8%	8.3%	18.5%	**23.5%**	20.2%	3.0%	10.0%	16.7%	0.0%	0.0%	2.4%	3.2%	5.6%	10.5%	4.8%	10.5%	7.1%	0.0%	1.1%	8.9%
②幼少（就学前の児童、小学生）	23.6%	20.8%	0.0%	0.7%	2.1%	9.1%	6.7%	8.3%	0.0%	13.0%	21.4%	14.3%	9.7%	15.8%	0.0%	26.3%	23.0%	8.7%	**48.4%**	15.6%
③要介護（介護が必要な状態）	2.1%	8.3%	7.4%	**26.8%**	26.6%	3.0%	5.8%	25.0%	0.0%	0.0%	7.1%	3.2%	12.5%	10.5%	9.5%	5.3%	6.2%	0.0%	3.2%	9.8%
④要支援（支援が必要な状態）	0.7%	0.0%	0.0%	3.4%	3.2%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	8.7%	6.0%	1.6%	1.4%	**10.5%**	4.8%	0.0%	7.1%	4.3%	5.3%	3.3%
⑤認知症	2.8%	0.0%	14.8%	**16.8%**	14.9%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.4%	5.3%	0.0%	3.5%	0.9%	0.0%	0.0%	4.9%
⑥身体障害	5.6%	8.3%	14.8%	5.4%	8.5%	**21.2%**	19.2%	0.0%	0.0%	4.3%	4.8%	11.1%	5.6%	10.5%	0.0%	3.5%	2.7%	8.7%	1.1%	7.3%
⑦知的障害	6.3%	12.5%	3.7%	1.3%	3.2%	15.2%	13.3%	8.3%	0.0%	2.2%	2.4%	4.8%	6.9%	5.3%	9.5%	1.8%	3.5%	**34.8%**	6.3%	6.1%
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	29.2%	25.0%	25.9%	10.1%	3.2%	9.1%	20.0%	0.0%	0.0%	**47.8%**	32.1%	39.7%	19.4%	15.8%	38.1%	26.3%	24.8%	30.4%	16.8%	**22.2%**
⑨精神疾患以外の慢性疾患（がんや難病など）	4.9%	8.3%	0.0%	4.7%	4.3%	**18.2%**	8.3%	16.7%	0.0%	6.5%	4.8%	1.6%	9.7%	0.0%	9.5%	7.0%	8.0%	4.3%	1.1%	5.9%
⑩依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	3.5%	0.0%	0.0%	2.7%	4.3%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	2.2%	2.4%	1.6%	**5.6%**	0.0%	4.8%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	2.3%
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	4.2%	4.2%	0.0%	2.0%	5.3%	3.0%	4.2%	8.3%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	8.3%	**15.8%**	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	2.1%	3.2%
⑫日本語を母国語としない	4.2%	4.2%	3.7%	0.0%	0.0%	9.1%	0.8%	8.3%	0.0%	4.3%	4.8%	**12.7%**	11.1%	0.0%	0.0%	7.0%	5.3%	0.0%	2.1%	3.9%
⑬その他	6.3%	0.0%	3.7%	1.3%	1.1%	3.0%	0.8%	8.3%	0.0%	4.3%	4.8%	3.2%	2.8%	0.0%	**14.3%**	1.8%	2.7%	0.0%	9.5%	3.5%
⑭わからない	4.2%	0.0%	7.4%	1.3%	3.2%	6.1%	1.7%	0.0%	0.0%	6.5%	3.6%	3.2%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	7.1%	**8.7%**	3.2%	3.3%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「精神疾患（発達障害など）（疑い含む）」が265件と最多であり、次点では「年少（就学前の児童、小学生）」が186件であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

25 ケアを受けている方は、介護保険サービス、障害福祉サービス、医療提供（入院・往診等）を利用していますか（受けていますか）。

対象分野　児童福祉　若者支援　保　健　地　域　（民間支援団体以外）

回答件数

n=159

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
利用している（支援・サービスを受けている）	**46**	10	8	24	34	8	12	26	12	20	**200**
利用していない（支援・サービスを受けていない）	**36**	2	6	6	11	4	22	11	0	21	119
わからない	**21**	2	4	7	5	3	5	34	9	23	113
合計	**103**	**14**	**18**	**37**	**50**	**15**	**39**	**71**	**21**	**64**	**432**

回答割合

n=159

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
利用している（支援・サービスを受けている）	44.7%	**71.4%**	44.4%	64.9%	68.0%	53.3%	30.8%	36.6%	57.1%	31.3%	**46.3%**
利用していない（支援・サービスを受けていない）	35.0%	14.3%	33.3%	16.2%	22.0%	26.7%	**56.4%**	15.5%	0.0%	32.8%	27.5%
わからない	20.4%	14.3%	22.2%	18.9%	10.0%	20.0%	12.8%	**47.9%**	42.9%	35.9%	26.2%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「利用している（支援・サービスを受けている）」が200件であり、過半数を占めていた。
- 回答割合では、「児童相談所」で「利用している」を選んだ割合が71.4%と最も高かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

26 ケアを受けている方が利用している支援・サービスの種類や内容について、教えてください。

対象分野　児童福祉　若者支援　保　健　地　域

回答件数

n=267

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
介護支援	**11**	2	**7**	8	4	1	2	4	2	2	43
医療提供	**11**	2	2	8	8	**5**	2	7	**5**	3	**53**
看護支援	10	1	2	**13**	**10**	3	0	1	1	1	42
子育て支援	6	0	0	1	0	1	**5**	3	0	**8**	24
障害福祉サービス	9	1	0	6	7	0	3	1	2	0	29
障害児支援	5	1	0	0	0	0	0	0	**5**	0	11
ショートステイ	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	7
家事支援	1	**4**	0	1	3	0	0	0	0	2	11
食事支援	2	1	0	0	0	1	1	2	0	1	8
移動支援	1	0	0	3	1	0	0	0	2	0	7
生活支援	0	0	0	1	0	0	1	**8**	0	0	10
生活保護	0	1	0	0	2	2	**5**	1	0	2	13
経済的支援	1	0	0	1	4	3	1	1	0	0	11
相談支援	4	0	0	4	2	2	0	**8**	2	4	26
見守り	0	1	2	0	0	0	0	2	0	2	7
語学支援	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
就労支援	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
ヘルパー（支援内容不明）	3	0	1	3	0	0	1	0	0	0	8
子供家庭支援センター（支援内容不明）	0	2	0	0	2	0	1	2	1	2	10
児童相談所（支援内容不明）	0	**4**	0	0	0	0	0	1	0	0	5
地域包括支援センター（支援内容不明）	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
保健所（支援内容不明）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
保健センター（支援内容不明）	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
保健師（支援内容不明）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
地域生活支援センター（支援内容不明）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	**69**	**21**	**18**	**51**	**43**	**19**	**24**	**41**	**22**	**29**	**337**

自由記述での回答を分類し集計した

回答割合

n=267

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
介護支援	**16%**	10%	**39%**	16%	9%	5%	8%	10%	9%	7%	13%
医療提供	**16%**	10%	11%	16%	19%	**26%**	8%	17%	**23%**	10%	**16%**
看護支援	14%	5%	11%	**25%**	**23%**	16%	0%	2%	5%	3%	12%
子育て支援	9%	0%	0%	2%	0%	5%	**21%**	7%	0%	**28%**	7%
障害福祉サービス	13%	5%	0%	12%	16%	0%	13%	2%	9%	0%	9%
障害児支援	7%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	**23%**	0%	3%
ショートステイ	3%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	7%	2%
家事支援	1%	**19%**	0%	2%	7%	0%	0%	0%	0%	7%	3%
食事支援	3%	5%	0%	0%	0%	5%	4%	5%	0%	3%	2%
移動支援	1%	0%	0%	6%	2%	0%	0%	0%	9%	0%	2%
生活支援	0%	0%	0%	2%	0%	0%	4%	**20%**	0%	0%	3%
生活保護	0%	5%	0%	0%	5%	11%	**21%**	2%	0%	7%	4%
経済的支援	1%	0%	0%	2%	9%	16%	4%	2%	0%	0%	3%
相談支援	6%	0%	0%	8%	5%	11%	0%	**20%**	9%	14%	8%
見守り	0%	5%	11%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	7%	2%
語学支援	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	0%	0%
就労支援	1%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	1%
ヘルパー（支援内容不明）	4%	0%	6%	6%	0%	0%	4%	0%	0%	0%	2%
子供家庭支援センター（支援内容不明）	0%	10%	0%	0%	5%	0%	4%	5%	5%	7%	3%
児童相談所（支援内容不明）	0%	**19%**	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	1%
地域包括支援センター（支援内容不明）	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
保健所（支援内容不明）	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保健センター（支援内容不明）	1%	0%	6%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
保健師（支援内容不明）	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	0%	0%
地域生活支援センター（支援内容不明）	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 利用している支援・サービスの種類や内容として、「医療提供」が53件と最も多く、次いで「介護支援」43件、「看護支援」42件であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

27 ケアを受けている方が支援・サービスを利用していない、又は利用できていない理由について、教えてください。

対象分野　児童福祉　若者支援　保　健　地　域　（民間支援団体以外）回答があった分野含む

回答件数

n=113

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
提案したが利用を拒まれた	18	1	4	2	5	1	7	5	3	9	55
施設として支援・サービスは不要と考えている	2	0	1	1	3	2	4	1	0	3	17
該当サービスがない	6	0	1	4	0	2	0	0	0	2	15
手続き能力の不足	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	4
家庭内のルール（子どもを介護力としている）	0	0	1	1	1	0	1	1	0	2	7
経済的問題	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	5
疾病・疾患のため	3	0	0	0	0	1	0	1	1	1	7
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3
合計	32	1	7	8	9	8	14	10	4	20	113

自由記述での回答を分類し集計した

回答割合

n=113

分野	児童福祉		若者支援	保健		地域					合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
提案したが利用を拒まれた	56.3%	100.0%	57.1%	25.0%	55.6%	12.5%	50.0%	50.0%	75.0%	45.0%	48.7%
施設として支援・サービスは不要と考えている	6.3%	0.0%	14.3%	12.5%	33.3%	25.0%	28.6%	10.0%	0.0%	15.0%	15.0%
該当サービスがない	18.8%	0.0%	14.3%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	13.3%
手続き能力の不足	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	3.5%
家庭内のルール（子どもを介護力としている）	0.0%	0.0%	14.3%	12.5%	11.1%	0.0%	7.1%	10.0%	0.0%	10.0%	6.2%
経済的問題	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	7.1%	0.0%	0.0%	5.0%	4.4%
疾病・疾患のため	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	10.0%	25.0%	5.0%	6.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	10.0%	2.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 支援・サービスを利用していない・できていない理由として、「提案したが利用を拒まれた」が最も多く55件であった。回答割合としても約半数を占めており、支援・サービスの導入に当たり、対象となる家庭からの理解を得ることがポイントになっていることが窺える。

27 ケアを受けている方が支援・サービスを利用していない、又は利用できていない理由について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

・提案したが利用を拒まれた
・他人が家庭に入ることに対して拒否的である場合も多い。
・母が以前支援者と相性が合わなかったこと。
・対人コミュニケーションが苦手。
・施設として支援・サービスは不要と考えている
・児が通訳することで生活できているため。
・該当サービスがない
・家庭の状況に合ったサービスおよび支援者を見つけることが難しい。

■子ども・若者総合相談センター

・提案したが利用を拒まれた
・家族内の福祉サービスへの抵抗、医療未受診。
・施設入所や、ショートステイ：過去に入院した際に苦情や作話等でトラブルとなり、早々に退院させられた経緯があるため、利用が難しい。
・施設として支援・サービスは不要と考えている
・サービスの必要性を認識していなかった。
・該当サービスがない
・ヤングケアラーが成人となったため、家事支援が終了してしまった。

■保健所

・施設として支援・サービスは不要と考えている
・区への相談希望がないため。
・該当サービスがない
・保健分野において該当となるサービスを持っていないため。
・家庭内のルール（子どもを介護力としている）
・支援が必要という自覚なく子どもは手伝うのが当然と思っている。

27 ケアを受けている方が支援・サービスを利用していない、又は利用できていない理由について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■保健センター

・提案したが利用を拒まれた	・保護者が支援を受けることに拒否的であるため。
	・障害福祉のヘルパーはヤングケアラー自身が拒否しているという理由で入れていない。
	・利用を希望されていないため。
・家庭内のルール（子どもを介護力としている）	・両親は精神疾患があるも就労しており、多子世帯で兄姉として家族内で役割分担をしているためサービスを必要としていない。

■社会福祉協議会

・提案したが利用を拒まれた	・サービスを受けられるのにサービスを利用したがらない親の意向で十分に利用できていない面がある。
・施設として支援・サービスは不要と考えている	・就労もしており、関係機関としては何らかの疾患はあると考えていますが、本人に自覚がなくサービスにはつながっておりません。
	・生活保護世帯ではあるものの、本人に障がい等の自覚はありません。
・該当サービスがない	・制度の狭間のため、どの制度にも当てはまらない。
	・家族同居のため介護保険上は利用できないものも多かった。（掃除や食事作り）
・手続き能力の不足	・いくつものサービスを同時に検討する・理解する能力がない。
・疾病・疾患のため	・パニック発作を起こしてしまうため、現在は就労や社会とのつながりを作るのは困難な状況。

■民生委員、児童委員、主任児童委員

・提案したが利用を拒まれた	・他人に関与されるのを拒む。
	・子ども家庭センターの介入がなかなか御本人、ご家族に納得がいかない。
・経済的問題	・支援を受けるにはお金がかかる。
・その他	・離婚調停中だった。

27 ケアを受けている方が支援・サービスを利用していない、又は利用できていない理由について、教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館

・提案したが利用を拒まれた
・他人に頼りたくないという考え方、体力と気力の問題か。
・外国籍。保護者が、下のきょうだいを「日本の学校には行かせない」と決めたため。また、納税状況に課題があった。
・手続き能力の不足
・母子共依存での引きこもり、手続きが苦手か。
・家庭内のルール（子どもを介護力としている）
・母親が子どもをヤングケアラーだとは思っていない。
・疾病・疾患のため
・母親の体調不良、地域にあまり慣れていない。

■放課後等デイサービス

・提案したが利用を拒まれた
・姉弟が家に支援者を入れる事を拒否した。保護者、姉弟が福祉サービスの内容を受け入れられない。

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

・提案したが利用を拒まれた
・サービスの提供を提案されても、ケアを受けている方が人と関わりことに抵抗を持っている場合など。
・家族状況について、他の部署には相談したくない（話したくない）意向が保護者（母親）にあるため。
・母親が自治体の干渉を嫌がり、過去、別の自治体で干渉し過ぎると引っ越しを繰り返していた為。
・家庭内のルール（子どもを介護力としている）
・父子家庭で父が兄弟で支えあうのは当たり前だと思っていて、子供たちも当たり前のことと思っている。
・経済的問題
・有料のものは利用できない。
・疾病・疾患のため
・母親の体調や心理状態により、スムースに進まない。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

28 貴施設において行っているヤングケアラーに対する支援の内容について、回答してください。

対象分野　児童福祉　若者支援　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=74

分野	児童福祉		若者支援	保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
相談支援	**81**	**13**	**18**	**18**	38	27	**32**	8	23	21	62	14	45	**400**
各種支援機関の情報提供・案内	53	11	11	**18**	**40**	27	21	8	**24**	25	42	7	46	333
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	12	0	0	1	0	1	0	6	1	6	1	0	0	28
きょうだいの世話や送迎など	5	0	0	0	1	1	0	5	0	2	1	1	2	18
ピアサポート	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0	3	0	0	10
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	12	9	5	1	0	1	0	6	0	1	6	3	3	47
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	2	0	9	0	1	0	2	**12**	4	10	46	1	1	88
レスパイト	12	0	0	0	0	0	0	5	0	0	2	3	0	22
外出の付き添い（買い物、散歩など）	2	0	2	0	0	1	0	6	2	1	2	0	0	16
見守り	33	6	1	**18**	19	11	3	6	10	**49**	**73**	**15**	**67**	311
学習支援	3	0	0	0	1	13	6	10	0	3	37	6	1	80
食事支援（提供、配達）	12	0	0	1	0	0	11	5	4	12	44	1	1	91
就労支援	1	0	2	0	2	6	3	6	1	2	6	0	0	29
経済的支援	0	0	1	0	0	**28**	0	1	2	4	0	0	0	36
その他	9	9	0	11	1	0	5	0	6	7	11	1	19	79
特に実施していない	9	0	0	3	3	5	9	1	0	0	1	5	14	50
合計	**247**	**48**	**49**	**71**	**106**	**121**	**92**	**91**	**77**	**143**	**337**	**57**	**199**	**1638**

回答割合

n=74

分野	児童福祉		若者支援	保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
相談支援	32.8%	27.1%	**36.7%**	25.4%	35.8%	22.3%	34.8%	8.8%	29.9%	14.7%	18.4%	24.6%	22.6%	**24.4%**
各種支援機関の情報提供・案内	21.5%	22.9%	22.4%	25.4%	**37.7%**	22.3%	22.8%	8.8%	31.2%	17.5%	12.5%	12.3%	23.1%	**20.3%**
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	4.9%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.8%	0.0%	**6.6%**	1.3%	4.2%	0.3%	0.0%	0.0%	1.7%
きょうだいの世話や送迎など	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	**5.5%**	0.0%	1.4%	0.3%	1.8%	1.0%	1.1%
ピアサポート	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**6.6%**	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	4.9%	**18.8%**	10.2%	1.4%	0.0%	0.8%	0.0%	6.6%	0.0%	0.7%	1.8%	5.3%	1.5%	2.9%
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	0.8%	0.0%	**18.4%**	0.0%	0.9%	0.0%	2.2%	13.2%	5.2%	7.0%	13.6%	1.8%	0.5%	5.4%
レスパイト	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**5.5%**	0.0%	0.0%	0.6%	5.3%	0.0%	1.3%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0.8%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	**6.6%**	2.6%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.0%
見守り	13.4%	12.5%	2.0%	25.4%	17.9%	9.1%	3.3%	6.6%	13.0%	**34.3%**	21.7%	26.3%	33.7%	19.0%
学習支援	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	10.7%	6.5%	**11.0%**	0.0%	2.1%	11.0%	10.5%	0.5%	4.9%
食事支援（提供、配達）	4.9%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	**12.0%**	5.5%	5.2%	8.4%	13.1%	1.8%	0.5%	5.6%
就労支援	0.4%	0.0%	4.1%	0.0%	1.9%	5.0%	3.3%	**6.6%**	1.3%	1.4%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%
経済的支援	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	**23.1%**	0.0%	1.1%	2.6%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%
その他	3.6%	**18.8%**	0.0%	15.5%	0.9%	0.0%	5.4%	0.0%	7.8%	4.9%	3.3%	1.8%	9.5%	4.8%
特に実施していない	3.6%	0.0%	0.0%	4.2%	2.8%	4.1%	9.8%	1.1%	0.0%	0.0%	0.3%	8.8%	7.0%	3.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

※実施合計：96.9%

TOPICS

- 回答件数では、「相談支援」の400件が最多であり、次いで「各種支援機関の情報提供・案内」333件、「見守り」311件であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

29 貴校において行っているヤングケアラーに対する支援の内容について、回答してください。

対象分野　教育機関（教育委員会は除く）

回答件数

n=57

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	**20**	**24**	**14**	1	**2**	2	**11**	**74**
相談支援	10	19	11	1	0	1	6	48
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	9	20	8	1	0	**3**	9	50
学習支援	6	11	3	1	0	0	0	21
就労支援	0	0	1	0	0	0	1	2
家庭への連絡	13	22	5	**2**	0	0	5	47
他の機関への情報共有の可否の相談・打診	9	18	5	0	0	2	9	43
その他	0	2	0	0	0	0	1	3
わからない	2	0	0	0	0	2	0	4
合計	**69**	**116**	**47**	**6**	**2**	**10**	**42**	**292**

回答割合

n=57

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	29.0%	20.7%	29.8%	16.7%	**100.0%**	20.0%	26.2%	**25.3%**
相談支援	14.5%	16.4%	**23.4%**	16.7%	0.0%	10.0%	14.3%	16.4%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	13.0%	17.2%	17.0%	16.7%	0.0%	**30.0%**	21.4%	17.1%
学習支援	8.7%	9.5%	6.4%	**16.7%**	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%
就労支援	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	**2.4%**	0.7%
家庭への連絡	18.8%	19.0%	10.6%	**33.3%**	0.0%	0.0%	11.9%	16.1%
他の機関への情報共有の可否の相談・打診	13.0%	15.5%	10.6%	0.0%	0.0%	20.0%	**21.4%**	14.7%
その他	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**2.4%**	1.0%
わからない	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**20.0%**	0.0%	1.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

※実施合計：98.7%

TOPICS

- 回答件数では、「見守り」が74件で最多であった。それ以外では、「相談支援」、「カウンセリング（心身への専門的なサポート）」、「家庭への連絡」、「他の機関への情報共有の可否の相談・打診」がほぼ同数となっており、様々な角度からの支援が行われていることが窺える。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

30 貴施設において、ヤングケアラー本人に対する支援を行っている場合、実施している内容について教えてください。

対象分野　高齢者福祉　障害福祉　医　療

回答件数

n=98

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	
相談支援	29	20	7	**35**	4	0	**95**
各種支援機関の情報提供・案内	27	18	4	**33**	4	0	86
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	0	**5**	0	2	0	0	7
きょうだいの世話や送迎など	0	0	0	**2**	0	0	2
ピアサポート	**6**	0	0	1	0	0	7
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	1	0	0	**5**	0	0	6
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	**6**	2	0	**6**	0	0	14
レスパイト	3	**8**	0	2	0	0	13
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0	**4**	0	3	0	0	7
見守り	1	4	2	**13**	0	0	20
学習支援	0	0	0	**4**	0	0	4
食事支援（提供、配達）	3	3	0	**6**	0	0	12
就労支援	1	0	0	**5**	0	0	6
経済的支援	**1**	0	0	0	0	0	1
その他	7	2	1	**9**	1	0	20
特に実施していない	21	11	8	**28**	0	0	68
合計	**106**	**77**	**22**	**154**	**9**	**0**	**368**

回答割合

n=98

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	
相談支援	27.4%	26.0%	31.8%	22.7%	**44.4%**	0.0%	**25.8%**
各種支援機関の情報提供・案内	25.5%	23.4%	18.2%	21.4%	**44.4%**	0.0%	23.4%
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	0.0%	**6.5%**	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.9%
きょうだいの世話や送迎など	0.0%	0.0%	0.0%	**1.3%**	0.0%	0.0%	0.5%
ピアサポート	**5.7%**	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	1.9%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	0.9%	0.0%	0.0%	**3.2%**	0.0%	0.0%	1.6%
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	**5.7%**	2.6%	0.0%	3.9%	0.0%	0.0%	3.8%
レスパイト	2.8%	**10.4%**	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	3.5%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0.0%	**5.2%**	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%
見守り	0.9%	5.2%	**9.1%**	8.4%	0.0%	0.0%	5.4%
学習支援	0.0%	0.0%	0.0%	**2.6%**	0.0%	0.0%	1.1%
食事支援（提供、配達）	2.8%	**3.9%**	0.0%	**3.9%**	0.0%	0.0%	3.3%
就労支援	0.9%	0.0%	0.0%	**3.2%**	0.0%	0.0%	1.6%
経済的支援	**0.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
その他	6.6%	2.6%	4.5%	5.8%	**11.1%**	0.0%	5.4%
特に実施していない	19.8%	14.3%	**36.4%**	18.2%	0.0%	0.0%	18.5%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

※実施合計：81.5%

TOPICS

- 回答件数では、「相談支援」が95件で最多であった。
- 設問の対象分野が、ケアを受けている方への支援を主に行う施設であるため、「特に実施していない」の割合が18.5%あった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

31 貴施設がヤングケアラー本人を支援できたことによる効果について、把握している範囲で回答してください。

対象分野：児童福祉　教育機関（教育委員会は除く）　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数

n=58

分野	児童福祉		教育機関							若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ケアやお世話の負担が減った	**29**	7	0	3	2	0	0	0	4	1	10	11	6	17	1	0	5	20	5	5	6	3	4	8	3	12	162
精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	**27**	8	11	10	4	0	0	1	10	6	6	13	7	24	1	0	7	18	12	9	6	13	15	26	3	18	255
孤独感が減った	**21**	3	10	7	2	0	0	1	5	7	9	8	1	13	0	0	3	2	10	3	10	4	12	18	2	4	155
学校や仕事に行けるようになった／集中できる	**17**	6	7	5	3	0	0	2	4	4	6	6	2	9	1	0	3	1	12	6	7	4	10	**17**	3	9	144
自分のために使える時間が増えた	**22**	7	1	1	1	0	0	0	3	6	7	4	5	12	1	0	0	1	3	8	5	3	6	20	5	4	125
自分の将来について考える時間やきっかけがで	17	7	1	11	3	0	0	1	3	8	6	1	2	8	0	0	2	2	5	6	8	6	5	**22**	1	3	128
経済的な不安が減った	3	1	0	2	1	0	0	0	2	3	5	5	1	3	0	0	1	2	8	8	0	4	3	**10**	0	0	62
その他	8	0	0	1	2	0	0	0	1	0	3	2	1	8	1	0	6	2	3	8	0	4	0	4	0	**13**	67
効果を感じなかった	1	0	0	1	5	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	**8**	3	1	2	27
効果については分からない	27	1	3	8	6	2	2	4	2	4	33	14	9	31	3	0	21	21	20	20	3	9	33	47	12	**66**	**401**
合計	**172**	**40**	**33**	**49**	**29**	**2**	**2**	**9**	**34**	**39**	**87**	**64**	**34**	**128**	**8**	**0**	**48**	**69**	**78**	**74**	**45**	**50**	**96**	**175**	**30**	**131**	**1526**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

31 貴施設がヤングケアラー本人を支援できたことによる効果について、把握している範囲で回答してください。

回答割合

n=58

分野	児童福祉		教育機関							若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
ケアやお世話の負担が減った	16.9%	17.5%	0.0%	6.1%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	2.6%	11.5%	17.2%	17.6%	13.3%	12.5%	0.0%	10.4%	**29.0%**	6.4%	6.8%	13.3%	6.0%	4.2%	4.6%	10.0%	9.2%	10.6%
精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	15.7%	20.0%	**33.3%**	20.4%	13.8%	0.0%	0.0%	11.1%	29.4%	15.4%	6.9%	20.3%	20.6%	18.8%	12.5%	0.0%	14.6%	26.1%	15.4%	12.2%	13.3%	26.0%	15.6%	14.9%	10.0%	13.7%	16.7%
孤独感が減った	12.2%	7.5%	**30.3%**	14.3%	6.9%	0.0%	0.0%	11.1%	14.7%	17.9%	10.3%	12.5%	2.9%	10.2%	0.0%	0.0%	6.3%	2.9%	12.8%	4.1%	22.2%	8.0%	12.5%	10.3%	6.7%	3.1%	10.2%
学校や仕事に行けるようになった／集中できるようになった	9.9%	15.0%	21.2%	10.2%	10.3%	0.0%	0.0%	**22.2%**	11.8%	10.3%	6.9%	9.4%	5.9%	7.0%	12.5%	0.0%	6.3%	1.4%	15.4%	8.1%	15.6%	8.0%	10.4%	9.7%	10.0%	6.9%	9.4%
自分のために使える時間が増えた	12.8%	**17.5%**	3.0%	2.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	8.8%	15.4%	8.0%	6.3%	14.7%	9.4%	12.5%	0.0%	0.0%	1.4%	3.8%	10.8%	11.1%	6.0%	6.3%	11.4%	16.7%	3.1%	8.2%
自分の将来について考える時間やきっかけができた	9.9%	17.5%	3.0%	**22.4%**	10.3%	0.0%	0.0%	11.1%	8.8%	20.5%	6.9%	1.6%	5.9%	6.3%	0.0%	0.0%	4.2%	2.9%	6.4%	8.1%	17.8%	12.0%	5.2%	12.6%	3.3%	2.3%	8.4%
経済的な不安が減った	1.7%	2.5%	0.0%	4.1%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	7.7%	5.7%	7.8%	2.9%	2.3%	0.0%	0.0%	2.1%	2.9%	10.3%	**10.8%**	0.0%	8.0%	3.1%	5.7%	0.0%	0.0%	4.1%
その他	4.7%	0.0%	0.0%	2.0%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	3.4%	3.1%	2.9%	6.3%	**12.5%**	0.0%	**12.5%**	2.9%	3.8%	10.8%	0.0%	8.0%	0.0%	2.3%	0.0%	9.9%	4.4%
効果を感じなかった	0.6%	0.0%	0.0%	2.0%	**17.2%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	8.3%	1.7%	3.3%	1.5%	1.8%
効果については分からない	15.7%	2.5%	9.1%	16.3%	20.7%	**100.0%**	**100.0%**	44.4%	5.9%	10.3%	37.9%	21.9%	26.5%	24.2%	37.5%	0.0%	43.8%	30.4%	25.6%	27.0%	6.7%	18.0%	34.4%	26.9%	40.0%	50.4%	**26.3%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

31 貴施設がヤングケアラー本人を支援できたことによる効果について、把握している範囲で回答してください。

効果の有無（割合）

n=58

詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校（	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	合計
効果があった	83.7%	**97.5%**	90.9%	81.6%	62.1%	0.0%	0.0%	55.6%	94.1%	89.7%	59.8%	78.1%	73.5%	73.4%	62.5%	0.0%	56.3%	69.6%	74.4%	71.6%	93.3%	82.0%	57.3%	71.4%	56.7%	48.1%	**72.0%**
効果がなかった、効果については分からない	16.3%	2.5%	9.1%	18.4%	37.9%	**100.0%**	**100.0%**	44.4%	5.9%	10.3%	40.2%	21.9%	26.5%	26.6%	37.5%	0.0%	43.8%	30.4%	25.6%	28.4%	6.7%	18.0%	42.7%	28.6%	43.3%	51.9%	28.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答割合では、「効果については分からない」が26.3%と最も高く、支援は行っているが効果としては把握できていないケースが一定程度見受けられた。
- 「効果があった」と「効果がなかった、効果については分からない」の選択肢に大別して比較したところ、「児童相談所」「公立小学校」「私立高等学校」「民間支援団体」において、90%以上が「効果があった」旨の回答であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

32 貴施設において実施した、ヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方を除く）に対する支援の内容を回答してください。

対象分野　児童福祉　若者支援　生活福祉　地　域　（民間支援団体のみ）

回答件数

n=77

分野	児童福祉		若者支援	生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
相談支援	**61**	9	2	15	21	6	**114**
各種支援機関の情報提供・案内	**32**	7	3	14	16	6	78
特に実施していない	16	1	13	**21**	19	7	77
見守り	**30**	1	0	6	0	5	42
その他	**12**	6	3	4	5	1	31
食事支援（提供、配達）	**17**	0	0	0	4	5	26
学習支援	**10**	0	0	2	0	5	17
経済的支援	0	0	0	**9**	2	0	11
きょうだいの世話や送迎など	**9**	0	0	0	0	5	14
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	0	**5**	1	0	0	2	8
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	4	0	0	0	0	**5**	9
就労支援	0	0	0	2	1	**5**	8
外出の付き添い（買い物、散歩など）	1	0	0	0	0	**5**	6
レスパイト	1	0	0	0	0	**5**	6
合計	**193**	**29**	**22**	**73**	**68**	**62**	**447**

回答割合

n=77

分野	児童福祉		若者支援	生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
相談支援	**31.6%**	31.0%	9.1%	20.5%	30.9%	9.7%	**25.5%**
各種支援機関の情報提供・案内	16.6%	**24.1%**	13.6%	19.2%	23.5%	9.7%	17.4%
特に実施していない	8.3%	3.4%	**59.1%**	28.8%	27.9%	11.3%	17.2%
見守り	**15.5%**	3.4%	0.0%	8.2%	0.0%	8.1%	9.4%
その他	6.2%	**20.7%**	13.6%	5.5%	7.4%	1.6%	6.9%
食事支援（提供、配達）	**8.8%**	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	8.1%	5.8%
学習支援	5.2%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	**8.1%**	3.8%
経済的支援	0.0%	0.0%	0.0%	**12.3%**	2.9%	0.0%	2.5%
きょうだいの世話や送迎など	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**8.1%**	3.1%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	0.0%	**17.2%**	4.5%	0.0%	0.0%	3.2%	1.8%
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**8.1%**	2.0%
就労支援	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1.5%	**8.1%**	1.8%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**8.1%**	1.3%
レスパイト	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**8.1%**	1.3%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「相談支援」が114件と最多であり、次いで「各種援機関の情報提供・案内」78件、「特に実施していない」77件であった。
- 回答割合では、子供家庭支援センター、児童相談所、自立相談支援機関では「相談支援」が最も高い割合を占め、子ども・若者総合相談センター、福祉事務所では「特に実施していない」が最も高かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

33 貴施設において実施しているヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）を支援できたことによる効果について、把握している範囲でお答えください。

対象分野　児童福祉　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉　地　域　（民間支援団体のみ）

回答件数

n=156

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
ケアやお世話の負担が減った	**14**	1	0	12	5	4	12	1	0	2	3	7	61
精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	**24**	8	2	11	11	2	13	0	0	7	7	6	91
孤独感が減った	**13**	1	1	5	2	2	4	0	0	3	0	8	39
学校や仕事に行けるようになった／集中できるようになった	**12**	2	0	3	2	1	5	0	0	3	1	7	36
自分のために使える時間が増えた	**10**	2	0	3	7	2	5	0	0	2	5	6	42
経済的な不安が減った	**9**	0	0	3	0	0	1	0	0	5	3	0	21
その他	**13**	0	6	2	6	0	7	0	0	8	7	2	51
効果を感じなかった	0	0	0	**3**	0	0	**3**	0	0	0	0	0	6
効果については分からない	**44**	3	10	37	17	10	36	4	0	26	32	2	**221**
合計	**139**	**17**	**19**	**79**	**50**	**21**	**86**	**5**	**0**	**56**	**58**	**38**	**568**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

33 貴施設において実施しているヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）を支援できたことによる効果について、把握している範囲でお答えください。

回答割合

n=156

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
ケアやお世話の負担が減った	10.1%	5.9%	0.0%	15.2%	10.0%	19.0%	14.0%	**20.0%**	0.0%	3.6%	5.2%	18.4%	10.7%
精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	17.3%	**47.1%**	10.5%	13.9%	22.0%	9.5%	15.1%	0.0%	0.0%	12.5%	12.1%	15.8%	16.0%
孤独感が減った	9.4%	5.9%	5.3%	6.3%	4.0%	9.5%	4.7%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	**21.1%**	6.9%
学校や仕事に行けるようになった／集中できるようになった	8.6%	11.8%	0.0%	3.8%	4.0%	4.8%	5.8%	0.0%	0.0%	5.4%	1.7%	**18.4%**	6.3%
自分のために使える時間が増えた	7.2%	11.8%	0.0%	3.8%	14.0%	9.5%	5.8%	0.0%	0.0%	3.6%	8.6%	**15.8%**	7.4%
経済的な不安が減った	6.5%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	**8.9%**	5.2%	0.0%	3.7%
その他	9.4%	0.0%	**31.6%**	2.5%	12.0%	0.0%	8.1%	0.0%	0.0%	14.3%	12.1%	5.3%	9.0%
効果を感じなかった	0.0%	0.0%	0.0%	**3.8%**	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
効果については分からない	31.7%	17.6%	52.6%	46.8%	34.0%	47.6%	41.9%	**80.0%**	0.0%	46.4%	55.2%	5.3%	**38.9%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

33 貴施設において実施しているヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）を支援できたことによる効果について、把握している範囲でお答えください。

効果の有無（割合）

n=156

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
効果があった	68.3%	82.4%	47.4%	49.4%	66.0%	52.4%	54.7%	20.0%	0.0%	53.6%	44.8%	**94.7%**	**60.0%**
効果を感じなかった、効果については分からない	31.7%	17.6%	52.6%	50.6%	34.0%	47.6%	45.3%	**80.0%**	0.0%	46.4%	55.2%	0.0%	40.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では「効果については分からない」が221件と最も多く、支援は行っているが効果までは把握できていないケースが一定程度見受けられた。
- 「効果があった」と「効果がなかった、効果については分からない」の選択肢に大別して比較したところ、民間支援団体において94.7%が、児童相談所において82.4%が、「効果があった」旨の回答であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

34 ヤングケアラーが行っている患者等のケアや家事など本人の負担となっていること、また、そのことによる影響について、把握している範囲でお答えください。

対象分野：児童福祉　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉　地　域（民間支援団体のみ）

回答件数　n=158

分野		児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
患者のケア等	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	15	2	6	**25**	15	7	24	2	0	10	8	2	116
	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	1	0	0	0	0	**2**	0	**2**	0	0	1	1	7
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	**19**	4	7	12	12	5	12	0	0	11	8	7	97
	通院の付き添い	**12**	4	3	10	9	4	10	1	0	2	6	7	68
	入院や入所しているときの面会	4	2	0	**6**	**6**	0	3	0	0	0	3	1	25
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	**35**	7	4	20	14	5	23	1	0	24	12	5	150
	見守り	32	5	7	28	17	6	**35**	2	0	16	14	5	167
	通訳（日本語や手話など）	**7**	1	0	0	0	0	2	1	0	5	5	0	21
	金銭管理	5	0	3	**13**	6	1	4	2	0	8	5	2	49
	薬の管理	2	0	1	**8**	**8**	1	0	1	0	0	2	0	23
家庭内での役割	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	**53**	8	9	32	23	8	33	5	0	35	16	9	**231**
	きょうだいの世話や送迎など	**46**	7	6	4	5	6	24	2	0	14	12	7	133
	家計を助ける（働く）	4	0	1	9	**10**	1	6	1	0	6	**10**	2	50
本人の生活への影響	学校に通えていない	**16**	6	5	10	4	1	12	2	0	10	7	5	78
	就職できていない	0	0	**7**	3	**7**	0	5	1	0	4	2	5	34
	自分のために使える時間を十分に持てていない	**47**	10	8	24	19	6	33	2	0	20	20	6	195
	その他	19	5	2	10	7	2	**23**	2	0	3	9	1	83
	わからない（具体的には把握していない）	7	0	1	17	9	4	**19**	0	0	10	8	0	75
合計		**324**	**61**	**70**	**231**	**171**	**59**	**268**	**27**	**0**	**178**	**148**	**65**	**1602**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

34 ヤングケアラーが行っている患者等のケアや家事など本人の負担となっていること、また、そのことによる影響について、把握している範囲でお答えください。

回答割合

n=158

分野		児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
患者のケア等	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	4.6%	3.3%	8.6%	10.8%	8.8%	**11.9%**	9.0%	7.4%	0.0%	5.6%	5.4%	3.1%	7.2%
	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	**7.4%**	0.0%	0.0%	0.7%	1.5%	0.4%
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	5.9%	6.6%	10.0%	5.2%	7.0%	8.5%	4.5%	0.0%	0.0%	6.2%	5.4%	**10.8%**	6.1%
	通院の付き添い	3.7%	6.6%	4.3%	4.3%	5.3%	6.8%	3.7%	3.7%	0.0%	1.1%	4.1%	**10.8%**	4.2%
	入院や入所しているときの面会	1.2%	3.3%	0.0%	2.6%	**3.5%**	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.5%	1.6%
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	10.8%	11.5%	5.7%	8.7%	8.2%	8.5%	8.6%	3.7%	0.0%	**13.5%**	8.1%	7.7%	9.4%
	見守り	9.9%	8.2%	10.0%	12.1%	9.9%	10.2%	**13.1%**	7.4%	0.0%	9.0%	9.5%	7.7%	10.4%
	通訳（日本語や手話など）	2.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	**3.7%**	0.0%	2.8%	3.4%	0.0%	1.3%
	金銭管理	1.5%	0.0%	4.3%	5.6%	3.5%	1.7%	1.5%	**7.4%**	0.0%	4.5%	3.4%	3.1%	3.1%
	薬の管理	0.6%	0.0%	1.4%	3.5%	**4.7%**	1.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%
家庭内での役割	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	16.4%	13.1%	12.9%	13.9%	13.5%	13.6%	12.3%	18.5%	0.0%	**19.7%**	10.8%	13.8%	**14.4%**
	きょうだいの世話や送迎など	**14.2%**	11.5%	8.6%	1.7%	2.9%	10.2%	9.0%	7.4%	0.0%	7.9%	8.1%	10.8%	8.3%
	家計を助ける（働く）	1.2%	0.0%	1.4%	3.9%	5.8%	1.7%	2.2%	3.7%	0.0%	3.4%	**6.8%**	3.1%	3.1%
本人の生活への影響	学校に通えていない	4.9%	**9.8%**	7.1%	4.3%	2.3%	1.7%	4.5%	7.4%	0.0%	5.6%	4.7%	7.7%	4.9%
	就職できていない	0.0%	0.0%	**10.0%**	1.3%	4.1%	0.0%	1.9%	3.7%	0.0%	2.2%	1.4%	7.7%	2.1%
	自分のために使える時間を十分に持てていない	14.5%	**16.4%**	11.4%	10.4%	11.1%	10.2%	12.3%	7.4%	0.0%	11.2%	13.5%	9.2%	12.2%
	その他	5.9%	8.2%	2.9%	4.3%	4.1%	3.4%	**8.6%**	7.4%	0.0%	1.7%	6.1%	1.5%	5.2%
	わからない（具体的には把握していない）	2.2%	0.0%	1.4%	**7.4%**	5.3%	6.8%	7.1%	0.0%	0.0%	5.6%	5.4%	0.0%	4.7%
合計		**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、本人の負担として「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が231件と最多であり、生活への影響としては「自分のために使える時間を十分に持てていない」が195件と多かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

35 ヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）が行っているケアの負担や、ケアを負担したことによる影響について、把握している範囲でお答えください。

対象分野　児童福祉　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉　地　域　（民間支援団体のみ）

回答件数　n=156

分野		児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
患者のケア等	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	9	2	0	23	17	2	18	1	0	8	5	3	88
	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	1	0	0	5	1	0	2	0	0	1	1	1	12
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	8	1	0	16	10	3	11	1	0	5	4	**6**	65
	通院の付き添い	5	0	0	15	10	3	10	1	0	2	5	**6**	57
	入院や入所しているときの面会	3	1	0	10	2	0	1	1	0	1	2	1	22
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	8	**7**	0	13	14	6	20	0	0	8	5	5	86
	見守り	16	6	0	22	**19**	4	26	0	0	17	9	5	124
	通訳（日本語や手話など）	1	0	0	0	0	2	1	0	0	3	0	0	7
	金銭管理	4	0	0	17	11	5	12	1	0	2	2	0	54
	薬の管理	1	0	0	12	9	3	9	0	0	1	1	0	36
家庭内での役割	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	23	4	1	25	18	5	24	1	0	18	7	5	131
	きょうだいの世話や送迎など	13	1	1	3	1	3	13	1	0	3	7	5	51
	家計を助ける（働く）	9	0	0	14	6	5	8	0	0	9	7	0	58
本人の生活への影響	学校に通えていない	2	3	0	0	0	1	4	0	0	6	4	5	25
	就職できていない	0	1	0	1	2	0	2	0	0	1	0	5	12
	自分のために使える時間を十分に持てていない	12	1	0	9	13	1	12	0	0	10	3	5	66
	その他	25	0	1	7	5	5	10	0	0	3	4	1	61
	わからない（具体的には把握していない）	**50**	4	**15**	**32**	13	**7**	**30**	**5**	0	**22**	**26**	5	**209**
合計		**190**	**31**	**18**	**224**	**151**	**55**	**213**	**12**	**0**	**120**	**92**	**58**	**1164**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

35 ヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）が行っているケアの負担や、ケアを負担したことによる影響について、把握している範囲でお答えください。

回答割合

n=158

分野		児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		地域	合計
詳細分野		子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
患者のケア等	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	4.7%	6.5%	0.0%	10.3%	**11.3%**	3.6%	8.5%	8.3%	0.0%	6.7%	5.4%	5.2%	7.6%
	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	0.5%	0.0%	0.0%	**2.2%**	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%	1.1%	1.7%	1.0%
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	4.2%	3.2%	0.0%	7.1%	6.6%	5.5%	5.2%	8.3%	0.0%	4.2%	4.3%	**10.3%**	5.6%
	通院の付き添い	2.6%	0.0%	0.0%	6.7%	6.6%	5.5%	4.7%	8.3%	0.0%	1.7%	5.4%	**10.3%**	4.9%
	入院や入所しているときの面会	1.6%	3.2%	0.0%	4.5%	1.3%	0.0%	0.5%	**8.3%**	0.0%	0.8%	2.2%	1.7%	1.9%
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	4.2%	**22.6%**	0.0%	5.8%	9.3%	10.9%	9.4%	0.0%	0.0%	6.7%	5.4%	8.6%	7.4%
	見守り	8.4%	**19.4%**	0.0%	9.8%	12.6%	7.3%	12.2%	0.0%	0.0%	14.2%	9.8%	8.6%	10.7%
	通訳（日本語や手話など）	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**3.6%**	0.5%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.6%
	金銭管理	2.1%	0.0%	0.0%	7.6%	7.3%	**9.1%**	5.6%	8.3%	0.0%	1.7%	2.2%	0.0%	4.6%
	薬の管理	0.5%	0.0%	0.0%	5.4%	**6.0%**	5.5%	4.2%	0.0%	0.0%	0.8%	1.1%	0.0%	3.1%
家庭内での役割	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	12.1%	12.9%	5.6%	11.2%	11.9%	9.1%	11.3%	8.3%	0.0%	**15.0%**	7.6%	8.6%	11.3%
	きょうだいの世話や送迎など	6.8%	3.2%	5.6%	1.3%	0.7%	5.5%	6.1%	8.3%	0.0%	2.5%	7.6%	**8.6%**	4.4%
	家計を助ける（働く）	4.7%	0.0%	0.0%	6.3%	4.0%	**9.1%**	3.8%	0.0%	0.0%	7.5%	7.6%	0.0%	5.0%
本人の生活への影響	学校に通えていない	1.1%	**9.7%**	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.9%	0.0%	0.0%	5.0%	4.3%	8.6%	2.1%
	就職できていない	0.0%	3.2%	0.0%	0.4%	1.3%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	**8.6%**	1.0%
	自分のために使える時間を十分に持てていない	6.3%	3.2%	0.0%	4.0%	8.6%	1.8%	5.6%	0.0%	0.0%	8.3%	3.3%	**8.6%**	5.7%
	その他	**13.2%**	0.0%	5.6%	3.1%	3.3%	9.1%	4.7%	0.0%	0.0%	2.5%	4.3%	1.7%	5.2%
	わからない（具体的には把握していない）	26.3%	12.9%	**83.3%**	14.3%	8.6%	12.7%	14.1%	41.7%	0.0%	18.3%	28.3%	8.6%	**18.0%**
合計		**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、生活への影響として「わからない（具体的には把握していない）」が209件と最も多く、本人の負担として「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が131件と多かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

36 ケアをしている家族（ヤングケアラー本人を含む）の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等について、お考えがあればご記載ください。（任意）

対象分野：児童福祉　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉　地　域（民間支援団体のみ）

回答件数

n=110

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
家庭の受援への意識	7	**1**	**1**	3	1	0	6	1	0	0	20
サービスの新設・拡充	**12**	**1**	**1**	**12**	**6**	1	**16**	1	**5**	**1**	**56**
既存サービスの利用	1	0	0	2	1	0	13	**4**	2	0	23
他機関との連携	0	0	0	0	3	**2**	3	0	1	**1**	10
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	**20**	**2**	**2**	**18**	**11**	**3**	**38**	**6**	**8**	**2**	**110**

回答割合

n=110

分野	児童福祉		若者支援	高齢者福祉		障害福祉		生活福祉		地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	
家庭の受援への意識	35.0%	**50.0%**	**50.0%**	16.7%	9.1%	0.0%	15.8%	16.7%	0.0%	0.0%	18.2%
サービスの新設・拡充	60.0%	50.0%	50.0%	**66.7%**	54.5%	33.3%	42.1%	16.7%	62.5%	50.0%	**50.9%**
既存サービスの利用	5.0%	0.0%	0.0%	11.1%	9.1%	0.0%	34.2%	**66.7%**	25.0%	0.0%	20.9%
他機関との連携	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	**66.7%**	7.9%	0.0%	12.5%	50.0%	9.1%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	**5.6%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

自由記述での回答を分類し集計した

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「サービスの新設・拡充」に関する回答が最も多く、56件（50.9%）であった。

36 ケアをしている家族（ヤングケアラー本人を含む）の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等について、お考えがあればご記載ください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

・家庭の受援への意識	・利用料金がかかる、問題意識のない方の場合利用に至らない。 ・ケアラー本人は大学進学を希望しているが、保護者はケアラーに依存しており、家庭内で進学の相談をすることは難しい。ケアラーの進学・進路をサポートできるサービスが必要と考える。 ・保護者の同意がなければサービスにつなげることがむつかしい。保護者のニーズのないところに子どもへの支援を入れていくワーカーとしての技量が必要になる。
・サービスの新設・拡充	・保護者が障がい者の場合障がい福祉サービスでの育児サービスを利用することが難しい（利用の許可がおりにくい）。
・既存サービスの利用	・幼い弟には発達障害があり、母は精神障害を抱えながらも、子どもショートステイを頻繁に利用することで、ケアラーへの負担は限定的におさえられている。

■児童相談所

・サービスの新設・拡充	・社会資源が不足している。

■子ども・若者総合相談センター

・家庭の受援への意識	・ケアしている本人が困っていないと認識することで、サービス資源が新たにつくっても活用しない可能性が高い。家族が介護サービス等、自宅に第三者が入ることへの抵抗感を軽減する支援。家族へのヤングケアラー、若者ケアラー等の理解促進。

■地域包括支援センター

・家庭の受援への意識	・サービス提供において、拒否が強く、安定提供にならなかった。
・サービスの新設・拡充	・必要なものとしては、介護保険サービスやヤングケアラーの一時避難的な施設。
・他機関との連携	・連携が困難だった部分としては、スクールカウンセラーとの意思疎通が難しく、「勝手に関わらないでくれ」と当方の事情も聞き取らず、頭ごなしに関与を拒絶されたこと。

36 ケアをしている家族（ヤングケアラー本人を含む）の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等について、お考えがあればご記載ください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

・サービスの新設・拡充	・コンビニやスーパーの弁当等ではなく、手作りの食事が提供されるサービス（介護保険や障害支援でのヘルパーによる調理はあるが、ヤングケアラー以外の元気な家族がいると利用が難しい）、きょうだいの送迎や身の回りの世話を手伝う。 ・家族が孤立しないよう相談や愚痴が吐き出せる場や時間。定期スケジュール以外で不定期に対応しないといけない場合は、ヤングケアラーに比重がかかっているようだったので、そこに支援で対応できるものが必要。
・既存サービスの利用	・介護保険利用に際しての利用料金や利用方法を知らずに制度の活用が出来ていなかった。

■居宅介護支援事業所

・サービスの新設・拡充	・認知症の祖母の食事がかなり偏っていて毎日近隣のスーパーへ買い物へ行かねばならず高齢の祖父も心臓疾患であるので介護保険の家事援助を介護保険課へ相談しましたが「働いている父が自分たちの食料を買うときに買えばいい」と認められませんでした。確かに父は働いてますが母がうつ病なのでヤングケアラーの子供も障碍者の二人を看るので精いっぱいで祖父母まで手が回りません。孫も自分で出来ることを手伝う毎日で気を使っているようです。 ・メールでいつでも相談ができる機関があると良いかと思います。
・他機関との連携	・十代のヤングケアラーの場合、世代が変わると担当機関も変わり、担当者も交代となる点。ワンストップではない点。ケアラー自身の負担が大きいと感じました。

■基幹相談支援センター

・サービスの新設・拡充	・SSWの活用が望ましいと思われる。特に、SSWに所属児童に限定した学校外への相談機能（アウトリーチ含む）を持たせ、各地域資源との連携が取れるといいのではないか。そのためには学校の中である程度の権限が必要だと思われるため、出来れば常勤配置をして欲しい。連携者側としても、非常勤だと定着せずやりにくさを感じるため。

36 ケアをしている家族（ヤングケアラー本人を含む）の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等について、お考えがあればご記載ください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■特定相談支援事業所

・家庭の受援への意識	・ご家族がヤングケアラーということの認識や自覚がない、家族が助け合って何が悪い、無理はさせていない、本人が望んでやっているというスタンスのため、支援に入れません。お父様やお母さまにも、二番目の兄への、支援をおすすめしましたが、ご本人が拒否しているとのことです。その間に、また感情が爆発し、自宅内で暴れてものを怖し、引っ越しを余儀なくされています。 ・ケアをされている方の家族の支援を行っているが、その方がヤングケアラーに対し依存的であるという自覚がないことと、人と接することに疲れを感じやすく訪問系のサービスにはつながりにくいこと。
・サービスの新設・拡充	・障害福祉サービスでは障害者本人の自立を促すためのサービスになっているが、ヤングケアラーのための支援となると本人の自立を促すことと矛盾してしまうことが多い。障害者自身の依存度を高くしてしまう結果になっている。 ・移動支援を利用してヘルパーが送迎を行えないため、両親が仕事をしている場合、兄弟が送迎を行わなければならない。 ・日本語を母国語としていない人が、多数をしめる家庭のため、家族がそろっていたとしても、不便さを感じることが多くあるが、利用できる福祉サービスに限りがある。

■福祉事務所

・サービスの新設・拡充	・母の障害サービス（ヘルパー）の申請を行った際、高校生の子が家事をすれば不要との意見が出たため、サービス導入までに時間がかかった。決定後もリスクが高いとして引き受け事業者が決まらなかった。

36 ケアをしている家族（ヤングケアラー本人を含む）の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等について、お考えがあればご記載ください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■自立相談支援機関

・サービスの新設・拡充	・家族・本人いずれも社会的手続きが苦手な場合があり、介入から解決まで一貫してかかわることで、解決が見込める。特に介入が重要。
・他機関との連携	・生活困窮者自立支援制度の担当としては、起因となる相談経路が経済的理由であることが大多数となるため、ヤングケアラーに対して直接提供できるサービスなどが無い。そのため、子ども家庭支援センターなどの専門部署に頼らざるを得ない側面があると考えている。介護サービスや障害福祉サービスの利用により負担軽減につながる。学習支援を利用し、子どもが学習に集中できる時間や居場所を確保する。

■民間支援団体

・他機関との連携	・地域包括支援センターに相談をしに行くと「障害者のことは分からない」と言われ、障害者福祉センターに行くと「高齢者のことは分からない」と言われてたらいまわしにされているケースが、社会人および大学生から通算５件あった。地域を包括するはずの地域包括支援センターで厳しい口調で帰されてしまうことが多く、特に「きょうだい」の立場の人は要介護者や保護者との意見が合わず精神的なダメージを受けて鬱症状を発症してしまうことがある。18歳未満のヤングケアラーは公的サービスを学ぶ機会が学校にも家庭にもないので「地域包括支援センター」の存在も役割も知らない。同様に、「こども家庭センター」の存在を知るヤングケアラーはこれまでに１名しかおらず、「こども家庭センター」の存在と役割の周知ができていないので、ヤングケアラーもその家族も「こども家庭センター」の存在や役割を知らない。ヤングケアラーは10代～40歳未満まですべての年齢において、障害者に向けた公的サービスの詳細について知りたがっている。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

37 貴施設において、ケアを受けている方に対する支援を行っている場合に、実施している内容について教えてください。（任意）

対象分野　児童福祉　若者支援　地　域　（民間支援団体のみ）

回答件数

n=10

分野	児童福祉		若者支援	地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	民間支援団体	
生活支援	2	0	0	1	3
相談支援	2	1	0	0	3
医療	2	0	0	0	2
育児支援	1	0	0	0	1
連携支援	0	0	0	1	1
合計	7	1	0	2	10

回答割合

n=10

分野	児童福祉		若者支援	地域	合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	子ども・若者総合相談センター	民間支援団体	
生活支援	28.6%	0.0%	0.0%	50.0%	30.0%
相談支援	28.6%	100.0%	0.0%	0.0%	30.0%
医療	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
育児支援	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
連携支援	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	10.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%

自由記述での回答を分類し集計した

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 児童福祉・若者支援・民間支援団体においても、「生活支援」、「相談支援」を中心に、ケアを受けている方に対する支援を行っている場合がある。

37 貴施設において、ケアを受けている方に対する支援を行っている場合に、実施している内容について教えてください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

・連携支援	・関係機関への調査、連携。
・相談支援	・相談支援。
	・自宅訪問を実施し状況確認、相談支援を行っている。
・生活支援	・居住地の室内清掃。
・育児支援	・育児支援ヘルパーを入れて、病院受診の同行を依頼。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

38 ケアや治療を受ける方（患者）への各種支援を検討する際は、子供を「介護力」や世話をする存在とみなすことなく、支援内容を検討することを意識されていますか。

対象分野　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉

回答件数

n=455

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	
意識して支援内容を検討しており、決定した支援内容についても配慮したものとなっている	44	42	20	**69**	5	2	16	17	**215**
意識して支援内容を検討しているが、決定した支援内容については十分な配慮となっていない可能性はある	38	47	5	**60**	2	1	19	12	184
十分に意識できていなかった	9	13	1	**25**	2	3	2	1	56
合計	**91**	**102**	**26**	**154**	**9**	**6**	**37**	**30**	**455**

回答割合

n=455

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	
意識して支援内容を検討しており、決定した支援内容についても配慮したものとなっている	48.4%	41.2%	**76.9%**	44.8%	55.6%	33.3%	43.2%	56.7%	**47.3%**
意識して支援内容を検討しているが、決定した支援内容については十分な配慮となっていない可能性はある	41.8%	46.1%	19.2%	39.0%	22.2%	16.7%	**51.4%**	40.0%	40.4%
十分に意識できていなかった	9.9%	12.7%	3.8%	16.2%	22.2%	**50.0%**	5.4%	3.3%	12.3%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「意識して支援内容を検討しており、決定した支援内容についても配慮したものとなっている」は215件（47.3%）に止まっている。
- 回答割合では、「意識して支援内容を検討しており、決定した支援内容についても配慮したものとなっている」の割合が最も高かったのは「基幹相談支援センター」で76.9%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

39 貴施設及び貴校（18歳の生徒が通う学校のみ）において把握しているヤングケアラーが、成人する等により、支援の対象年齢から外れる場合に、18歳以上の若者を支援する機関への情報共有等の連携を行っていますか。

対象分野　児童福祉　教育機関　（教育委員会は除く）

回答件数

n=76

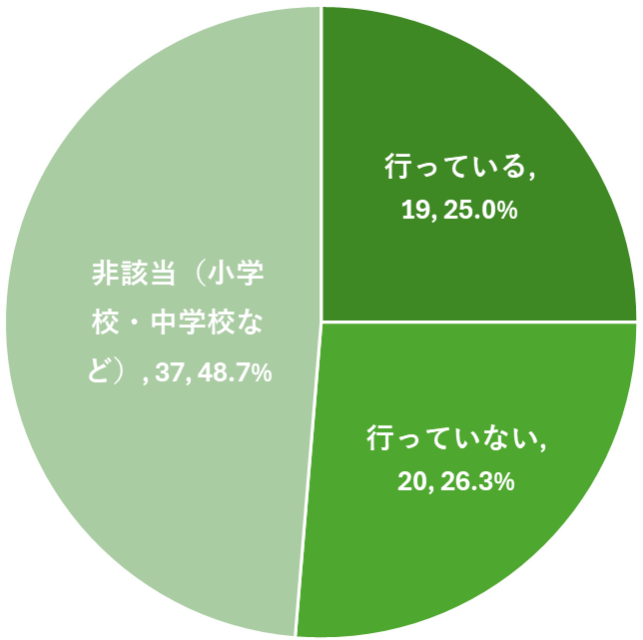
分野	児童福祉		教育機関							合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	義務教育学校、特別支援学校、その他公立（中等教育学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
行っている	**14**	**2**	0	0	1	0	0	0	2	19
行っていない	4	0	0	1	**6**	**1**	0	**2**	**6**	20
（小学校・中学校など）非該当	6	1	**15**	**12**	0	**1**	**1**	1	0	**37**
合計	**24**	**3**	**15**	**13**	**7**	**2**	**1**	**3**	**8**	**76**

回答割合

行っている	58.3%	**66.7%**	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
行っていない	16.7%	0.0%	0.0%	7.7%	**85.7%**	50.0%	0.0%	66.7%	75.0%	26.3%
（小学校・中学校など）非該当	25.0%	33.3%	**100.0%**	92.3%	0.0%	50.0%	**100.0%**	33.3%	0.0%	**48.7%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

回答割合（全体）　n=76



TOPICS

- 「行っている」と「行っていない」の回答件数はほぼ同数であった。
- 児童相談所は有効回答でみると100%連携している一方で、公立高等学校では「行っていない」との回答が85.7%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

40 （39で「行っている」と回答した場合）これまでに連携した施設名を回答してください。

対象分野　児童福祉　教育機関　（教育委員会は除く）

記載内容　n=19

保健センター
福祉事務所
社会福祉協議会
勤労者仕事・支援センター
サポステ
若者支援機関
自立支援
福祉センター
保健相談所
若者サポートステーション
社会福祉課（福祉事務所）
障害者関係機関
社会福祉協議会
子ども若者課
障害福祉課
社会福祉協議会
地域活動支援センター
保健相談所
生活相談支援センター
フリースペース
民間支援団体
生活サポート相談窓口
子ども家庭支援センター
学校
病院
保健所
福祉事務所
ヤングハローワーク
児童相談所
子ども家庭支援センター

※　自由記述を全件記載しているため、表現が重複しているものがある

分野ごとの集計

子供家庭支援センター	2
児童相談所	1
若者支援機関	3
就労支援機関	3
病院	1
保健機関	4
生活福祉機関	7
障害者支援機関	3
社会福祉協議会	3
学校	1
民間支援団体	1
その他	1
合計	30

TOPICS

- 集計したところ、「生活福祉機関」への連携が7件と最も多く、次点は「保健機関」の4件であった。
- 就労支援機関への連携についても見受けられた。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

41 これまでに18歳未満のヤングケアラーについて情報提供等を受けた施設名をすべて回答してください。

対象分野　若者支援

回答件数

n=8

分野	若者支援
詳細分野	子ども・若者総合相談センター
ヤングケアラー・コーディネーター	1
子供家庭支援センター	2
児童相談所	0
地域包括支援センター	1
居宅介護支援事業所	0
基幹相談支援センター	0
特定相談支援事業所	0
保健所	0
保健センター	0
病院	0
診療所	0
訪問看護ステーション	0
福祉事務所	0
自立相談支援機関	2
子ども・若者総合相談センター	0
教育委員会	0
公立学校	0
私立学校	0
民生委員	0

分野	若者支援
詳細分野	子ども・若者総合相談センター
児童委員	0
主任児童委員	0
社会福祉協議会	0
フードバンク	0
フリースクール	0
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0
子供食堂	0
民間支援団体	0
公立幼稚園	0
私立幼稚園	0
認定こども園	0
認可保育所	0
認証保育所	0
学童クラブ	0
放課後等デイサービス	0
児童館	0
その他	1
該当なし	2
合計	**9**

回答割合

n=8

分野	若者支援
詳細分野	子ども・若者総合相談センター
ヤングケアラー・コーディネーター	11.1%
子供家庭支援センター	**22.2%**
児童相談所	0.0%
地域包括支援センター	11.1%
居宅介護支援事業所	0.0%
基幹相談支援センター	0.0%
特定相談支援事業所	0.0%
保健所	0.0%
保健センター	0.0%
病院	0.0%
診療所	0.0%
訪問看護ステーション	0.0%
福祉事務所	0.0%
自立相談支援機関	**22.2%**
子ども・若者総合相談センター	0.0%
教育委員会	0.0%
公立学校	0.0%
私立学校	0.0%
民生委員	0.0%

分野	若者支援
詳細分野	子ども・若者総合相談センター
児童委員	0.0%
主任児童委員	0.0%
社会福祉協議会	0.0%
フードバンク	0.0%
フリースクール	0.0%
学習支援教室（学習支援を実施している地域の居場所を含む）	0.0%
子供食堂	0.0%
民間支援団体	0.0%
公立幼稚園	0.0%
私立幼稚園	0.0%
認定こども園	0.0%
認可保育所	0.0%
認証保育所	0.0%
学童クラブ	0.0%
放課後等デイサービス	0.0%
児童館	0.0%
その他	11.1%
該当なし	**22.2%**
合計	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「子供家庭支援センター」「自立相談支援事業所」「該当なし」が2件、「ヤングケアラー・コーディネーター」「地域包括支援センター」「その他」が1件であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

42 連携していない、連携できていない理由・事情を教えてください。

対象分野　児童福祉　教育機関（教育委員会は除く）

回答件数

n=19

分野	児童福祉		教育機関							合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
若者支援機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
どの施設と連携すればよいかわからなかった	0	0	0	1	1	0	0	0	2	4
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
家族の個人情報を共有することができなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
施設内における既存の支援が手一杯で連携について対応できない状況にあった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携を依頼したが、依頼先の関係機関から断られた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	0	0	0	0	2	0	0	0	2	4
その他	2	0	0	1	2	1	0	1	0	7
合計	**4**	**0**	**0**	**3**	**6**	**1**	**0**	**2**	**6**	**22**

回答割合

n=19

分野	児童福祉		教育機関							合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
若者支援機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%
どの施設と連携すればよいかわからなかった	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	18.2%
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	9.1%
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
家族の個人情報を共有することができなかった	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%
施設内における既存の支援が手一杯で連携について対応できない状況にあった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
連携を依頼したが、依頼先の関係機関から断られた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	18.2%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	31.8%
合計	**100.0%**	**0.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「その他」が7件と多かった。その他の記述は次ページのとおり。
- 教育機関において、「どの施設と連携すればよいかわからなかった」が4件あり、連携先を知らなかったことが、連携していない・できていない理由の一つとなっていることが窺える。

42 連携していない、連携できていない理由・事情を教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

その他記載内容 ※複数回答含む

■子供家庭支援センター

・現時点で、ヤングケアラーとして把握している者が18歳を超えた事例がないため。

・現時点で事例はないが、要対協関係機関を想定している。

■公立学校（高等学校）

・ケアしていた家族が亡くなったため。

・まだ、該当ケースがない。

■公立学校（中等教育学校）

・高校生には、該当する生徒はいない。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

43 貴施設において、ヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）に対する支援を行っている場合、実施している内容についてお答えください。（任意）

対象分野　高齢者福祉　障害福祉　医　療

回答件数

n=81

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	
相談支援	19	18	5	**27**	2	0	**71**
各種支援機関の情報提供・案内	**24**	16	5	23	2	0	70
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	0	2	0	**5**	0	0	7
きょうだいの世話や送迎など	0	0	0	0	0	0	0
ピアサポート	0	0	0	**1**	0	0	1
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	0	0	0	0	0	0	0
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	**1**	0	0	**1**	0	0	2
レスパイト	**2**	**2**	1	**2**	0	0	7
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0	0	0	**2**	0	0	2
見守り	**3**	1	0	0	0	0	4
学習支援	0	0	0	0	0	0	0
食事支援（提供、配達）	0	1	0	**4**	0	0	5
就労支援	0	0	0	**2**	0	0	2
経済的支援	0	0	0	0	0	0	0
その他	**3**	2	2	2	0	0	9
特に実施していない	16	8	7	**26**	3	0	60
合計	**68**	**50**	**20**	**95**	**7**	**0**	**240**

回答割合

n=81

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		合計
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	
相談支援	27.9%	**36.0%**	25.0%	28.4%	28.6%	0.0%	**29.6%**
各種支援機関の情報提供・案内	**35.3%**	32.0%	25.0%	24.2%	28.6%	0.0%	29.2%
家事（食事の準備や掃除、洗濯）代行、手伝い	0.0%	4.0%	0.0%	**5.3%**	0.0%	0.0%	2.9%
きょうだいの世話や送迎など	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ピアサポート	0.0%	0.0%	0.0%	**1.1%**	0.0%	0.0%	0.4%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居場所・サロン（他の人たちと一緒に話ができる場）の創出・提供	**1.5%**	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.8%
レスパイト	2.9%	4.0%	**5.0%**	2.1%	0.0%	0.0%	2.9%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0.0%	0.0%	0.0%	**2.1%**	0.0%	0.0%	0.8%
見守り	**4.4%**	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
学習支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
食事支援（提供、配達）	0.0%	2.0%	0.0%	**4.2%**	0.0%	0.0%	2.1%
就労支援	0.0%	0.0%	0.0%	**2.1%**	0.0%	0.0%	0.8%
経済的支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.4%	4.0%	**10.0%**	2.1%	0.0%	0.0%	3.8%
特に実施していない	23.5%	16.0%	35.0%	27.4%	**42.9%**	0.0%	25.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では「相談支援」が71件と最も多く、割合としては29.6%であった。次点は、ほぼ同数で「各種支援機関の情報提供・案内」が70件（29.6%）であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

44 ヤングケアラーがケアをしていた方（医療機関の場合、患者）について、貴施設において実施した支援・サービス内容について教えてください。

対象分野　高齢者福祉　障害福祉　医　療　生活福祉

回答件数

n=262

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	合計
相談支援	0	0	4	**22**	0	0	6	20	52
医療提供	3	**6**	0	0	2	0	5	2	18
介護保険サービス	**27**	17	5	10	0	0	0	0	59
障害福祉サービス	0	1	0	**15**	0	0	1	0	17
生活面への支援	0	0	0	0	0	0	**13**	9	22
他機関との連携	**24**	8	5	12	3	0	11	21	**84**
見守り	0	1	0	**6**	0	0	0	0	7
その他	0	**1**	0	**1**	**1**	0	0	0	3
合計	**54**	**34**	**14**	**66**	**6**	**0**	**36**	**52**	**262**

自由記述での回答を分類し集計した

回答割合

n=262

分野	高齢者福祉		障害福祉		医療		生活福祉		
詳細分野	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	福祉事務所	自立相談支援機関	合計
相談支援	0.0%	0.0%	28.6%	**33.3%**	0.0%	0.0%	16.7%	38.5%	19.8%
医療提供	5.6%	17.6%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	13.9%	3.8%	6.9%
介護保険サービス	**50.0%**	**50.0%**	**35.7%**	15.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.5%
障害福祉サービス	0.0%	2.9%	0.0%	22.7%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	6.5%
生活面への支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**36.1%**	17.3%	8.4%
他機関との連携	44.4%	23.5%	**35.7%**	18.2%	**50.0%**	0.0%	30.6%	**40.4%**	**32.1%**
見守り	0.0%	2.9%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%
その他	0.0%	2.9%	0.0%	1.5%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「他機関との連携」が84件と最多であった。
- 回答割合では、基幹相談支援センター、病院、自立相談支援機関において、「他機関との連携」の割合が高い傾向にあった。

44 ヤングケアラーがケアをしていた方（医療機関の場合、患者）について、貴施設において実施した支援・サービス内容について教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■地域包括支援センター

・介護保険サービス	・要介護認定申請、各種介護保険サービスの説明、ケアマネ支援
	・訪問介護、通所介護
・他機関との連携	・社会福祉協議会の担当CSWに情報共有をしてつないだ。
	・重層的体制整備支援会議で関係機関と協議し、支援方針を検討している。

■居宅介護支援事業所

・他機関との連携	・包括支援センターとの連携
	・子供の年齢が変わるごとに、支援機関が変わり都度、カンファレンスや地域ケア会議を実施。

■特定相談支援事業所

・障害福祉サービス	・障害福祉サービスによるヘルパーサービスの導入。
・相談支援	・本人への相談支援・カウンセリング
・見守り	・サロンにて定期的な見守り

■病院

・医療提供	・訪問看護ステーションによる訪問看護
・他機関との連携	・子ども家庭支援センターの紹介、家事支援ヘルパーの案内と導入、支援会議の開催

44 ヤングケアラーがケアをしていた方（医療機関の場合、患者）について、貴施設において実施した支援・サービス内容について教えてください。
※自由記述（原文のまま記載）

■福祉事務所

・生活面への支援	・保護費の支給・家族の生活状況把握・金銭管理の助言等
	・通学に関する経済的支援、就労支援、転宅支援、運転免許取得支援
・他機関との連携	・学校、児童相談所、子ども家庭支援センターとの連携および情報共有
	・家事支援ヘルパー、レスパイト施設の案内をした。
	・関係支援機関と情報を共有し、包括的に支援できるよう努めている。

■自立相談支援機関

・生活面への支援	・配食弁当の手配
	・住居確保給付金・住居喪失者への支援
	・別居を希望していたため、転居先の物件探しを支援
・他機関との連携	・ヤングケアラーを介して、ひきこもりサポート機関や相談支援機関のチラシを渡した。
・相談支援	・自立相談支援

45 18歳未満のヤングケアラーの情報を他機関から受ける上での課題、連携促進のための取組について、お考えがありましたら記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

対象分野　若者支援

■子ども・若者総合相談センター n=1

・ヤングケアラーコーディネーターが各団体（役所含む）から個人情報を取得することが難しいと思う。

TOPICS

- 回答数が1件のみであったが、個人情報の共有に関する回答があった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

46 学校においてヤングケアラーかもしれない児童・生徒を把握した場合、情報共有してもらう体制を取っていますか。

対象分野　教育機関　（教育委員会のみ）

回答件数

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
全件情報共有をしている	11	11
情報共有が必要と判断した場合のみ、共有している	20	**20**
情報共有する体制となっていない	1	1
合計	**32**	**32**

回答割合

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
全件情報共有をしている	34.4%	34.4%
情報共有が必要と判断した場合のみ、共有している	62.5%	**62.5%**
情報共有する体制となっていない	3.1%	3.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「情報共有が必要と判断した場合のみ、共有している」が最も割合が高く、62.5%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

47 学校からヤングケアラーへの対応について相談を受けることがありますか。

対象分野　教育機関（教育委員会のみ）

回答件数

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
相談を受けている	16	**16**
相談を受けたことはない	16	**16**
合計	**32**	**32**

回答割合

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
相談を受けている	50.0%	**50.0%**
相談を受けたことはない	50.0%	**50.0%**
合計	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「相談を受けている」、「相談を受けたことはない」の回答は同数であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

48 学校からヤングケアラーへの対応について相談を受けた場合、どのように対応していますか。

対象分野　教育機関　（教育委員会のみ）

回答件数

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
教育委員会が主体となり、児童福祉分野等他の機関へ情報共有している	12	12
教育委員会において経済的な支援等を実施している	1	1
学校に対して、子ども家庭支援センターなど、具体的な連携先（つなぎ先）を案内している	28	**28**
学校に対して、児童・生徒との面談など、本人の状況把握を指示している	17	17
学校に対して、家庭訪問等、当該家族の状況把握を指示している	13	13
その他	3	3
合計	**74**	**74**

回答割合

n=32

分野	教育機関	合計
詳細分野	教育委員会	
教育委員会が主体となり、児童福祉分野等他の機関へ情報共有している	16.2%	16.2%
教育委員会において経済的な支援等を実施している	1.4%	1.4%
学校に対して、子ども家庭支援センターなど、具体的な連携先（つなぎ先）を案内している	37.8%	**37.8%**
学校に対して、児童・生徒との面談など、本人の状況把握を指示している	23.0%	23.0%
学校に対して、家庭訪問等、当該家族の状況把握を指示している	17.6%	17.6%
その他	4.1%	4.1%
合計	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「学校に対して、子ども家庭支援センターなど、具体的な連携先（つなぎ先）を案内している」が最も多く28件（37.8%）であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

49 ヤングケアラーに気付くことに加えて、貴校（貴施設）においてヤングケアラーに対する支援を行っていますか。（支援には「見守り」も含みます。）

対象分野　教育機関（教育委員会を除く）　保　健　地　域（民間支援団体以外）

回答件数

n=2262

分野	教育機関							保健		地域					合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
行っている	55	36	8	5	2	5	15	12	15	17	67	95	39	**242**	613
行っていない	31	11	6	5	3	13	20	3	4	16	104	142	166	**1225**	**1749**
合計	**86**	**47**	**14**	**10**	**5**	**18**	**35**	**15**	**19**	**33**	**171**	**237**	**205**	**1467**	**2362**

回答割合

分野	教育機関							保健		地域					合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
行っている	64.0%	76.6%	57.1%	50.0%	40.0%	27.8%	42.9%	**80.0%**	78.9%	51.5%	39.2%	40.1%	19.0%	16.5%	26.0%
行っていない	36.0%	23.4%	42.9%	50.0%	60.0%	72.2%	57.1%	20.0%	21.1%	48.5%	60.8%	59.9%	81.0%	**83.5%**	**74.0%**
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「行っていない」が1,749件（74.0%）であった。
- 回答割合では、「行っている」の割合が最も高いのは保健所で80.0%、「行っていない」の割合が最も高いのは公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所で83.5%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

50 【先の設問で「行っている」と回答した場合】貴校での支援において、スクールカウンセラーが担っている役割を回答してください。

対象分野　教育機関　（教育委員会を除く）

回答件数

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	**43**	21	5	3	2	5	12	91
相談支援	**41**	32	7	2	1	4	12	99
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	**46**	32	7	4	1	4	11	**105**
学習支援	**5**	0	0	1	1	1	2	10
就労支援	0	0	0	**1**	0	0	**1**	2
家庭への連絡	**21**	11	2	3	1	2	8	48
他の機関への情報共有	**26**	14	2	1	1	3	8	55
わからない	0	0	0	0	0	0	**1**	1
合計	**182**	**110**	**23**	**15**	**7**	**19**	**55**	**411**

回答割合

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	23.6%	19.1%	21.7%	20.0%	**28.6%**	26.3%	21.8%	22.1%
相談支援	22.5%	29.1%	**30.4%**	13.3%	14.3%	21.1%	21.8%	24.1%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	25.3%	29.1%	**30.4%**	26.7%	14.3%	21.1%	20.0%	**25.5%**
学習支援	2.7%	0.0%	0.0%	6.7%	**14.3%**	5.3%	3.6%	2.4%
就労支援	0.0%	0.0%	0.0%	**6.7%**	0.0%	0.0%	1.8%	0.5%
家庭への連絡	11.5%	10.0%	8.7%	**20.0%**	14.3%	10.5%	14.5%	11.7%
他の機関への情報共有	14.3%	12.7%	8.7%	6.7%	14.3%	**15.8%**	14.5%	13.4%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.8%**	0.2%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「カウンセリング（心身への専門的なサポート）」が105件と最も多かった。
- 回答割合では、「公立高等学校」の「相談支援」「カウンセリング（心身への専門的なサポート）」30.4%が最も高かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

51 【先の設問で「行っている」と回答した場合】貴校での支援において、スクールソーシャルワーカー／ユースソーシャルが担っている役割を回答してください。

対象分野　教育機関（教育委員会を除く）

回答件数

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	**38**	23	4	1	2	2	4	74
相談支援	**39**	30	4	2	1	2	3	**81**
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	**20**	12	2	2	1	2	2	41
学習支援	**6**	5	0	0	0	0	0	11
就労支援	0	1	**2**	0	0	0	0	3
家庭への連絡	**29**	22	1	1	1	1	2	57
他の機関への情報共有	**34**	20	2	0	1	2	3	62
わからない	3	3	2	1	0	0	**6**	15
合計	**169**	**116**	**17**	**7**	**6**	**9**	**20**	**344**

回答割合

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野No	4	5	6	7	8	9	10	
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	22.5%	19.8%	23.5%	14.3%	**33.3%**	22.2%	20.0%	21.5%
相談支援	23.1%	25.9%	23.5%	**28.6%**	16.7%	22.2%	15.0%	**23.5%**
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	11.8%	10.3%	11.8%	**28.6%**	16.7%	22.2%	10.0%	11.9%
学習支援	3.6%	**4.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%
就労支援	0.0%	0.9%	**11.8%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
家庭への連絡	17.2%	**19.0%**	5.9%	14.3%	16.7%	11.1%	10.0%	16.6%
他の機関への情報共有	20.1%	17.2%	11.8%	0.0%	16.7%	**22.2%**	15.0%	18.0%
わからない	1.8%	2.6%	11.8%	14.3%	0.0%	0.0%	**30.0%**	4.4%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「相談支援」が81件と最も多かった。
- 回答割合では、私立小学校の「見守り」33.3%が最も高かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

52 【先の設問で「行っている」と回答した場合】貴校での支援において、カウンセラーやソーシャルワーカー以外の教職員が担っている役割を回答してください。

対象分野　教育機関（教育委員会を除く）

回答件数

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	**53**	32	8	4	2	3	14	**116**
相談支援	**36**	24	8	2	0	3	10	83
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	**15**	9	2	1	0	1	3	31
学習支援	**31**	25	4	3	1	0	5	69
就労支援	1	**2**	**2**	1	0	0	1	7
家庭への連絡	**35**	27	6	5	1	3	9	86
他の機関への情報共有	**29**	22	3	2	1	2	5	64
合計	**200**	**141**	**33**	**18**	**5**	**12**	**47**	**456**

回答割合

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
見守り	26.5%	22.7%	24.2%	22.2%	**40.0%**	25.0%	29.8%	**25.4%**
相談支援	18.0%	17.0%	24.2%	11.1%	0.0%	**25.0%**	21.3%	18.2%
カウンセリング（心身への専門的なサポート）	7.5%	6.4%	6.1%	5.6%	0.0%	**8.3%**	6.4%	6.8%
学習支援	15.5%	17.7%	12.1%	16.7%	**20.0%**	0.0%	10.6%	15.1%
就労支援	0.5%	1.4%	**6.1%**	5.6%	0.0%	0.0%	2.1%	1.5%
家庭への連絡	17.5%	19.1%	18.2%	**27.8%**	20.0%	25.0%	19.1%	18.9%
他の機関への情報共有	14.5%	15.6%	9.1%	11.1%	**20.0%**	16.7%	10.6%	14.0%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「見守り」が116件と最も多かった。
- 回答割合では、私立小学校の「見守り」40.0%が最も高かった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

53 【先の設問で「行っている」と回答した場合】支援の内容を検討及び決定するに当たり、教育委員会に相談する等、連携していますか。

対象分野　教育機関（教育委員会を除く）

回答件数

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
連携している	**38**	29	1	4	0	1	2	**75**
連携していない（校内で対応方針を検討・決定している）	**17**	7	7	1	2	4	13	51
合計	**55**	**36**	**8**	**5**	**2**	**5**	**15**	**126**

回答割合

n=126

分野	教育機関							合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
連携している	69.1%	**80.6%**	12.5%	80.0%	0.0%	20.0%	13.3%	**59.5%**
連携していない（校内で対応方針を検討・決定している）	30.9%	19.4%	87.5%	20.0%	**100.0%**	80.0%	86.7%	40.5%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 回答件数では、「連携している」が75件で、「連携していない」よりも多かった。
- 教育委員会との関係性の違いがあるため、全体的に、公立校と私立校とでは回答傾向に違いが見られた。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

54 【先の設問で「行っている」と回答した場合】ケアを受けている方の状況（病状等）や、家庭内のケアの状況を把握していますか。

対象分野　教育機関（教育委員会は除く）　保　健　地　域（民間支援団体以外）

回答件数

n=605

分野	教育機関							保健		地域					合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している	41	26	4	4	1	2	8	10	13	10	30	48	26	**147**	**370**
把握していない	14	10	4	1	1	3	7	2	2	7	40	45	11	**88**	235
合計	**55**	**36**	**8**	**5**	**2**	**5**	**15**	**12**	**15**	**17**	**70**	**93**	**37**	**235**	**605**

回答割合

n=605

分野	教育機関							保健		地域					合計
詳細分野	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	保健所	保健センター	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
把握している	74.5%	72.2%	50.0%	80.0%	50.0%	40.0%	53.3%	83.3%	**86.7%**	58.8%	42.9%	51.6%	70.3%	62.6%	**61.2%**
把握していない	25.5%	27.8%	50.0%	20.0%	50.0%	**60.0%**	46.7%	16.7%	13.3%	41.2%	57.1%	48.4%	29.7%	37.4%	38.8%
合計	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「把握している」が370件（61.2%）であった。
- 回答割合でみると「把握している」割合が最も高かったのは「保健センター」の86.7%であり、最も低かったのは「私立中学校」の40.0%であった。

回答集計 - 他機関連携・支援の状況 -

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）

対象分野：児童福祉　教育機関　若者支援　高齢者福祉　障害福祉　医　療　保　健　生活福祉　地　域

回答件数　自由記述での回答を分類し集計した

n=685

分野	児童福祉		教育機関									若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	その他私立（特別支援学校）	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
YCについての認知	0	0	0	**6**	5	**1**	0	0	0	2	0	0	**10**	**8**	0	10	**1**	0	0	**2**	**3**	1	0	**3**	25	27	16	120	**240**
支援のあり方・体制	3	0	1	3	**7**	0	0	0	**1**	**5**	0	**2**	**10**	6	**2**	**18**	0	0	**3**	0	2	**2**	**1**	2	**33**	**29**	**22**	**132**	**284**
YCであるかどうかの判断	0	0	1	3	0	0	0	0	**1**	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	9	3	13	**45**
連携面の強化	**7**	0	**3**	**6**	1	0	**1**	0	0	0	0	0	2	7	1	2	0	0	2	1	**3**	**2**	**1**	1	18	5	5	31	**99**
18歳以上への支援	2	0	0	0	0	**1**	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	**6**
社会資源の不足	3	0	0	0	0	**1**	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	**1**	0	1	1	1	2	**15**
既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	1	6	0	0	0	1	0	1	0	0	2	4	3	6	**33**
支援・サービスの利用意思のない家庭への対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	0	1	0	1	7	4	2	8	**30**
地域格差	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	**5**
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	**1**	0	0	0	1	0	1	1	3	2	4	**16**
合計	**16**	**0**	**5**	**20**	**13**	**3**	**1**	**0**	**2**	**9**	**0**	**2**	**28**	**28**	**4**	**49**	**1**	**1**	**5**	**5**	**8**	**8**	**3**	**9**	**98**	**83**	**54**	**318**	**773**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）

回答割合　アンケートに自由記述で回答いただいた内容をもとに分類分けを行い集計を実施した

n=685

分野	児童福祉		教育機関									若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域						合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	その他私立（特別支援学校）	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所	
YCについての認知の向上	0.0%	0.0%	0.0%	**30.0%**	38.5%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	**35.7%**	**28.6%**	0.0%	20.4%	**100.0%**	0.0%	0.0%	**40.0%**	**37.5%**	12.5%	0.0%	**33.3%**	25.5%	32.5%	29.6%	37.7%	31.0%
支援フローの確立	18.8%	0.0%	20.0%	15.0%	**53.8%**	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	**55.6%**	0.0%	**100.0%**	**35.7%**	21.4%	**50.0%**	**36.7%**	0.0%	0.0%	**60.0%**	0.0%	25.0%	**25.0%**	**33.3%**	22.2%	**33.7%**	**34.9%**	**40.7%**	**41.5%**	**36.7%**
YCであるかどうかの判断	0.0%	0.0%	20.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**50.0%**	11.1%	0.0%	0.0%	7.1%	3.6%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.2%	10.8%	5.6%	4.1%	5.8%
連携面の強化（個人情報の共有）	**43.8%**	0.0%	**60.0%**	**30.0%**	7.7%	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	25.0%	25.0%	4.1%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	**37.5%**	**25.0%**	**33.3%**	11.1%	18.4%	6.0%	9.3%	9.7%	12.8%
18歳以上への支援の課題	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.8%
社会資源の不足	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**33.3%**	0.0%	1.0%	1.2%	1.9%	0.6%	1.9%
既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	25.0%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	2.0%	4.8%	5.6%	1.9%	4.3%
支援・サービスの利用（介入）を拒む家庭への対応	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	12.5%	0.0%	11.1%	7.1%	4.8%	3.7%	2.5%	3.9%
地域格差	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	11.1%	1.0%	3.6%	3.7%	1.3%	2.1%
合計	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

※回答数上位1位の選択肢に背景色■（オレンジ）＋太字

TOPICS

- 「支援のあり方・体制」に関する回答が最も多く284件（36.7%）であり、次点は「YCについての認知」に関する回答が240件（31.0%）であった。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

分野別の回答自由記述抜粋

■子供家庭支援センター

・支援のあり方・体制	・区内の高校や大学には他区から通う生徒も多く、高校生以上へのアプローチや周知啓発が難しい。
・連携面の強化	・要保護児童対策地域協議会により、ケース会議を行い連携・共有されているが、ヤングケアラーと共通認識を持ちみまもりを続けられていない。 ・子どもを取り巻く課題は複雑化・深刻化している。関係機関と共通認識をもって連携・支援していけるかが課題。 ・ヤングケアラーの早期発見、支援をするには、関係機関との連携が最も重要と考えているが、児童福祉部門と他部門とで、ヤングケアラーの取り組みについての認識に、とても大きな差を感じている。 ・要対協部門とYC設置主管が違う部署なので、YCの情報収集や関係機関との情報共有に法的根拠がなく、課題がある。 ・子ども・若者支援地域協議会についても、要保護児童対策地域協議会と同様に、構成員同士であれば、ヤングケアラーがケアをしている家族についての情報も含めて、本人や家族の同意なしに共有できる仕組みを構築してほしい。 ・要保護・要支援にならない児童、18歳以上の若者に関する個人情報のやりとりが法律上で認められないと、本人同意が取れない場合（本人との接触前含む）に他機関との連携が取れずに予防的な関りや支援ができない。
・社会資源の不足	・地域によっては社会資源がなかったり、ボランティア活動等もないところがある。当市も実際にヤングケアラー支援に取り組んでいる団体やサービスなども少なく非常に苦慮している。地域格差は課題になると考えている。 ・区の人員や予算には限りがあり、ヤングケアラーのみならず多くの問題を抱える家庭に対して支援が追いついていない現状があるため、家庭支援を行う施設や担い手を増やしていく必要がある。
・18歳以上への支援	・18歳以上のヤングケアラーを把握し、相談窓口となる部署が定まっていないという課題がある。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■教育委員会

・YCであるかどうかの判断	・ヤングケアラーの判定の難しさ。お手伝いからの強制なのか、自立のための家庭の方針から、本人の辛さはどこにあるのかを代弁していく必要さ。他機関との連携からすぐに動ける体制づくりの大切さを感じます。
・連携面の強化	・生活指導主任等を中心に研修会を実施している。取組をさらに充実させるためには、各職層の教員だけでなく、保護者や地域の方などを巻き込み、多くの人が顔が見える状態になるといいと考える。 ・ヤングケアラーに関わる機関が多岐にわたるため、各機関の情報を共有することや、連携して対応するための体制づくりが課題である。

■公立小学校

・ YCについての認知	・早期発見、早期対応のために公立学校などの教員に向けた研修会の充実が支援をより広げていくための方法となるのではないかと考える。 ・子供によっては手伝いだと思っている。子供の知識が足りない。 ・当たり前のように家族の看護を理由に児童を欠席させる保護者がかなりいるので、「ヤングケアラー」とその定義がもっと市民権を得ることを期待します。
・支援のあり方・体制	・家庭内のことは学校では見えにくいため、発見が遅れかねないところに課題を感じる。体調や身なりから気付ける職員の意識の高さが必要。 ・本区はSSWが常駐しているのでありがたい。支援者が組織内にいることが大事である。 ・SSWと情報共有し、外部団体との協力を通じて「（福祉などの）外部の力」を効果的に得られるように校内体制を整えている。
・YCであるかどうかの判断	・ヤングケアラーの判定の難しさ。お手伝いからの強制なのか、自立のための家庭の方針から、本人の辛さはどこにあるのかを代弁していく必要さ。他機関との連携からすぐに動ける体制づくりの大切さを感じます。 ・「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者 」について「過度」が分かりにくい
・連携面の強化	・学校だけでは解決できない問題なので、児童家庭支援センター・都児相が中心になりケース会議等行っていただきたい。 ・教育、福祉、医療が情報を共有することが大切だが、個人情報保護とのバランスが課題 ・ヤングケアラーだと分かった時点で、行政に受け渡しをして行政の方が主導で対応していただきたい。学校が主導で対応となると教員の負担が増える恐れがある。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■公立中学校

・YCについての認知	・こどもたちには自分が置かれている立場が普通か普通でないかは判断が難しいようです。ただ、厳しい環境におかれているこどもたちは、周りと関わろうとしない、いつも眠そうなど、何かしらのサインをだしているので、そうしたところで周りの大人が気付いて声をかけていくことの大切さを実感しています。
・ 支援のあり方・体制	・中学校での支援に限界がある。学校に登校しなくなってしまうと、状況も分からなくなり、支援できなくなってしまう。また、他の支援機関の動きも十分ではないので、結局見守りだけになってしまうケースが多い。 ・東京という場所柄か家庭と地域社会との関係性が希薄で、プライバシーの問題もあり、家庭内の問題について、保護者も生徒も明らかにせず踏み込みにくい側面がある。ヤングケアラーである生徒自身が登校や学習に対する意欲がなく、関係諸機関との連携へ繋がらない。

■公立高等学校

・YCについての認知	・担任をしている教員にヤングケアラーという状況と、「ヤングケアラー」と意識する行動とが一致しないケースがあって驚いた。
・18歳以上への支援	・ヤングケアラーとしての子供たちの苦悩を耳にする機会は多いですが、子供たちが成人した後の面倒を見てくれるところは少ないと思います。正直に言って、軽減する気があるのかどうか疑問を感じます。
・社会資源の不足	・都立の高等学校ではすべての学校にYSWが配置されているわけではない。上記に対して派遣依頼を出してから実際にYSWが派遣されるまでに時間がかかる。全校にYSWを配置してほしい。

■その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）

・連携面の強化	・ヤングケアラーを支援する取組だけでなく、虐待やその他の家庭支援と同じように必要な見守りや他機関との連携等に取り組む必要がある。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■私立中学校

・支援のあり方・体制	・保護者からの相談は想定できるが、こちらから積極的な働きかけには限界がある。
・YCであるかどうかの判断	・ヤングケアラーという言葉がまだ日常に馴染みが薄いので、当事者や身近な大人が気づくこと自体が難しいかもしれないと感じます。長時間、家事や介護に時間を取られていて学業や交友関係・部活などの学校生活に支障が出ている、ということが定義のようですが、共働き家庭やシングルで子育てしている家庭も増えており、家事分担をする子どもたちも増えています。ヤングケアラーとそうではない子の境が難しいように思います。子どもが家庭に子どもらしく安心していられない、ということ事態が課題なのかもしれないと思います。

■私立高等学校

・ YCについての認知	・私立の学校であるため、ヤングケアラーの存在が稀で、支援実績もないため、教職員間での共通認識が持ちにくく、個人の知識と経験に頼りがちな支援になっている。
・支援のあり方・体制	・ヤングケアラーに関して面談等で気付くことができるのは稀で、実際にはもっと数多く存在しているのではないかと心配になる。 ・支援機関の一覧を、子ども目線で作っていただけるとありがたいです。（例えば、「誰かといっしょに晩ご飯を食べたい」「冷食じゃない温かい食事を食べたい」「洗濯物がたまってしまう」「国語の音読を聞いてくれる人がいない」などの困りごとと、それに対する行政ができるサービスなど）
・YCであるかどうかの判断	・ヤングケアラーという言葉がまだ日常に馴染みが薄いので、当事者や身近な大人が気づくこと自体が難しいかもしれないと感じます。長時間、家事や介護に時間を取られていて学業や交友関係・部活などの学校生活に支障が出ている、ということが定義のようですが、共働き家庭やシングルで子育てしている家庭も増えており、家事分担をする子どもたちも増えています。ヤングケアラーとそうではない子の境が難しいように思います。子どもが家庭に子どもらしく安心していられない、ということ自体が課題なのかもしれないと思います。
・18歳以上への支援	・最近は、支援を続けてくださっていると聞きましたが、18歳で一律に支援を打ち切ることなどが無いように、学生のうちはサポートを続けていけるような行政の方針は大切であり、必要だと思います。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■子ども・若者総合相談センター

・ 支援のあり方・体制	・ヤングケアラーという状況は、複数の因子、世帯的な問題、社会的な問題が絡み合っていると感じます。本人はケアしている意識がない方が多く、むしろその役割を率先してこなすことで家族バランスを取ろうとしていると感じます。単発の支援やサービス提供というよりは、人として深く家族間に入って伴走するようにしないと助けてほしいというニーズまで辿り着かない気がしています。

■地域包括支援センター

・ YCについての認知	・ヤングケアラーの特徴として、ヤングケアラーは生まれながらにしてその過程環境の中で当たり前のように役割を担って過ごしているため、他の家庭との違いに気づきづらいこと。相談することで、自分の家庭を否定されてしまう思いがあることから、表出しづらい面がある。信頼できる大人が近くにいて、本人のタイミングを大事にして何気なく話を聞いてくれる環境でないとつながりづらい。それらを各機関も理解することと、そういった環境づくりが必要。ヤングケアラーの言葉が独り歩きしてしまうことは避けなければいけないと思います。 ・ヤングケアラーが自分の置かれている状況を特異と感じSOSが発信できることが大切であり、そういった存在がいることを社会へもっと発信する必要がある。また、家族の課題は家族が解決するものと言う認識をもつ高齢者がまだまだ存在することから、助けを求めていいこと、家族で抱えることではないことを働きかけていく必要がある。若い世代の介護者がいることに甘えるのではなく、自分の将来を考えられる環境が準備できるようにする必要がある。
・支援のあり方・体制	・地域包括支援センターで対象となる方が、高齢者。その家族にヤングケアラーがおり、相談された場合どの様に対応すればいいのかが分からない。
・連携面の強化	・ひきこもり、ダブルケア、ビジネスケアラーなどの問題が多角化しており、各種機関の緊密な連携が必要と感じます。相談先がわからない、相談したくない、恥だと思い顕在化していないケースや相談に至らないケースに対してどのようにアプローチしていくか課題ですが、見守り相談員が自宅訪問しておりますので、相談・発見のきっかけや、相談機関があることについての気づきになればと思います。 ・学校との連携が、個人情報等もあり連携しにくい。
・既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	・ケアラーズカフェなどにもヤングケアラーは孤立しがちで情報も届きにくいため（または届いても一人で参加するにはかなりハードルが高い）支援の手立てとしては別の方法を検討してもよいかもしれない。子ども(ヤングケアラー)支援と介護を必要とする家族(様々な年代)の支援を一体化で行えるシステムが必要と考える。 ・年齢や家庭の事情等により異なるかもしれませんが、制度や支援体制が充実していたとしても、経済的な面で不安になったり積極的になれなかったりするケースも課題として出てくるのではないか、と感じています。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■居宅介護支援事業所

・YCについての認知	・介護支援専門員自身も、ヤングケアラー支援が必要な方の存在理解が薄いと感じます。それは、かなり、変わってはきてはいますが、日本ならではの、親の世話は長男の嫁がすべき、長男は後をとるのが普通だ等、昔ならではの感覚が、まだ根強くあることと同じように、ヤングケアラーの存在も違和感なく、受け流すような感じがあるのではと思います。ヤングケアラー自身も、そういうものだ、仕方がないの理解は普通だと思ってしまう。それを、それは、おかしい、まずい、なんとかすべき等、認知症の理解を深める活動と同様な活動が必要だと思います。介護支援専門員として、ヤングケアラーの存在に気づき、どう支援をしていくべきか、しっかりと学びを深めて、支援に活かしていきたい思います。１介護支援専門員と思わずで、なにかできることを思考し実行していこうと思います。 ・実際の対応事例や研修、社会資源を知れる機会が増えると自分の情報としても、担当ケースが出たときも慌てず対応できると思う。
・支援のあり方・体制	・アセスメントを図るときの利用者の話等の中で、必要な情報を把握することが必要と考えます。 ・ケアマネという職業はご本人を取り巻く状況をアセスメントしますが、自宅の中まで上がり込んで実態を把握できる貴重な職種と思います。ケアマネが持っている情報を適切な機関につなげることはヤングケアラーの早期発見に大変重要と感じます
・連携面の強化	・相談をしたくても時間やツール等の制約があり、タイムリーな相談・連携が課題だと痛感しています。できれば、手軽にかつタイムリーな相談ができることが、今後の課題ではないかと思います。
・既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	・関係者を待たずともスピーディーに支援できる家事代行的な部分は介護保険の改定も念頭に入れて検討してほしい課題です。 ・金銭的に困難でサービスに繋がらない件がある。金銭面の支援が充実すると良い。 ・特例をしっかりとした形で作っていくことが大切ではないか。例えば介護保険では単位数、障害では利用できるサービスの支給量が各区ごとに設定されていると思うが、ヤングケアラーの世帯は困窮が多いことが容易に想像できるため、手厚いサービスを受けることができるような工夫をしたい。また、介護保険にも障害サービスにも当てはまらない比較的軽度な疾病・障害を抱えた世帯においてもヤングケアラーは存在する。その「隙間」に対しても、何らかの支援を作っていく必要があるのではないか。
・社会資源の不足	・学校などの教育機関とどのように連携していくか？以前学校関係者と話をしたところ、ヤングケアラーの相談が色々な機関から毎日来ており、一つ一つ対応できなくなっているとのこと。教育機関にも専門の窓口が必要ではないか。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■基幹相談支援センター

・支援のあり方・体制	・基幹相談支援センターとして、ヤングケアラーの支援にどの程度関わるのかということが関係機関を含めて共有認識されていないことが課題と感じている。 ・日々の支援の中で、ヤングケアラーと思しき状態の子が居た場合の情報の集約場所が現状ないため、そのような場所があると今後課題点等があらわれてくるのではないか。
・連携面の強化	・児童分野との連携や情報共有については、十分にできていない部分が多大にあり、今後の課題と捉えている。家族支援の一部分としてヤングケアラーの話が出る場合もあるが、基幹相談支援センターの性格上、直接関わり支援をするというよりも、支援員の相談を受けたり、様々な関係機関に繋ぎ、連携して支援に取り組めるように地域ネットワークを構築していくことが求められていると理解している。
・既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	・育児支援（障害福祉サービス）の利用年齢が中学生までであり、高年齢の児童にケアの負担がいってしまう状況がある。高年齢の児童や若者への支援がさらに充実するとよいと思う。

■特定相談支援事業所

・YCについての認知	・日本は家族内の支え合いを行なったうえでの支援制度が多い（特に障害福祉）ですが、その価値観が自然と家族だからやるのが当たり前の意識に繋がっていると思います。周囲が気が付くことも大事ですが、学校教育の中でもっと自分自身の生活や気持ちを大事にしてよい、困ったときはこんな支えがあるという内容をお伝えすることも大切なのかなと感じます。 ・家族だから、兄妹だから当たり前と家族間の中で思ってしまうところがあるので、相談員としては家族は大事という気持ちと実際にケアしていく事を背負うのは意味が違う事を知らせていき、必要な支援を入れていく事が出来るように促していく事が必要で、他人に委ねることが悪ではないことを知ってもらう。
・支援のあり方・体制	・障害（世帯内に複数人の支援対象者がいるケースもあり）、高齢とケースは様々。ヤングケアラーへの支援というよりは福祉サービスの調整の中で家族の負担が軽減されるよう取り組んでいる。 ・主に障害児の相談支援を行っているので、きょうだい児が、今後ヤングケアラーになるかもしれない。きょうだい児についても考えていく必要がある。
・連携面の強化	・親に障害があると障害福祉サービスを使うという流れは、はっきり言って無理がある。サービスを入れれば解決するという短絡的な思考を持つ支援者が多いのが課題。支援者同士がお互いの役割をリスペクトをもって理解することが必要。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

・既存の支援・サービスの充実、新たな支援・サービスの導入	・最近は、様々な家族の形があり、従来通りの福祉サービスの提供の仕方があっていないように感じる場面がある。ケアを受ける人に対しだけではなく、家族の形に合わせたサービスの提供を行えることが、ヤングケアラーに対する適切な支援に繋がるのではないかと考える。 ・緊急時の食事支援（特に貧困家庭を想定した無償提供）、ショートステイ支援を法的に整備してほしい ・ヤングケアラーさんが、気軽にスマホのアプリ等でホームヘルパーのサービスを利用できるようにする。
・支援・サービスの利用意思のない家庭への対応	・ヤングケアラーの支援に置いては、まずは介入が大事になると認識している。しかしながら、支援者が介入することを「介入されたくない」、「特別扱いされたくない」と感じるご家庭が多いことは理解しており、そういったご家庭に対しての有効なアプローチの方法を開拓していくことがまずは課題と考える。 ・母親が障がい児の理解（教育や清潔等に関して無関心）に乏しく、福祉サービス等の支援を提供したくても拒否（きょうだいがやれば良いと思っている）があり、逆ギレされたりすることで働きかけを躊躇してしまうことがある。
・地域格差	・ヤングケアラー支援に限った話ではないと思うが、居宅介護支援の事業一つ取っても、支給決定の判断に関して自治体間の格差が大きいように感じる。相談援助職の力量によらず、どこに住民票があるかで天国と地獄が分かれてしまう状況があるため、ヤングケアラー支援推進の中では、この格差についても触れるべき。根本解決が図れていない中で、「現状の中で努力する」は当事者に何の利益ももたらさないと感じます。
・社会資源の不足	・現在、特定相談支援事業を実施していますが、相談員は日々の計画相談の作成、モニタリングで飽和状態です。地域で広域的なネットワークを構築ししっかり人を配置しこの施策を進めて欲しいと思います。既存の事業にマインドだけでプラスする事が無いようにお願いします。

■病院

・ YCについての認知	・がんや感染症の専門病院のため、治療中の患者さんの支援体制を中心に考えすぎて、サポートしている家族がヤングケアラーかどうかは二の次になっている。ヤングケアラーかどうかは、意識してカウントしていない。病院全体で、若者といえば若年者がん患者、ばかりに目がいっている。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■保健所

・支援のあり方・体制	・保健所は、ヤングケアラー本人への直接的な支援ではなく、ケア対象になっている健康課題を抱える家族等の支援を行っていることが多い。対象となっている方の周囲にヤングケアラーがいないかなど、常に意識し支援を行うよう心掛けている。
・連携面の強化	・一元管理できていないことによる、情報共有・支援の難しさがあり、関係部局との連携の取り方に課題があると感じている。 ・保健所はヤングケアラーのみならず、家族全体を支援する立場である。多問題家族も多く、ヤングケアラー自身に課題が大きいことも多い。また、ヤングケアラーのみに注目した支援は行っていない。それぞれの課題に応じ、関係機関と連携しないと支援は展開できないため、家族や地域全体を見る視点が必要と考えている。

■保健センター

・連携面の強化	・当市では、要対協機関がヤングケアラーとして受理するが、介入できず関係機関見守りにとどまっている。実際の支援につなげるためには、複雑な家庭背景を踏まえ関係機関の連携のもと介入し、必ず状況が把握できるような支援を行う必要があると考える。
・ YCについての認知	・精神疾患を持つ親をケアするために子供がヤングケアラーになるケースがあるが、親に「支援を受ける必要がある」と認識してもらうことが難しい。子ども自身が、親や兄弟のケアをすることで、居場所があると感じている場合があり、支援を入れることでその役割奪われたと感じないように調整が必要である。

■福祉事務所

・ YCについての認知の向上	・自治体職員が児童生徒に会うのは時間的にかなり困難なので、この問題については学校の果たす役割がかなり大きいと感じています。学校現場への教育及び周知が非常に大切と思われます。 ・ヤングケアラーの定義でこどもの権利の侵害、社会生活を営む上で困難を有する若者の支援に関しては当事者に意識づけが法制改正後必要であることから、学校や社会教育を通じた啓豪活動が求められる。
・支援のあり方・体制	・現状ではどこの機関が主導権を握って支援するかが明確でないため、各関係機関の動きがまとまるまでに時間がかかり、スムーズな支援が難しくなっている。専門の相談機関が設定されることで、支援の効率が上がるのではないか。
・連携面の強化	・子どもを所管する部署に限らず、ヤングケアラーを取り巻く家族に対する支援も必要となるので、関係機関がどのように連携を図っていくかが課題であると思う。また、生活保護のケースワーカーが個々のケースに深く関わっていくことには限界があり、時間を割くことは難しいと感じている。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■自立相談支援機関

・ YCについての認知	・ヤングケアラー当事者が主体的に相談につながることが難しいと考えられる。また、相談したところで、実際に解決に至る方法があるのか等、一般に十分に周知されているとは言い難く、当事者が「相談してみよう」と発意することすらないのではないか。学校教育の現場で、具体的な周知の充実が必要かと思う。
・支援のあり方・体制	・当センターへヤングケアラー本人から直接相談が入るケースは無く、主に保護者から経済的な相談を受ける中で把握することが多い。子どもを支援する機関と情報共有し連携をしている。早期発見につながるようアセスメントを強化したい。
・連携面の強化	・ヤングケアラーに気付くことはあっても、どこが音頭を取って支援に入っていくのか分かりにくい。また庁内が未だ縦割りであることが多く、包括ケアシステムが十分に機能していないことも課題と思う。
・既存の支援・サービスの充実 新たな支援・サービスの導入	・障害などの対象とならない、ヤングケアラーを対象として生活をサポートする代行・ヘルパーサービスの充実
・支援・サービスの利用意思のない家庭への対応	・ケアを受けている方自身が行政等の支援を必要をしていない場合、ヤングケアラー自身の支援が遅々として進まない。

■民間支援団体

・支援のあり方・体制	・ヤングケアラー予備軍に対する就学前アプローチ支援の必要性。
・連携面の強化	・ヤングケアラーのみに焦点を絞った取り組みはなく、総合的なものなので、そこだけを切り取ると個々の課題が見えなくなる気がいたします。 本人の意思や、日本の場合保護者の同意が必要なことも多いので、見守り体制（関連機関との連携）をはかっていくしかないのかなという思いもあります。
・社会資源の不足	・ケアラーの支援をするために、ある程度の年数をボランティアで活動するが、ライフステージに差し掛かると、多忙になるので支援活動から外れてしまう。そのため民間支援団体は1名から少人数で支えるしかない。民間支援団体が継続的に支援を行うために人材派遣或いは人材登用支援が必要。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■社会福祉協議会

・ YCについての認知	・本人自身がヤングケアラーであることを認識してもらえるための支援方法や取組状況を広く周知してほしい。
・支援のあり方・体制	・相談ケースをヤングケアラーの視点で整理・集計をしていないため、課題が潜在化している。
・連携面の強化	・高齢者に対するヤングケアラーは比較的発見しやすいが、母親や父親のケアや兄弟へのケアなどは社協単体ではなかなか見えてこない現状がある。他機関との情報共有が第一だと感じている。
・18歳以上への支援の課題	・18歳以降の支援を行う体制が非常に弱くなってしまうのが課題。

■民生委員、児童委員、主任児童委員

・ YCについての認知	・ヤングケアラーは回りの人が思っていても当事者(子どもやして貰っている親など)がヤングケアラーをしている、させていると言う意識が無いことがあるので発見が難しく、ヤングケアラーはケアの程度が越えると虐待と言うことを世間に広く知らせたい。 ・当人は家の手伝いだと思っているから、やって当たり前の感覚になっている。学校で配る啓発チラシは、単純にわかりやすいものにして、小学校高学年でも読んでみようと目を引くものにする。 ・ヤングケアラーという言葉、定義、内容等もっと一般に周知していただきたい。現在は学校からの情報が多いので近所の方が気付いてくだされば、より早く支援に繋げられるのでは。
・支援のあり方・体制	・ヤングケアラーは当事者が子供なので、自分が困っていることを誰に伝えたら良いかわからないと思う。その子達に助けてくれる人や話せる場所があるという事を知らせるのも私達民生委員や主任委員だと思うので、これから学校との連携を良くしたいと思う。 ・地区民児協では、児童福祉部会、主任児童委員が学校や各関係機関の方々と三者協等の会議を設け情報交換をし話し合いをしていますが、日々の生活の中で、ヤングケアラーに気付くきっかけ・方法はどうしたら良いか、今後の課題だと思います。
・YCであるかどうかの判断	・周囲からはヤングケアラーにあたるのではないかと思われる子どもがいても、その本人が好んで手伝っているという時にどんな声かけができるのか。ヤングケアラーと自主的な不登校と重なっているようで関わり方が難しいと感じています。 ・今後ヤングケアラーになりそうな可能性も含んだ情報を受けているが、対象の子どもたちから話を聞く機会はほぼないため、いただいた情報と地域情報から判断することの難しさは感じている。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

・連携面の強化	・民生委員児童委員は立場上、地域を見守り、実際の支援活動は支援者・施設に繋ぐ事を仕事にしています。ヤングケアラーに限らず地域の高齢者・生活困難者・障害者・子育て・児童福祉で、所謂弱者の味方になって、福祉ネットワークの中核である行政や地域個々の支援機関に繋ぐ事が自分たちの仕事です。したがって、地域底辺の目線で活動する我々民生委員児童委員を行政や支援組織がどう活用出来るか、連携するネットワークがどのように有効に機能するかが、今までもこれからも重要な課題と考えます。 ・個人情報保護の観点からか、民生委員に学校等からの情報開示がないので、ヤングケアラーに接することがない。 ・民生委員児童委員も学校の活動への協力や、地域の活動に積極的に関わり、情報収集や気になるお子様を見つけていく必要があると思う。
・社会資源の不足	・島では、社会的資源が乏しく、保護者同士や親せきの関係から協力できていることも多々ある。しかし、関係が近いからこそ、相談しにくい環境であることもあり、社会的関係機関につながらない時も感じる。個々で転入してきた住民は社会的資源を頼ることになるが、限られたツールの中では限界を感じることもある。特に夜間、休日など・・・。
・既存の支援・サービスの充実 新たな支援・サービスの導入	・支援につなげても、経済的理由から、拒否される場合があり、無料で受けられるサービスの構築が望まれる。
・支援・サービスの利用意思のない家庭への対応	・親御さんの理解がないと他機関とのつながり、または訪問も難しいです。特に日頃からのつながりを大切に、挨拶やちょっとした相談事などを受け入れられるような環境を作りたいと思います。 ・新宿区は外国人世帯が多く日本語の理解、サービスの手続き等の理解を受け入れてもらう事が困難。保護者から連絡拒否されると支援は止まってしまう。

■フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館

・ YCについての認知	・ヤングケアラーについては把握が難しいと思う。子どもへのかかわりがある関係施設等は子ども・保護者への配慮、またなぜそうなってしまうのか原因を追究し、もっと家庭が楽に過ごせるようかかわり方を示したパンフレットなどがあればいいと思う。また、ヤングケアラーという言葉自体まだ、認知度が低いのでこうゆうケースもあるという事例をもとに周知できればいいと思う。 ・本人にケアラーという自覚がないことや親が本人へ口止めをしているケースもあるため、問題把握の難しさがある。子供に関わる全ての職員がヤングケアラー支援についての知識を正しく理解し、子供の権利侵害の観点で観察し適切に支援につなげられるようにすることが必要であると考える。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

・支援のあり方・体制	・当施設は学童クラブなので、子どもと接する時間が多くあります。また、家庭環境の状況も全てではありませんが認識しているため、ヤングケアラーに該当するかどうかわかりやすい環境だと思っています。課題としては、該当する児童がいたとしても学童クラブになかなか来なければ発見が難しい（遅くなる）場合があるところです。 ・ヤングケアラーは自分の状況を大人に話さないことが多いため、児童館職員がヤングケアラーを見つけ出し、支援を提供するのに難しさがある。 ・困っている家庭ほど、支援の仕組みや相談出来る場所について知らなかったり、相談しずらい状況があると思います。もっと支援を受けやすい体制作りが必要だと思います。 ・そもそも家族内の子どもが、看護・子守り・家事をやらざるを得ない・等の事情が生まれるのは、地域の福祉・医療体制や制度に不備があるという事になるのではないでしょうか？抜本的に解決するには、看護される側に若い家族がいる場合、その家族がヤングケアラーになることがないか等の入口側での注視（診療・相談・生活環境の見守りなどで）が必要なのかなと思います。
・YCであるかどうかの判断	・幼い児童（兄弟・姉弟）同士でお互いの風呂の世話、食事の用意などを行っているなどの事例は実際に聞くことがある。どこまでをヤングケアラーと考えるか、見極めながら、関係機関に話を繋げていきたい。 ・地域柄外国人国籍の多いため、子どもが通訳をしている場面に出くわす。子どもが集団で言葉を習得していく様をみると生活の一部ような感もあるが、どう捉えたら…線引きはどこなの…と職員間でも意見が分かれる。
・連携面の強化	・子供食堂のような民間のボランティアで行っている事業について、個人情報公開、共有が可能なのでしょうか。 ・地域の場での出会いのため、必要に応じて連携できる(継続して関わってくれる)機関、総合的に見守れる場所が必要
・18歳以上への支援	・児童館は18歳までの施設。就労や福祉的な支援といった目的別の機関・施設はあるが、18歳以上の若者が児童館のように自由に利用できる施設が必要だと感じる。
・既存の支援・サービスの充実 新たな支援・サービスの導入	・外国にルーツのある子どもへの支援の充実は喫緊の課題。教科書を読むことさえ覚束ないのに特別な手立ても講じられないまま放置されている。大人の都合で日本に住むことになってしまったのに、その苦労を子ども本人が自力で担うことになっている。経済的にも決して裕福とはいえず、塾にも通えないまま学力不振となっていることは、子どもの学ぶ権利を保障する上で大きな問題であると考えます。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■放課後等デイサービス

・ YCについての認知の向上	・本人たちがヤングケアラーとしての自覚も無く、家族のためにという良心で動かれているからこその難しさを感じます。また、ヤングケアラーの方含めご家族は、余裕のない生活を送っている方も多く、情報収集の難しさもあるように感じます（支援があっても知らない、情報にたどり着けない）。
・支援のあり方・体制	・関係機関のネットワークも必要だが自分たちの事業所でヤングケアラ―に対し何ができるかが課題。事業所としては基本的に保護者と利用児童にしか直接会えないので把握しきれない。放課後等デイサービスとしては目の前の利用児童のことで手が回らない。支援をやったことで人件費に見合った報酬に結びつかない。福祉の事業所としてはヤングケアラ―が支援しなければならない対象者を少しでも長く預かる事で自由に使える時間を増やす事しか現状手段が見いだせない。 ・その家族との信頼関係、暮らしに関与する方法、継続的な関わり（安定的な組織・身分による）、【関連する様々な組織と連絡を取り合う、調整をするなど«専門的に動ける組織（人）»】が必要な気がします。夜中、緊急で動く必要もあるかもしれないわけで、最初に気づいた人、民生委員さん、スクールソーシャルワーカー、放課後等デイサービスのスタッフなどが、片手間でどうにかできる内容ではないことが多いように思われます。 ・ヤングケアラーのニーズは多岐にわたっており、とても難しい課題だと思います。当事業所でのケースは、どちらもシングルマザーのご家庭でした。お母様も生活する事で精一杯で、大変ご苦労をされていました。放課後等デイを使う事で、少しずつ生活が変わり、誰かと共に育児する事を受け入れられるようになった。ホッとした。とお話されていました。家庭だけで抱え込まず、地域で共に子育てができる社会になるよう、放課後等デイとして出来る事を今後も続けて努力していきたいと思います。
・連携面の強化	・市区町村単位で核になる支援チームの設立、設置が欠かせない。チームに保健師、看護師、教員や保育士、ソーシャルワーカー、心理職と医療、教育、福祉の各専門職がいると望ましい。各職種がいることでそれぞれの専門性が活かされ、横断的、全体を俯瞰しながら対応できると見立てをしている。また、当然であるが、ヤングケアラーの課題を解決するには子ども側の対応を厚くするだけではなく、家族全体を支えることが重要である。様々要因が含まれ、重なり、ヤングケアラーになっている。チーム作りだけでなく市区町村における重層的支援体制の整備も欠かせない。民間の立場から公的機関と連携が困難になる大きな壁であるのが個人情報という名において家族構成や世帯状況の共有であり、部署によって考え方も大きく異なる。連携するには国レベルで各々の機関が連携、協力することの通知（指導）が都道府県を含めた地方自治体、各関係機関にあると動きやすい。
・既存の支援・サービスの充実 新たな支援・サービスの導入	・介護保険の枠の幅をひろげる。ヤングケアラーの家庭のみ。介護保険の縛りと個人情報が邪魔をしている。

55 ヤングケアラーを支援する取組について、課題や充実策等のご意見がありましたら、自由に記載してください。（任意）
※自由記述（原文のまま記載）

■公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所

・ YCについての認知の向上

・テレビで取り上げられるようになりましたが国がどこまで支援を行うのかなど一般に広まっていないように思います。どうしたら当該する若い方たちが助けを求められるようになるのか、それにかかわる機関に補助金を出すなど、もう少しわかりやすい情報公開があるとよいと思います。

・在園児を通じてご家庭の様子をうかがい知ることは可能です。しかしながらヤングケアラーの存在有無を心配し、専門機関に相談するような状況に至ることができる否かは職員の意識の問題でもありさらに学習が必要だと思います。

・支援のあり方・体制

・当方は保育園ですので、送り迎え等で保護者とやり取りがあります。その中で家庭の様子等を伺いヤングケアラーの発見や支援に繋げられればと思っております。ただ、家庭内のことなので、なかなか表面化できないことも多いかと思います。そこに課題を感じます。

・ヤングケアラーに気づけるよう、保育所だと限られてしまうが、卒園児が集まる機会を設けたり職場体験などで受け入れる機会を増やしていくと良いと感じた。

・ヤングケアラーを早期に見つけ、必要な機関につなぎ、できるだけ早く負担を軽減するために、地域のネットワークが大切であると考えている。また、幼稚園内で気になる様子が見られるときは、報告・連絡・相談を速やかに進められる教職員関係が大事であると考えている。

・保育園ではヤングケアラーへの気付きより、児童虐待の方に意識が向かいやすいのが現状だと感じました。入園の際に家庭環境の把握をしながら自治体と連携を持つ形はヤングケアラーも同様だと感じたので、今後ヤングケアラーについても意識しながら保育園で出来ることの可能性を広げていきたいと思います。

・YCであるかどうかの判断

・本人たちがそこまで危機感がない分、発見が難しいものだと思われます。そして、聞き取りのみでは本当にその状況に陥っているのかの判断も難しいのが現状です。例えばただの不登校なのか、ヤングケアラーのために登校する余裕がないのか等。

・一目でヤングケアラーとわかるケースも少ないと思う。しかし、乳幼児の兄弟関係の場合は、下の子の世話が好きで行っている場合、子どもの特性上少し難しい手伝いをしたがる事も多い。性格や年齢、成長の度合いに見合わない責任や負担をどこで線引きをするかが課題です。

・連携面の強化

・保育園の後、小学校、中学校へと上がった際に十分な引継ぎができないことも課題だと考える。継続的な支援をできるような体制づくりが必要だと思う。

・児童相談所や子供家庭支援センターとの連携は必須である。情報のやり取りは個人情報保護法の観点から難しさを感じる。

・一つの施設だけではなく、様々な機関がかかわらないと難しいが、個人情報やプライバシーの保護との兼ね合いが妨げにもなるとも思います。虐待のように通報義務としても、かもしれないで行動することは保護者との信頼関係の中で施設としても悩ましいことが多いのではないかと考えます。

・保育施設では他の施設と連携をとる場合もそのご家庭は利用者として在園しているので今後の関係性を踏まえて慎重にならざる負えない。

クロス分析①

- 家族との接点・機関ごとのヤングケアラーに気づくきっかけ -

各機関の家庭との接点及びヤングケアラーに気付くきっかけ

アンケート及びヒアリング調査の結果等を踏まえ、各機関の家庭との接点及びヤングケアラーに気付くきっかけの特徴をまとめた。
※下表は、本調査結果に基づく整理の一例であり、各機関における家庭への関与度合いはケース・バイ・ケースである。

○：主な支援相手
△：接点を持つ可能性のある支援相手

分野	機関種別	家庭との接点			当該施設自らヤングケアラーに気付く主なきっかけ
		YC本人	ケア対象者	YC以外の家族	
児童福祉	子供家庭支援センター	○	△	○	本人・家族からの相談、近隣住民からの相談
	児童相談所	○	△	○	本人・家族からの相談、通告
教育機関	教育委員会	○	-	○	役所での手続同行時
	公立学校・私立学校（小・中・高・その他）	○	-	△	本人・保護者からの相談、SSW・YSWによる家庭訪問
若者支援	子ども・若者総合相談センター	○	-	○	本人・家族からの相談
高齢者福祉	地域包括支援センター	○	○	○	家庭訪問時、本人・家族からの相談
	居宅介護支援事業所	△	○	△	家庭訪問時（ケアマネージャーによる）
障害福祉	基幹相談支援センター	△	○	△	養護者虐待通報による
	特定相談支援事業所	△	○	△	本人・家族からの相談、家庭訪問時、利用者送迎時
医療	病院	△	○	△	本人・家族からの相談（MSWによる）
	訪問看護ステーション	△	○	△	家庭訪問時、本人・家族からの相談
保健	保健所	○	○	○	家庭訪問時、本人・家族からの相談、関係機関からの相談等
	保健センター	○	○	○	家庭訪問時、本人・家族からの相談
生活福祉	福祉事務所	△	○	○	本人・家族からの相談（CW等による）
	自立相談支援機関	△	○	○	ケア対象者（自立支援が必要な方）・家族からの相談
地域	民間支援団体	○	-	-	本人への支援等を行っている際
	民生委員・児童委員・主任児童委員	○	-	○	役所での手続同行時、本人との会話の際
	社会福祉協議会	○	-	○	貸付（教育支援資金）の申請時、学費の相談、他事業
	子供食堂	○	-	○	施設利用申請時、施設利用時の子供との会話
	児童館	○	-	-	施設利用時の子供との会話
	放課後等デイサービス	○	-	○	施設利用申請時、施設利用時の子供との会話
	公立幼稚園・私立幼稚園、 認定こども園・認可保育所・認証保育所	○	-	○	保護者との面談中

クロス分析②

- 各機関がヤングケアラーに気付く＆連携を受ける傾向 -

各機関がヤングケアラーに気付く＆他機関から連携を受ける傾向

各機関がヤングケアラーに気付いた人数及び他機関からの連携を受けた人数の回答を基に、機関ごとの傾向を算出した。

（※　上記人数を回答施設数で割り返して算出）

（単位：人）

分野	児童福祉		教育機関								若者支援	高齢者福祉		障害福祉		医療		保健		生活福祉		地域					
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	教育委員会	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	子ども・若者総合相談センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	基幹相談支援センター	特定相談支援事業所	病院	訪問看護ステーション	保健所	保健センター	福祉事務所	自立相談支援機関	民間支援団体	社会福祉協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員	フードバンク、子供食堂、フリースクール、学習支援を実施している地域の居場所、学童クラブ、児童館	放課後等デイサービス	公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所
1施設当たりのYCに気付く人数	20.02	67.00	4.38	0.31	0.51	2.00	0.10	0.00	0.28	0.46	2.88	0.93	0.52	0.77	1.31	0.80	0.00	6.13	10.63	2.95	2.27	**74.00**	1.33	0.41	0.90	0.14	0.10
1施設当たりの連携を受ける人数	**12.57**	8.00	0.47	0.07	0.17	0.00	0.20	0.40	0.28	0.11	1.50	0.20	0.17	0.38	0.60	0.40	0.00	1.00	3.84	0.58	0.17	5.25	1.06	0.33	0.19	0.00	0.04

TOPICS

- ヤングケアラーに気付く人数及び連携を受ける人数ともに、児童福祉分野の「子供家庭支援センター」及び「児童相談所」、「保健センター」、「民間支援団体」が他に比べて多い傾向がある。
- 特に「子供家庭支援センター」は気付く人数・連携を受ける人数ともに多く、ヤングケアラー支援において連携の中核的な施設となっていることが分かる。

クロス分析③

- ヤングケアラーのいる家庭における家族構成の特徴 -

【設問22】気付いたヤングケアラーの家族の構成員（本人からみた間柄）を基にした親の存在／不存在を軸とした家族構成分析

回答件数

家族構成			家庭数
両親とも存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	23
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	3
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**146**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	53
		小計	225
母親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	23
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	25
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**216**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	119
		小計	383
父親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	6
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	9
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**29**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	17
		小計	61
両親とも不存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	3
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	**18**
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	15
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	8
		小計	44
		合計	**713**

回答割合

n=297

家族構成			家庭数
両親とも存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	3.2%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0.4%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	20.5%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	7.4%
		小計	**31.6%**
母親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	3.2%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	3.5%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**30.3%**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	16.7%
		小計	**53.7%**
父親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0.8%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	1.3%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	4.1%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	2.4%
		小計	**8.6%**
両親とも不存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0.4%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	2.5%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	2.1%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	1.1%
		小計	**6.2%**
		合計	**100%**

※全体のうち、母親がいる件数　608件／713件（割合：85.3%）　｜　父親がいる件数　286件／713件　（割合：40.1%）
きょうだいがいる件数　461件／713件（割合：64.7%）　｜　祖父母がいる件数　110件／713件　（割合：15.4%）

気付いたヤングケアラーの家族の構成員（本人からみた間柄）（設問22）× ヤングケアラーがケアをしていた方（患者及びその他の家族）（設問23）

n=297

回答件数

家族構成			ケアを受けている人							
			母親	父親	祖母	祖父	年上のきょうだい	年下のきょうだい	その他	合計
両親とも存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	**10**	2	6	5	0	9	3	35
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	1	0	**3**	1	0	0	0	5
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**64**	28	0	2	14	63	2	**173**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	**43**	19	0	0	0	0	0	62
	小計		**118**	49	9	8	14	72	5	275
母親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	**12**	0	11	4	2	4	0	33
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	11	0	**20**	4	0	0	4	39
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	**141**	3	2	0	10	117	2	**275**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	**106**	4	0	0	3	6	3	122
	小計		**270**	7	33	8	15	127	9	469
父親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0	3	**4**	0	1	1	0	9
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0	**5**	**5**	2	0	0	0	12
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	1	12	0	0	7	**14**	0	**34**
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	1	**14**	1	0	0	0	1	17
	小計		2	**34**	10	2	8	15	1	72
両親とも不存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0	2	**3**	0	0	1	0	6
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0	2	**11**	3	0	0	4	**20**
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	1	2	0	0	2	**10**	0	15
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	2	0	1	0	0	0	**5**	8
	小計		3	6	**15**	3	2	11	9	49
合計			**393**	**96**	**67**	**21**	**39**	**225**	**24**	**865**

※ 回答のまま集計しているため、不存在の家族をケアしているケースも含まれている。

回答割合

家族構成			ケアを受けている人							
			母親	父親	祖母	祖父	年上のきょうだい	年下のきょうだい	その他	合計
両親とも存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	4%	1%	2%	2%	0%	3%	1%	13%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	2%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	23%	10%	0%	1%	5%	23%	1%	63%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	16%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	23%
	小計		43%	18%	3%	3%	5%	26%	2%	100%
母親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	3%	0%	2%	1%	0%	1%	0%	7%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	2%	0%	4%	1%	0%	0%	1%	8%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	30%	1%	0%	0%	2%	25%	0%	59%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	23%	1%	0%	0%	1%	1%	1%	26%
	小計		58%	1%	7%	2%	3%	27%	2%	100%
父親のみ存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0%	4%	6%	0%	1%	1%	0%	13%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0%	7%	7%	3%	0%	0%	0%	17%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	1%	17%	0%	0%	10%	19%	0%	47%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	1%	19%	1%	0%	0%	0%	1%	24%
	小計		3%	47%	14%	3%	11%	21%	1%	100%
両親とも不存在	祖父母が存在	きょうだいが存在	0%	4%	6%	0%	0%	2%	0%	12%
	祖父母が存在	きょうだいが不存在	0%	4%	22%	6%	0%	0%	8%	41%
	祖父母が不存在	きょうだいが存在	2%	4%	0%	0%	4%	20%	0%	31%
	祖父母が不存在	きょうだいが不存在	4%	0%	2%	0%	0%	0%	10%	16%
	小計		6%	12%	31%	6%	4%	22%	18%	100%
合計			**45%**	**11%**	**8%**	**2%**	**5%**	**26%**	**3%**	**100%**

TOPICS

- 今回の調査で各施設が把握しているヤングケアラーのいる家庭については、「両親ともに存在」している家庭が約３割、「ひとり親」家庭が約６割、「両親とも不存在」である家庭が約１割であることが分かった。
- 家族の中でケアを必要としている人は、「母親」が最も多く、続いて「年下のきょうだい」が多い結果となった。
- 母親がいる家庭において母親をケアしているケースは、393件／608件（割合：64.6%）、父親がいる家庭において父親をケアしているケースは、96件／286件（割合：33.6%）、きょうだいがいる家庭においてきょうだいをケアしているケースは、264件／461件（割合：57.2%）、祖父母がいる家庭において祖父母をケアしているケースは 88件／110件 （割合：80.0%）の割合となっている。
  そのため、とりわけ高齢者福祉等の施設では、祖父母への支援を契機として家庭状況を把握する中で、ヤングケアラーに気付くことのできる可能性が高いと考えられる。

クロス分析④

- ケアを受けている方の状況ごとの特徴 -

家族の中でケアを受けている方の状況（設問24）×
ヤングケアラーが行っている患者等のケアや家事など本人の負担となっていること、また、そのことによる影響（設問34）

n=160

回答件数

ケアを受けている方の状況	ヤングケアラーの負担													そのことによる影響				合計
	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入院や入所しているときの面会	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や送迎など	家計を助ける（働く）	学校に通えていない	就職できていない	自分のために使える時間を十分に持てていない	その他	
①高齢（65歳以上）	48	0	22	18	8	37	51	1	12	16	51	8	14	10	15	49	21	381
②幼少（就学前の児童、小学生）	9	1	14	5	1	18	30	7	3	1	39	62	4	12	1	28	20	255
③要介護（介護が必要な状態）	47	3	28	20	15	32	48	2	23	17	59	9	19	17	9	50	20	418
④要支援（支援が必要な状態）	6	0	4	2	1	8	7	0	5	3	11	2	3	3	2	8	1	66
⑤認知症	27	0	19	12	9	23	29	0	13	15	32	4	8	6	8	25	14	244
⑥身体障害	31	4	19	15	3	17	34	5	7	3	40	23	9	19	8	31	15	283
⑦知的障害	15	1	13	10	7	15	26	3	7	3	20	26	4	8	6	20	12	196
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	24	2	31	22	7	90	66	7	22	8	94	45	21	38	11	75	29	592
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	24	4	11	12	8	14	23	1	10	5	29	13	8	7	1	29	11	210
⑩依存症（疑い含む）（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）	6	1	3	4	2	12	9	1	4	6	16	3	5	6	3	7	8	96
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	13	0	8	6	2	10	13	1	3	0	20	8	6	11	3	14	4	122
⑫日本語を母国語としない	2	1	10	3	0	13	11	19	4	1	14	16	3	3	1	19	5	125
⑬その他	4	1	1	2	0	4	4	0	2	0	9	6	4	2	1	6	3	49
合計	256	18	183	131	63	293	351	47	115	78	434	225	108	142	69	361	163	3037

回答割合

ケアを受けている方の状況	ヤングケアラーの負担													そのことによる影響				合計
	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入院や入所しているときの面会	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や送迎など	家計を助ける（働く）	学校に通えていない	就職できていない	自分のために使える時間を十分に持てていない	その他	
①高齢（65歳以上）	12.6%	0.0%	5.8%	4.7%	2.1%	9.7%	13.4%	0.3%	3.1%	4.2%	13.4%	2.1%	3.7%	2.6%	3.9%	12.9%	5.5%	100.0%
②幼少（就学前の児童、小学生）	3.5%	0.4%	5.5%	2.0%	0.4%	7.1%	11.8%	2.7%	1.2%	0.4%	15.3%	24.3%	1.6%	4.7%	0.4%	11.0%	7.8%	100.0%
③要介護（介護が必要な状態）	11.2%	0.7%	6.7%	4.8%	3.6%	7.7%	11.5%	0.5%	5.5%	4.1%	14.1%	2.2%	4.5%	4.1%	2.2%	12.0%	4.8%	100.0%
④要支援（支援が必要な状態）	9.1%	0.0%	6.1%	3.0%	1.5%	12.1%	10.6%	0.0%	7.6%	4.5%	16.7%	3.0%	4.5%	4.5%	3.0%	12.1%	1.5%	100.0%
⑤認知症	11.1%	0.0%	7.8%	4.9%	3.7%	9.4%	11.9%	0.0%	5.3%	6.1%	13.1%	1.6%	3.3%	2.5%	3.3%	10.2%	5.7%	100.0%
⑥身体障害	11.0%	1.4%	6.7%	5.3%	1.1%	6.0%	12.0%	1.8%	2.5%	1.1%	14.1%	8.1%	3.2%	6.7%	2.8%	11.0%	5.3%	100.0%
⑦知的障害	7.7%	0.5%	6.6%	5.1%	3.6%	7.7%	13.3%	1.5%	3.6%	1.5%	10.2%	13.3%	2.0%	4.1%	3.1%	10.2%	6.1%	100.0%
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	4.1%	0.3%	5.2%	3.7%	1.2%	15.2%	11.1%	1.2%	3.7%	1.4%	15.9%	7.6%	3.5%	6.4%	1.9%	12.7%	4.9%	100.0%
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	11.4%	1.9%	5.2%	5.7%	3.8%	6.7%	11.0%	0.5%	4.8%	2.4%	13.8%	6.2%	3.8%	3.3%	0.5%	13.8%	5.2%	100.0%
⑩依存症（疑い含む）（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）	6.3%	1.0%	3.1%	4.2%	2.1%	12.5%	9.4%	1.0%	4.2%	6.3%	16.7%	3.1%	5.2%	6.3%	3.1%	7.3%	8.3%	100.0%
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	10.7%	0.0%	6.6%	4.9%	1.6%	8.2%	10.7%	0.8%	2.5%	0.0%	16.4%	6.6%	4.9%	9.0%	2.5%	11.5%	3.3%	100.0%
⑫日本語を母国語としない	1.6%	0.8%	8.0%	2.4%	0.0%	10.4%	8.8%	15.2%	3.2%	0.8%	11.2%	12.8%	2.4%	2.4%	0.8%	15.2%	4.0%	100.0%
⑬その他	8.2%	2.0%	2.0%	4.1%	0.0%	8.2%	8.2%	0.0%	4.1%	0.0%	18.4%	12.2%	8.2%	4.1%	2.0%	12.2%	6.1%	100.0%
合計	8.4%	0.6%	6.0%	4.3%	2.1%	9.6%	11.6%	1.5%	3.8%	2.6%	14.3%	7.4%	3.6%	4.7%	2.3%	11.9%	5.4%	100.0%

※回答割合：各選択肢別上位を背景色■（オレンジ+太字）

TOPICS

- ケアを受けている方の状況にかかわらず、「見守り」や「家事」を負担している割合が高く、ケアによる影響としては「自分のために使える時間を十分に持てていない」と回答した割合が高い。
- ケアを受けている方の状況が「幼少」である場合は、他の場合に比べ、ヤングケアラーが「きょうだいの世話や送迎など」を担っている割合が高く、幼少のきょうだいがいる場合、ヤングケアラーが家庭内で一定の負担を担うことが多いと考えられる。
- ケアを受けている方の状況が「日本語を母国語としない」である場合は、ケアによる影響として「自分のために使える時間を十分に持てていない」と回答した割合が他と比較して高い。
日本語を母国語としない方をケアしている家庭においては、通訳支援を提供する・充実させることにより、ヤングケアラーの負担軽減に寄与する余地が大きいと考えられる。

家族の中でケアを受けている方の状況（設問24）×ヤングケアラー以外の家族（ケアを受けている方（患者）を除く）が行っているケアの負担や、ケアを負担したことによる影響について（設問35）

回答件数

ケアを受けている方の状況	ヤングケアラーの負担													そのことによる影響				合計
	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入院や入所しているときの面会	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や送迎など	家計を助ける（働く）	学校に通えていない	就職できていない	自分のために使える時間を十分に持てていない	その他	
①高齢（65歳以上）	36	0	21	23	9	27	33	0	24	15	**39**	4	16	1	3	20	11	**282**
②幼少（就学前の児童、小学生）	10	1	11	7	1	16	**26**	3	10	6	24	22	14	2	1	9	9	**172**
③要介護（介護が必要な状態）	41	8	29	29	14	29	**44**	0	30	23	**44**	4	24	5	2	19	13	**358**
④要支援（支援が必要な状態）	7	0	1	1	1	6	7	0	0	1	**8**	2	1	1	2	1	4	**43**
⑤認知症	21	0	12	12	8	18	21	0	16	12	**24**	2	8	1	0	9	6	**170**
⑥身体障害	28	7	28	22	7	20	**34**	3	20	14	**34**	11	13	3	4	20	12	**280**
⑦知的障害	14	1	11	6	7	13	**20**	4	8	5	15	13	5	4	3	8	8	**145**
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	19	4	16	17	8	42	**47**	3	16	13	41	14	17	10	3	21	27	**318**
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	9	0	3	3	3	5	**14**	0	5	2	**14**	4	5	4	1	8	**14**	**94**
⑩依存症（疑い含む）（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）	7	1	5	3	3	9	7	0	4	3	**12**	2	7	0	1	4	3	**71**
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	7	1	6	6	1	10	**12**	0	5	4	11	6	4	5	3	8	1	**90**
⑫日本語を母国語としない	3	0	3	3	0	5	**9**	6	3	2	8	5	6	2	0	5	1	**61**
⑬その他	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	**5**	1	2	1	0	1	3	**19**
合計	**203**	**23**	**146**	**132**	**63**	**200**	**278**	**19**	**141**	**100**	**279**	**90**	**122**	**39**	**23**	**133**	**112**	**2103**

回答割合

n=158

ケアを受けている方の状況	ヤングケアラーの負担													そのことによる影響				合計
	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	医療的ケア（端の吸引、経管栄養の管理など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入院や入所しているときの面会	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や送迎など	家計を助ける（働く）	学校に通えていない	就職できていない	自分のために使える時間を十分に持てていない	その他	
①高齢（65歳以上）	12.8%	0.0%	7.4%	8.2%	3.2%	9.6%	11.7%	0.0%	8.5%	5.3%	**13.8%**	1.4%	5.7%	0.4%	1.1%	7.1%	3.9%	**100.0%**
②幼少（就学前の児童、小学生）	5.8%	0.6%	6.4%	4.1%	0.6%	9.3%	**15.1%**	1.7%	5.8%	3.5%	14.0%	12.8%	8.1%	1.2%	0.6%	5.2%	5.2%	**100.0%**
③要介護（介護が必要な状態）	11.5%	2.2%	8.1%	8.1%	3.9%	8.1%	**12.3%**	0.0%	8.4%	6.4%	**12.3%**	1.1%	6.7%	1.4%	0.6%	5.3%	3.6%	**100.0%**
④要支援（支援が必要な状態）	16.3%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%	14.0%	16.3%	0.0%	0.0%	2.3%	**18.6%**	4.7%	2.3%	2.3%	4.7%	2.3%	9.3%	**100.0%**
⑤認知症	12.4%	0.0%	7.1%	7.1%	4.7%	10.6%	12.4%	0.0%	9.4%	7.1%	**14.1%**	1.2%	4.7%	0.6%	0.0%	5.3%	3.5%	**100.0%**
⑥身体障害	10.0%	2.5%	10.0%	7.9%	2.5%	7.1%	**12.1%**	1.1%	7.1%	5.0%	**12.1%**	3.9%	4.6%	1.1%	1.4%	7.1%	4.3%	**100.0%**
⑦知的障害	9.7%	0.7%	7.6%	4.1%	4.8%	9.0%	**13.8%**	2.8%	5.5%	3.4%	10.3%	9.0%	3.4%	2.8%	2.1%	5.5%	5.5%	**100.0%**
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	6.0%	1.3%	5.0%	5.3%	2.5%	13.2%	**14.8%**	0.9%	5.0%	4.1%	12.9%	4.4%	5.3%	3.1%	0.9%	6.6%	8.5%	**100.0%**
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	9.6%	0.0%	3.2%	3.2%	3.2%	5.3%	**14.9%**	0.0%	5.3%	2.1%	**14.9%**	4.3%	5.3%	4.3%	1.1%	8.5%	**14.9%**	**100.0%**
⑩依存症（疑い含む）（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）	9.9%	1.4%	7.0%	4.2%	4.2%	12.7%	9.9%	0.0%	5.6%	4.2%	**16.9%**	2.8%	9.9%	0.0%	1.4%	5.6%	4.2%	**100.0%**
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	7.8%	1.1%	6.7%	6.7%	1.1%	11.1%	**13.3%**	0.0%	5.6%	4.4%	12.2%	6.7%	4.4%	5.6%	3.3%	8.9%	1.1%	**100.0%**
⑫日本語を母国語としない	4.9%	0.0%	4.9%	4.9%	0.0%	8.2%	**14.8%**	9.8%	4.9%	3.3%	13.1%	8.2%	9.8%	3.3%	0.0%	8.2%	1.6%	**100.0%**
⑬その他	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	**26.3%**	5.3%	10.5%	5.3%	0.0%	5.3%	15.8%	**100.0%**
合計	**9.7%**	**1.1%**	**6.9%**	**6.3%**	**3.0%**	**9.5%**	**13.2%**	**0.9%**	**6.7%**	**4.8%**	**13.3%**	**4.3%**	**5.8%**	**1.9%**	**1.1%**	**6.3%**	**5.3%**	**100.0%**

※回答割合：各選択肢別上位を背景色■（オレンジ+太字）

TOPICS

- ヤングケアラー以外の家族においても、前頁のヤングケアラーの負担と同様に、ケアを受けている方の状況によらず「見守り」や「家事」と回答した割合が高い傾向にある。
- 「要支援」、「精神疾患」、「依存症」の方をケアしている場合には、「感情面のサポート」を担ってる割合が高い傾向がみられる。
- 前頁のヤングケアラーの負担と比較すると、「医療的ケア」、「退院の付き添い」、「金銭管理」など一般的に大人が担うことが多い項目について負担と感じている割合が高い。

家族の中でケアを受けている方の状況（設問24）　×
ケアを受けている方が支援・サービスを利用していない、又は利用できていない理由（設問27）

回答件数

	提案したが利用を拒まれた	施設として支援・サービスは不要と考えている	該当サービスがない	家庭内のルール（子どもを介護力としている）	経済的問題	手続き能力の不足	疾病・疾患のため	その他	合計
①高齢（65歳以上）	**2**	1	1	0	0	0	1	0	**5**
②幼少（就学前の児童、小学生）	**20**	6	5	1	2	0	1	2	**37**
③要介護（介護が必要な状態）	**1**	**1**	**1**	0	0	0	0	0	**3**
④要支援（支援が必要な状態）	**6**	0	1	4	0	0	1	0	**12**
⑤認知症	1	**2**	1	0	0	0	0	0	**4**
⑥身体障害	**3**	2	2	0	0	0	1	1	**9**
⑦知的障害	**5**	0	1	1	1	0	1	1	**10**
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	**27**	7	3	4	3	2	3	1	**50**
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	**5**	1	1	0	0	0	2	1	**10**
⑩依存症（疑い含む） (アルコール依存症、ギャンブル依存症など)	**3**	0	1	0	0	0	0	0	**4**
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	**2**	0	**2**	0	0	0	0	0	**4**
⑫日本語を母国語としない	**5**	3	2	0	0	2	0	0	**12**
⑬その他	**2**	1	1	0	0	1	0	0	**5**
合計	**82**	**24**	**22**	**10**	**6**	**5**	**10**	**6**	**165**

回答割合

n=49

	提案したが利用を拒まれた	施設として支援・サービスは不要と考えている	該当サービスがない	家庭内のルール（子どもを介護力としている）	経済的問題	手続き能力の不足	疾病・疾患のため	その他	合計
①高齢（65歳以上）	**40.0%**	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	**100.0%**
②幼少（就学前の児童、小学生）	**54.1%**	16.2%	13.5%	2.7%	5.4%	0.0%	2.7%	5.4%	**100.0%**
③要介護（介護が必要な状態）	**33.3%**	**33.3%**	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
④要支援（支援が必要な状態）	**50.0%**	0.0%	8.3%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	**100.0%**
⑤認知症	25.0%	**50.0%**	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑥身体障害	**33.3%**	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	**100.0%**
⑦知的障害	**50.0%**	0.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	10.0%	**100.0%**
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	**54.0%**	14.0%	6.0%	8.0%	6.0%	4.0%	6.0%	2.0%	**100.0%**
⑨精神疾患以外の慢性疾患(がんや難病など)	**50.0%**	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	**100.0%**
⑩依存症（疑い含む） (アルコール依存症、ギャンブル依存症など)	**75.0%**	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	**50.0%**	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑫日本語を母国語としない	**41.7%**	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑬その他	**40.0%**	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
合計	**49.7%**	**14.5%**	**13.3%**	**6.1%**	**3.6%**	**3.0%**	**6.1%**	**3.6%**	**100.0%**

※回答件数割合：各選択肢別上位を背景色■（オレンジ+太字）

TOPICS

- ケアを受けている方の状況が「認知症」の場合は、「施設として支援・サービスは不要と考えている」と回答した割合が最も高くなっているものの、全体としては、ケアを受けている方の状況に寄らず、約半数が「提案したが利用を拒まれた」と回答している。
  ヒアリングにおいても、支援対象となる家庭や家族との関係性を築くことに苦慮している状況が見受けられることから、負担軽減につながる支援・サービスはあるものの、その導入に当たり当事者やその家族の理解を得る段階で課題を抱えているケースが一定数存在することが分かる。

家族の中でケアを受けている方の状況（設問24）　×
ケアをしている家族の負担軽減につながるサービスや、その他当該家族の支援に有効と思われるサービス、既存のサービスはあるものの利用できるケースが限定されるなど活用が難しいこと等（設問36）

回答件数

	家庭の受援への意識	サービスの新設・拡充	既存サービスの利用	他機関との連携	その他	合計
①高齢（65歳以上）	5	**20**	5	5	0	35
②幼少（就学前の児童、小学生）	6	**10**	5	0	0	21
③要介護（介護が必要な状態）	6	**16**	4	2	1	29
④要支援（支援が必要な状態）	0	**4**	2	0	0	6
⑤認知症	1	**14**	4	4	0	23
⑥身体障害	4	**10**	4	4	0	22
⑦知的障害	3	**9**	0	1	0	13
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	9	**18**	9	0	0	**36**
⑨精神疾患以外の慢性疾患（がんや難病など）	3	**8**	3	1	0	15
⑩依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	1	**3**	2	1	0	7
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	**3**	0	2	1	1	7
⑫日本語を母国語としない	0	**5**	1	0	0	6
⑬その他	1	**2**	**2**	0	1	6
合計	**42**	**119**	**43**	**19**	**3**	**226**

回答割合

n=50

	家庭の受援への意識	サービスの新設・拡充	既存サービスの利用	他機関との連携	その他	合計
①高齢（65歳以上）	14.3%	**57.1%**	14.3%	14.3%	0.0%	**100.0%**
②幼少（就学前の児童、小学生）	28.6%	**47.6%**	23.8%	0.0%	0.0%	**100.0%**
③要介護（介護が必要な状態）	20.7%	**55.2%**	13.8%	6.9%	3.4%	**100.0%**
④要支援（支援が必要な状態）	0.0%	**66.7%**	33.3%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑤認知症	4.3%	**60.9%**	17.4%	17.4%	0.0%	**100.0%**
⑥身体障害	18.2%	**45.5%**	18.2%	18.2%	0.0%	**100.0%**
⑦知的障害	23.1%	**69.2%**	0.0%	7.7%	0.0%	**100.0%**
⑧精神疾患（発達障害など）（疑い含む）	25.0%	**50.0%**	25.0%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑨精神疾患以外の慢性疾患（がんや難病など）	20.0%	**53.3%**	20.0%	6.7%	0.0%	**100.0%**
⑩依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	14.3%	**42.9%**	28.6%	14.3%	0.0%	**100.0%**
⑪⑧、⑨、⑩以外の病気	**42.9%**	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	**100.0%**
⑫日本語を母国語としない	0.0%	**83.3%**	16.7%	0.0%	0.0%	**100.0%**
⑬その他	16.7%	**33.3%**	**33.3%**	0.0%	16.7%	**100.0%**
合計	18.6%	**52.7%**	19.0%	8.4%	1.3%	**100.0%**

※回答割合：各選択肢別上位を背景色■（オレンジ+太字）

TOPICS

- 支援を受けることに対する理解や支援の必要性についての意識が不足していることにより、支援したくても支援できない状況が一定数存在することが窺える。
- 全体として「サービスの新設・（既存サービスの）拡充」に関する意見が多く、特に「日本語を母国語としない」方をケアしている場合に、「サービスの新設・拡充」を求める声が大きい。

クロス分析⑤

- ヤングケアラーのいる家庭への支援等 -

ヤングケアラーのいる家庭が受けている支援等の状況について、アンケート及びヒアリング結果を基にケースごとに整理した

Case 1　高齢（65歳以上）の家族の世話をしている

Case 2　認知症の家族の見守りなどをしている

Case 3　身体障害（要介護）の家族をケアしている

Case 4　幼少（就学前の児童、小学生）のきょうだいの世話をしている

Case 5　精神疾患の家族をケアしている　①

Case 6　精神疾患の家族をケアしている　②

Case 7　難病の家族をケアしている

Case 8　アルコール依存症の家族をケアしている

Case 9　日本語が第一言語でない家族のために通訳などをしている

※標記に関する凡例

：最初にヤングケアラーに気付いた施設

：ヤングケアラー（YC）

：ケア・お世話が必要な方

：YC 及びケア・お世話が必要な方以外の家族

Case 1　高齢（65歳以上）の家族の世話をしている

日頃から関わりのあった民生委員が長男の負担に気付き、子供家庭支援センターに情報提供。
子供家庭支援センターを通じて各関係機関との連携が図られ、地域包括支援センターによる祖父への支援にもつながった。

子供家庭支援センター
区市町村所管部署

支援内容 >>> **効果**

- 要保護児童対策地域協議会(要対協)の枠組みを活用した関係機関との連携、情報共有
- YCへの継続的な相談支援

- 孤立感軽減
- 民間支援団体等での支援開始

YCへの支援

民間支援団体

支援内容 >>> **効果**

- 家事支援
- オンラインサロン開催
- レスパイトケアイベント開催

- 家事負担軽減
- 孤立感軽減
- 心理的安定

家族への支援

地域包括支援センター

支援内容 >>> **効果**

- 健康や生活に関する相談対応

- 不安感軽減
- 介護予防

祖父への支援

長男（中学生）：YC

父と母はいるが育児放棄により祖父と二人暮らし。
小学生のころから不登校になり、家事の大半を担うようになっている。

祖父：70歳

息子夫婦の育児放棄により孫の幼少時から二人で生活している。
介護は必要ないが、健康面に不安があり、家事の大半を孫が担っている。
自身の年金で生活を支えている。

YCへの支援

児童館

支援内容 >>> **効果**

- 居場所提供
- 見守り

- 心理的安定
- 孤立感軽減

YCへの支援

フリースクール

支援内容 >>> **効果**

- 学習支援
- 居場所提供

- 学力向上
- 社会性の発達
- 孤立感軽減
- 心理的安定

家族への支援

民生委員

自宅訪問による家庭状況の把握によりYCに気付く。要対協に参加

支援内容 >>> **効果**

- 自宅訪問による相談支援
- 本人同意の上、児童館・子供家庭支援センターへの情報提供

- 祖父の心理的安定
- 児童館・子供家庭支援センターでの支援開始

Case 2　認知症の家族の見守りなどをしている

ヤングケアラーの存在に気付いた子供家庭支援センターが各関係機関と連携。ヤングケアラーへの支援に加え、居宅介護支援事業所など祖父への支援を行う機関ともつながり、介護保険サービスが導入された。

子供家庭支援センター

近隣住民からの情報提供により祖父の徘徊を把握し、長男をYCと認知

支援内容 >>> 効果

- 学校への見守り依頼
- 要対協を主催し、地域包括支援センター等と連携し、YCの状況把握及び支援内容の検討
- 学校等での支援開始

地域包括支援センター

支援内容 >>> 効果

- YCの相談支援
- 要介護認定の申請手続補助
- 居宅介護支援事業者紹介
- YCのケア負担軽減
- 居宅介護支援事業所での支援開始

居宅介護支援事業所

支援内容 >>> 効果

- 要介護認定申請代行
- ケアプラン作成
- ショートステイの提案
- YCのケア負担軽減
- YC、父の手続負担軽減

YCへの支援

家族への支援

祖父への支援

認知症の診断を受けている。深夜徘徊あり。

妻とは離別。働いているが、収入が少なく学費を滞納することもある。仕事でほとんど家にいない。

YCへの支援

YCへの支援

祖父への支援

私立学校

支援内容 >>> 効果

- 学習支援、見守り、相談
- 子供食堂の紹介
- 孤立感軽減
- 学力向上
- 子供食堂での支援開始

子供食堂

支援内容 >>> 効果

- 食事提供
- 居場所提供
- 家事（料理）負担軽減
- 孤立感軽減

病院

支援内容 >>> 効果

- 認知症の治療（診察、投薬等）
- 認知症の進行緩和

Case 3　身体障害（要介護）の家族をケアしている

訪問看護ステーションが母への支援を行う中で子供のケア負担に気付き、地域包括支援センターに情報提供。
地域包括支援センターが中心となり、各関係機関が連携し、生活保護費の支給や長女への就労支援、母の施設入所調整等の支援が導入された。

児童相談所

支援内容 >>> 効果

- 両親の施設入所に伴い、次女を里親委託
- 次女のケア負担軽減
- 自身の時間確保

地域包括支援センター

支援内容 >>> 効果

- 母の介護プラン再検討
- 他機関(訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会(CSW)、福祉事務所)を交えた会議主催
- YCのケア負担軽減
- 居宅介護支援事業所での支援開始

社会福祉協議会

支援内容 >>> 効果

- 長女の就労支援
- CSWによる学校(YSW)との連携による会議開催
- 長女の就労による自立

福祉事務所

支援内容 >>> 効果

- 生活保護費の支給
- 長女の就労支援
- ケースワーカーの家庭訪問による、生活状況把握や相談支援
- 生活の安定
- 長女の就労による自立
- 心理的安定
- 孤立感軽減

次女への支援

次女（高校生）：YC

長女（成人）：YC

家族への支援

母の介護のため生活リズムが乱れ不登校。
料理、母の服薬管理、介護関係の連絡窓口を担当。

小学生の頃から毎日の掃除洗濯を担当。
過度な家事負担から就職できず引きこもりに。

父：無職

母：要介護認定

病気が原因で無職になり、その後、アルコール依存症になった。
施設に入所中。

長女が小学生の時に半身麻痺となり車いす生活、投薬治療。
介護保険制度を利用し、不足分は障害サービスも併用

次女への支援

公立学校（ユースソーシャルワーカー）

支援内容 >>> 効果

- 次女の状況把握及び支援内容検討
- 見守り、相談支援
- 孤立感軽減

母への支援

居宅介護支援事業所

支援内容 >>> 効果

- 介護サービス提供
- YCのケア負担軽減

母への支援

訪問看護ステーション

母へのリハビリ治療を行っている際にYCの存在に気付く

支援内容 >>> 効果

- 家庭への訪問看護
- 地域包括支援センターへの情報提供
- YCのケア負担軽減
- 地域包括支援センター等での支援開始

母への支援

特定相談支援事業所

支援内容 >>> 効果

- 相談支援
- サービス等利用計画作成
- サービス提供事業所との連絡・調整
- 障害福祉サービス受給者証取得手続の補助
- YCのケア負担軽減

Case 4　幼少（就学前の児童、小学生）のきょうだいの世話をしている

長男の様子の変化に学校が気付き、家庭の状況を把握。SSWが民間支援団体や学童クラブなど各関係機関と連携することで、子供たちが担っていた家事等の負担軽減につながった。

民間支援団体

支援内容	効果
・家事支援 ・YCへのピアサポート ・居場所提供	・家事負担軽減 ・YCの心理的安定 ・孤立感軽減

子供食堂

支援内容	効果
・食事提供 ・居場所提供	・家事負担軽減（買い物、料理など） ・孤立感軽減

YCへの支援

家族への支援

長男（中学生）：YC

小学校高学年の時に両親が離別。母の精神的支え、妹たちの食事の世話を行っており、学校以外の生活時間は家族のために費やしている。

母

夫と離別し、家計を支えるためにフルタイムで働いている。平日は帰宅が遅い。

長女（小学生）

次女（未就学児）

兄を慕っている。長女は家事の簡単な手伝いはしている。

YCへの支援

母・長女への支援

母・次女への支援

公立学校（SSW）

遅刻が増えたことにより、担任が長男に状況を聞き、YCだと気付く

支援内容	効果
・教職員による状況把握、SSWとの連携 ・SSWによる相談支援 ・子供食堂の紹介	・YCの心理的安定 ・孤立感軽減 ・子ども食堂、民間支援団体、学童クラブ、認可保育所での支援開始

学童クラブ

支援内容	効果
・放課後の居場所、遊びの場の提供 ・見守り	・長女の健全な育成 ・社会性の発達 ・母・YCの世話負担軽減

認可保育所

支援内容	効果
・次女の保育、夕食の提供 ・面談による相談支援	・次女の健全な育成 ・母・YCの育児負担、家事（料理）負担軽減 ・母の心理的安定

Case 5　精神疾患の家族をケアしている ①

父からの保健センターへの相談をきっかけに、長女の家事等の負担に気付く。医療機関との連携に加え、支援の中核を担うヤングケアラー・コーディネーターに情報提供したことで、障害福祉等の各種支援の導入につながった。

保健センター

父から長女のメンタル不調についての相談がきっかけで、長女がYCと気付く

支援内容 >>> 効果

- ヤングケアラー・コーディネーターへの情報共有
- YC、父への相談支援
- 医療機関への定期的な情報共有によるフォローアップ
- 医療機関での支援開始

病院

支援内容 >>> 効果

- YC、母、次女への医療の提供（診察、投薬、メンタルケア）
- YCの心理的安定
- 母、次女の症状緩和

特定相談支援事業所

支援内容 >>> 効果

- 相談支援
- サービス等利用計画の作成・見直し
- サービス提供事業所との連絡・調整
- YCのケア、家事負担軽減

YCへの支援

長女（高校生）：YC

家事全般や妹の身の回りの世話を担う。
妹が通学できない日には学校を休んでいる。
大学進学を考えているが、宿題の提出が遅れたり、学業に影響が出ている。
家事の負担が大きく、メンタル不調になった。

家族への支援

母：精神疾患

40代。病気により仕事を辞め、家事等もできない状況

次女（小学生）：発達障害

不登校気味ではあるが、学校には通えている。

父

仕事で平日はほとんど家にいない。
休日は家族の通院に付き添っている。各支援機関とのやり取りを行っている。

YCへの支援

ヤングケアラー・コーディネーター

支援内容 >>> 効果

- 家庭訪問での相談支援
- フリースクールの紹介
- フリースクールでの支援開始

フリースクール

支援内容 >>> 効果

- 学習支援
- 学校との情報共有
- 居場所提供
- 学力向上
- 社会性の発達
- 孤立感軽減
- 心理的安定

次女への支援

放課後等デイサービス

支援内容 >>> 効果

- 多様な遊びや体験活動の機会提供
- 自立支援のための活動
- 情緒の安定
- 社会性の発達

Case 6　精神疾患の家族をケアしている ②

子供家庭支援センターが家庭状況を把握する中で、長男の負担に気付く。子供家庭支援センターを通じて各関係機関との連携が図られ、保健・医療・障害福祉・教育・生活福祉の幅広い支援につながった。

保健所

支援内容 >>> 効果

- 保健師によるYCとの定期面談、医療機関との調整
- 障害福祉機関や医療機関等と連携した対応

- 孤立感軽減、心理的安定
- 医療機関での支援開始

病院

支援内容 >>> 効果

- YCへの医療の提供（診察、投薬、メンタルケア）

- YCの心理的安定
- YCの症状緩和

基幹相談支援センター

支援内容 >>> 効果

- 相談支援
- 長女への障害福祉サービスの利用を提案
- 関係機関との連携

- 特定相談支援事業所での支援開始

特定相談支援事業所

支援内容 >>> 効果

- 相談支援
- サービス等利用計画作成
- サービス提供事業所との連絡・調整
- 障害福祉サービス受給者証取得手続の補助

- 家族のケア負担軽減

YCへの支援

YCへの支援

長女への支援

長女への支援

長男（高校３年生）：YC（発達障害）

母親と折り合いが悪く、ほぼ家にいない。
毎日アルバイトをして、家族の生活費を稼いでいる。
大学に進学したいが、経済的に不安。メンタル不調に陥り、過呼吸や不眠の症状がある。

母

夫とは離別。
精神的に不安定で、無職だが家事もしていない。

長女（中学生）：発達障害

発達障害の診断を受けている。
家事などは行っていない。

祖母

無職。
娘家族の家事を手伝っている。

YCへの支援

家族への支援

家族への支援

公立学校

支援内容 >>> 効果

- 学習支援
- 進路相談
- 見守り
- スクールカウンセラーによるカウンセリング

- 心理的安定
- 学力向上

子供家庭支援センター

近隣住民からの情報提供により、母にネグレクトの疑いを持ちYCに気付く

支援内容 >>> 効果

- YCが18歳を迎えたため、支援が途切れないよう保健所と情報共有
- 要対協の枠組みを活用した他機関との情報共有
- 相談支援

- 孤立感軽減
- 心理的安定
- 連携先機関での支援開始

福祉事務所

支援内容 >>> 効果

- 生活保護費支給
- ケースワーカーの家庭訪問による生活状況把握、相談支援
- 奨学金制度の紹介

- 家計の安定
- 心理的安定
- 教育機会拡充

Case 7　難病の家族をケアしている

長男が通う高校が家庭状況を把握し、子供家庭支援センターに情報提供。子供家庭支援センターが長男の高校卒業を見据え、年齢によって支援が途切れることがないよう、若者支援機関と連携した。

公立学校（ユースソーシャルワーカー）（スクールカウンセラー）

担任が長男との面談により家庭状況を把握し、YCに気付く

支援内容 >>>> 効果

- 子供家庭支援センターへの情報提供
- 学習支援
- YSWによる相談支援、見守り
- SCによるカウンセリング

- 孤立感の軽減
- 心理的安定
- 学力向上
- 子供家庭支援センターでの支援開始

学習支援教室

支援内容 >>>> 効果

- 学習支援
- 食事提供
- 居場所提供

- 学力向上
- 孤立感軽減
- 心理的安定
- 家事負担軽減

病院

支援内容 >>>> 効果

- 医療提供（診察、投薬、緩和ケア）
- MSWによる相談支援

- 痛み等の症状緩和
- 心理的安定

YCへの支援

YCへの支援

母への支援

長男（高校3年生）：YC

小学生の時に父を癌で亡くしている。
母の余命宣告も認識している。
常に母の病状を気にしながら家事を行っており、学校も遅刻しがち。

母：癌にり患

難病を患っており、自宅療養中。
家事は最低限行っている。
夫とは死別。

YCへの支援

YCへの支援

子供家庭支援センター ヤングケアラー・コーディネーター

支援内容 >>>> 効果

- 要対協の枠組みを活用して他機関と情報共有
- YCが18歳のため、子ども・若者総合相談支援センターに共有
- 相談支援
- 学習支援教室の紹介

- 孤立感軽減
- 心理的安定
- 子ども・若者総合相談センター、学習支援教室での支援開始

子ども・若者総合相談センター

支援内容 >>>> 効果

- 相談支援
- 大学の奨学金制度の情報提供

- 心理的安定
- 教育を受ける機会の確保

Case 8　アルコール依存症の家族をケアしている

長女が通う中学校が家庭状況を把握し、SSWがフードバンクや社会福祉協議会、自立相談支援機関を紹介。
ヤングケアラーへの支援に加え、母の自立に向けた支援等にもつながった。

公立学校

担任が長女との面談により家庭状況を把握し、YCに気付く

支援内容 >>> 効果

- SSWによる相談支援
- 見守り
- 学校内での情報共有（教員、SC、SSW）
- フードバンクの紹介

- 孤立感軽減
- 心理的安定
- フードバンクでの支援開始

フードバンク

支援内容 >>> 効果

- 自宅への食品宅配
- 宅配時の家庭状況把握

- 家事負担軽減
- 孤立感軽減

病院

支援内容 >>> 効果

- 医療提供（診察、投薬等）

- 症状改善
- 就労意欲向上
- 母の症状緩和
- YCのケア負担軽減

YCへの支援

家族への支援

母への支援

長女（中学生）：YC

家事全般を担い、母の顔色を窺いながら生活を送っている。
日常的に母の愚痴を聞き、身の回りの世話もしている。
通学は問題ないが将来が不安と感じている。

母：アルコール依存

夫と離別、無職。アルコール依存症治療中。
元夫から養育費は貰っているが、生活は困窮している。
精神的に不安定な部分があるため、長女に不満をぶつけることがある。自身の身の回りの世話も長女に頼っている。

家族への支援

母への支援

社会福祉協議会

支援内容 >>> 効果

- 生活福祉資金の貸付

- 生活の安定

自立相談支援機関

支援内容 >>> 効果

- 経済的自立のための相談支援
- 就労支援
- 社会福祉協議会に相談し、生活福祉資金を貸付依頼

- 母の自立
- 社会福祉協議会での支援開始

Case 9　日本語が第一言語でない家族のために通訳などをしている

地域で活動している民生委員が情報を得て、子供たちの家事や通訳の負担に気付き、子供家庭支援センターに情報提供。
民間支援団体による通訳支援等を導入することで、子供たちの負担の軽減につながった。

公立学校

支援内容

- 相談支援
- 声かけ等による見守り
- 学校内での情報共有（教員、SSW）

効果

- YCの心理的安定

民生委員

近隣住民からの情報提供によりYCに気付く

支援内容

- 自宅訪問による相談支援
- 本人同意の上、子供家庭支援センターへの情報提供

効果

- 心理的安定
- 子供家庭支援センターでの支援開始

YCへの支援

長女（小学校高学年）：YC

きょうだいで家事全般を行っている。弟の世話もしている。
日本語がわからない両親のため、必要な時に通訳をしている。両親の代わりに地域との連携の窓口となっている。

長男（小学校低学年）：YC

きょうだいで家事全般を行っている。常に姉とともに行動している。
日本語がわからない両親のため、必要な時に通訳をしている。

家族への支援

父：外国籍

日本語がわからないため、子供に通訳を頼っている。
日中は働いていて家にいない。

母：外国籍

日本語がわからないため、子供に通訳を頼っている。
夜間働いていて家にいない。
日中は睡眠に充てていて、家事がほぼできていない。

YCへの支援

子供家庭支援センター

支援内容

- 家事支援
- 相談支援
- 民間支援団体との連携

効果

- 家事負担軽減
- 孤立感軽減
- YCの心理的安定
- 民間支援団体での支援開始

家族への支援

民間支援団体

支援内容

- 父母への通訳支援
- YCへのレスパイト・ピアサポートの機会提供

効果

- YCの通訳負担軽減
- YCの心理的安定
- 孤立感軽減

結果概要

- 調査結果にみる支援の現状 -

結果概要（調査結果にみる支援の現状）

ヤングケアラー支援についての認知　－法改正・定義・関係機関－

- 「ヤングケアラーに関して法改正がなされたこと」及び「法改正により明文化されたヤングケアラーの定義」の認知について、いずれの設問においても**「よく知っている」と回答した割合が最も高かったのは、児童福祉、若者支援、保健の分野**であった。
- 「ヤングケアラー支援の関係機関」の認知についても同様の傾向がみられ、**その他分野では、法改正やヤングケアラーの定義、関係機関についての認知度が低い傾向**にあった。

設問1：法改正について

分野	児童福祉	教育機関	若者支援	高齢者福祉	障害福祉	医療	保健	生活福祉	地域	合計
よく知っている	**56%**	39%	**63%**	16%	16%	6%	**53%**	21%	16%	19%
ある程度知っているが詳しくは知らない	36%	**51%**	38%	**60%**	**49%**	**50%**	38%	**60%**	**51%**	**52%**
聞いたことはある	9%	9%	0%	18%	26%	19%	9%	15%	23%	21%
知らなかった	0%	2%	0%	7%	8%	25%	0%	4%	10%	8%

設問2：ヤングケアラーの定義について

分野	児童福祉	教育機関	若者支援	高齢者福祉	障害福祉	医療	保健	生活福祉	地域	合計
よく知っている	**76%**	**59%**	**75%**	22%	29%	13%	**56%**	37%	29%	34%
ある程度知っているが詳しくは知らない	16%	36%	25%	**68%**	**54%**	**63%**	41%	**56%**	**54%**	**52%**
聞いたことはある	4%	4%	0%	9%	14%	13%	3%	3%	13%	11%
知らなかった	4%	1%	0%	1%	3%	13%	0%	4%	4%	3%

設問5：ヤングケアラー支援の関係機関について

分野	児童福祉	教育機関	若者支援	高齢者福祉	障害福祉	医療	保健	生活福祉	地域	合計
ヤングケアラーに気付いた際に連携が必要な施設については知っている	**71%**	**49%**	**75%**	31%	25%	31%	**76%**	44%	28%	31%
一部のみ知っている／関係機関として知らなかった分野があった	24%	47%	25%	**62%**	**59%**	**38%**	24%	**49%**	**54%**	**53%**
知らない	4%	4%	0%	7%	16%	31%	0%	7%	19%	16%

- 高齢や障害、医療分野等では「詳しく知らない」という機関が多かったが、こうした機関においては、どうしても当事者の方への支援が中心になりがちで、その背景にいる家族の状況や、ケアラーになっている子供の状況を把握することにまでは、注意が向きにくい状況なのだと思います。（検討委員）

関係機関との連携について　－連携の意識・支援に関する共通認識－

- 他の機関と連携しなかった理由は分野ごとに様々だが「**連携意識を持っていなかったこと**」、「**連携先や方法等がわからなかったこと**」が一定数を占めている。
- **高齢者福祉・障害福祉分野**など、居宅訪問する機会のある機関・施設は、支援・サービスを提供する中でヤングケアラーに気付く機会が多いが、「**どのような機関と連携すればよいかわからなった**」と回答した割合が高い。ヒアリングにおいても、特に**行政機関内の所掌が分かりにくい**との声が聞かれた。
- ヒアリングでは、**機関・施設同士の認識のずれ等により連携が上手くいかないことがある**との声があった。

設問15：連携しなかった理由について

分野	児童福祉	教育機関	若者支援	高齢者福祉	障害福祉	医療	保健	生活福祉	地域	合計
他機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0%	11%	0%	20%	**19%**	-	0%	0%	12%	12%
どのような機関と連携すればよいかわからなかった	0%	19%	0%	23%	15%	-	0%	13%	7%	12%
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	13%	0%	0%	3%	15%	-	0%	**31%**	7%	8%
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	0%	6%	0%	6%	0%	-	0%	13%	11%	8%
家族の個人情報を共有することができなかった	0%	8%	0%	3%	0%	-	0%	6%	12%	8%
自施設における既存の支援に時間をかける必要があり、余力がなかった	0%	0%	0%	6%	12%	-	0%	0%	6%	5%
連携について相談・依頼したが、先方から断られた	13%	3%	25%	6%	4%	-	0%	0%	3%	4%
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	**50%**	33%	**75%**	6%	15%	-	**100%**	19%	13%	18%
その他	25%	19%	0%	**29%**	**19%**	-	0%	19%	**29%**	**25%**

アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 世帯の中で誰をメインに支援するべきか（ケアが要る人かヤングケアラー本人か）について、各機関で認識がずれやすい。（子ども・若者総合相談センター）
- 互いにどのような支援をどこまで行っているのかが、分かりづらい。（民間支援団体）
- 公的機関の教育と福祉と子どもに関する対応部署が縦割りのため、民間事業所として振り回されてしまう。（基幹相談支援センター）
- 児童福祉機関との連携は上手くいかなかった。当時はヤングケアラー・コーディネーターがいなかったが、いたら助かったと思う。（地域包括支援センター、特定相談支援事業所）

- 繋いだ側は、その後どうなったのかを気にするため、一層連携を促進していくためには、連携した後の動向や結果を適宜共有する関係を築くことが重要になります。（検討委員）
- ケアマネジャーへの研修の際に「とにかくヤングケアラー・コーディネーターに繋いでください」と案内したところ、その後は連携先に関する問合せが激減したという話をよく聞きます。各分野で実施している研修の機会を捉え、繋ぎ先を明確に伝えられると、かなり解消する可能性があります。（検討委員）

結果概要（調査結果にみる支援の現状）

関係機関との連携について　－個人情報の共有－

- ヒアリングでは、他機関への個人情報の共有について、「**本人や家族からの同意が得られない**」「**個人情報の共有がなされないことにより、支援が難しい、止まってしまう**」との声が複数見受けられた。
- また、ヤングケアラーに気づき、他機関に連絡・連携したものの、その後の**相手機関からの情報共有がなく現状を把握できないことから、自施設において支援内容を検討することが難しい**場面があったという意見も見受けられた。

設問15：連携しなかった理由について

分野	児童福祉	教育機関	若者支援	高齢者福祉	障害福祉	医療	保健	生活福祉	地域	合計
他機関と連携をする必要性について意識を持っていなかった	0%	11%	0%	20%	**19%**	-	0%	0%	12%	12%
どのような機関と連携すればよいかわからなかった	0%	19%	0%	23%	15%	-	0%	13%	7%	12%
具体的な連携方法・情報共有する内容がわからなかった	13%	0%	0%	3%	15%	-	0%	**31%**	7%	8%
ヤングケアラー本人の個人情報を共有することができなかった	0%	6%	0%	6%	0%	-	0%	13%	11%	8%
家族の個人情報を共有することができなかった	0%	8%	0%	3%	0%	-	0%	6%	12%	8%
自施設における既存の支援に時間をかける必要があり、余力がなかった	0%	0%	0%	6%	12%	-	0%	0%	6%	5%
連携について相談・依頼したが、先方から断られた	13%	3%	25%	6%	4%	-	0%	0%	3%	4%
自施設内のみで支援可能であり、連携は不要と判断した	**50%**	33%	**75%**	6%	15%	-	**100%**	19%	13%	18%
その他	25%	19%	0%	**29%**	**19%**	-	0%	19%	**29%**	**25%**

アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 要保護児童対策地域協議会で取り上げられるケースは連携しやすい。子供食堂や民間施設、NPO法人とのやり取りは、本人の同意を得る必要があるため難しさがある。（子供家庭支援センター）
- 学校と個人情報のやり取りができないことがあり、その場合は具体的に支援していくことが難しい。（子供家庭支援センター）
- 教育、福祉、医療が情報を共有することが大切だが、個人情報保護とのバランスが課題と感じる。（公立小学校）
- 連携機関や担当者が複数に及ぶと、同じ説明を何度もしなければならない。情報を一度に共有する仕組みがあると良い。（私立中学校）

- 要保護児童対策地域協議会など、個人情報の共有が法的に許可されている会議体に、関係機関をメンバーとして入れていくと、情報共有の課題がクリアになっていくのではないか。（検討委員）

関係機関との連携について（18歳以上）　－切れ目のない支援体制－

- 児童福祉及び教育機関において、支援対象年齢から外れる際の若者支援機関への連携については、**半数程度が実施していない**との結果となった。
- ヤングケアラーが**18歳を迎えた場合、児童福祉の支援対象から外れ、これまで受けていた支援が受けられなくなる**という声が見受けられた。
- 18歳以上のヤングケアラーの支援担当部署が定まっていないことや、アウトリーチ型の支援ができる機関が減るとの声も複数見受けられた。

設問39：児童福祉・教育機関における18歳以上の若者支援機関への連携の有無

分野	児童福祉		教育機関							合計
詳細分野	子供家庭支援センター	児童相談所	公立小学校	公立中学校	公立高等学校	その他公立（中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校）	私立小学校	私立中学校	私立高等学校	
行っている	**14**	**2**	**0**	0	1	0	**0**	0	2	19
行っていない	4	0	**0**	**1**	**6**	**1**	**0**	**2**	**6**	**20**
合計	**18**	**2**	**0**	**1**	**7**	**1**	**0**	**2**	**8**	**39**

アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 児童相談所は対象年齢が定められているため、18歳を超える場合、下のきょうだいがいれば継続した見守りを行えるが、いない場合は途切れてしまう。切れ目のない支援が課題。（児童相談所）
- 関わっていたヤングケアラーが、18歳を過ぎて子供家庭支援センターの支援対象から外れ、支援してくれる機関が減ってしまった。就労支援や地域の居場所（NPO）等を紹介したいのだが、本人の母が受け入れない。こうした状況では、コーディネーターのような人材が個別に関わらないとこれ以上の支援は難しいと感じる。（民生委員）
- 18歳以上のヤングケアラーを把握し、相談窓口となる部署が定まっていないという課題がある。（子供家庭支援センター）
- 子ども・若者支援地域協議会についても、要保護児童対策地域協議会と同様に、構成員同士であれば、ヤングケアラーがケアをしている家族についての情報も含めて、本人や家族の同意なしに共有できる仕組みを構築してほしい。（子供家庭支援センター）

結果概要（調査結果にみる支援の現状）

支援について　－支援を受けることへの抵抗・理解不足－

- 家庭に介入されることに抵抗感がある、支援を必要としていない、必要性を理解していない等の回答が多く、**施設としては支援を提案しているものの、ヤングケアラー本人やその家族から理解が得られない**ために、支援につなげられていない状況が窺える。
- 関係性を築けていない人・機関からの支援は拒絶されがちであるため、スポット的に支援するだけでなく、**長期的に関係を持ち家族からの信頼を得ることが重要である**との声が複数寄せられた。

設問27：支援・サービスを利用していない/できていない理由について

分野	児童福祉	若者支援	保健	地域	合計
提案したが利用を拒まれた	58%	57%	41%	45%	49%
施設として支援・サービスは不要と考えている	6%	14%	24%	18%	15%
該当サービスがない	18%	14%	24%	7%	13%
手続き能力の不足	3%	0%	0%	5%	4%
家庭内のルール（子どもを介護力としている）	0%	14%	12%	7%	6%
経済的問題	6%	0%	0%	5%	4%
疾病・疾患のため	9%	0%	0%	7%	6%
その他	0%	0%	0%	5%	3%

アンケート調査の自由記述を基に項目を分類し集計

アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 精神疾患を持つ親をケアするために子供がヤングケアラーになるケースがあるが、親に「支援を受ける必要がある」と認識してもらうことが難しい。（保健センター）
- 共依存の状態で、本人及び家族が介入を望まない場合、家庭内の意識を変えていくのが難しいと感じている。（特定相談支援事業所）

- 自立したいという思いの強い家族ほど、一方的に助けてもらっている肩身の狭さや居心地の悪さのようなものを感じ、支援を受けることにすごく抵抗感を抱いてしまう。（検討委員）
- 食べ物を届けてもらったお礼から始まり、そこから一言二言定期的に挨拶する関係性ができあがり、立ち話をする間柄に発展する。家庭教師に対して「実は…」と切り出す。抵抗なく家庭に受け入れてもらえるきっかけとしては、すぐに役に立つ弁当の配食支援や学習支援など、家庭が羞恥心を感じにくい入口が効果的である。（検討委員）

支援について　－既存の支援・サービスの利用条件－

- **障害・介護サービスの対象はケア対象者のみであるものが多く**、ヤングケアラー本人への支援には利用できないことがあるなど、既存の支援・サービスの利用条件等についての課題認識を述べる意見が見受けられた。
- 既存制度の支給決定について、**自治体によって対応に差がある**との意見も見受けられた。

アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 高齢・障害・ひとり親等を対象とした居宅介護支援の事業があるが、介護が必要な本人に対するものであり、子供にケア負担が生じていることのみを以てサービスを適用することはできない。サービスを利用したい状況はあっても、利用条件と合致しないことがある。（子供家庭支援センター）
- ヘルパーは大人が家にいないと入れないため、子供だけが家に残されている状況では、家事支援を利用してもらえないことがあった。（子供家庭支援センター）
- 病気の父（ひとり親）と幼いきょうだいの世話をしていたため、父に対して介護保険サービスの家事支援を利用していたが、その後、父が亡くなり子供だけになった際に対象外となり、使えなくなった。他の家事支援サービスを探したが、適切なものが見当たらなかった。（地域包括支援センター）
- 介護保険にも障害サービスにも当てはまらない比較的軽度な疾病・障害を抱えた世帯においてもヤングケアラーは存在する。その「隙間」に対しても、何らかの支援を作っていく必要があるのではないか。（居宅介護支援事業所）
- ヤングケアラー支援に限った話ではないと思うが、居宅介護支援の事業一つ取っても、支給決定の判断に関して自治体間の格差が大きいように感じる。（特定相談支援事業所）

結果概要（調査結果にみる支援の現状）

支援について　－地域の居場所等の役割－

- **民生委員・児童委員**等や**社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー**など、地域の中で個別の家庭に長期的に関与している存在が、ヤングケアラーのいる家庭と関係機関とを繋ぐ役割を果たしている状況が窺える。
- 児童館や学童クラブ、子供食堂、フリースクール、学習支援教室等の地域の子供の居場所は、子供と接する機会が多く、ヤングケアラーに気付くための重要な役割を担っているが、これらで働く**職員等にヤングケアラーに関する知識が浸透していないと感じている**との声が複数見受けられた。
- **地域の居場所等のサービス・リソースの存在が、各家庭に認知されていない**とする声もあった。

▶ アンケート自由記述、ヒアリング（抜粋）

- 社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーが、地域のことをよく知っていて、どうやって家庭に介入するのがよいかというアイディアも出してくれる。（地域包括支援センター）
- 支援している家庭が社会福祉協議会とも繋がっていて、一緒に家を訪問していた。（子供家庭支援センター）
- 地域に子供が少ないためか、児童委員がいない。（特定相談支援事業所）
- 本人にケアラーという自覚がないことや親が本人に口止めをしているケースもあるため、問題把握の難しさがある。子供に関わる全ての職員が、ヤングケアラー支援についての知識を正しく持ち、子供の権利侵害の観点で観察し適切に支援につなげられるようにすることが必要である。（児童館）
- 支援が必要な全ての子供に、子供食堂についての情報が行き届いているという実感がない。公的機関から、利用できるサービスについてもっと周知してほしい。（子供食堂）

- 社会福祉協議会や民生委員等の関わりは非常に重要である。
  民生委員は、福祉事務所からの情報等を基にして支援が必要な方への家庭訪問や、学校と連携して家庭の見守り等の状況把握等をしているところがある。また、社会福祉協議会は子供食堂との連携等も盛んである。こうした関係者・関係機関の協力も得ながら、児童相談支援体制として地域の居場所の開拓・開発も合わせて行っていくことが大切である（検討委員より）